群馬県石造文化財総合調査報告書

庚申塔と月待・日待塔

上州の近世石造物(二)

群馬県教育委員会

群馬県石造文化財総合調査報告書

庚申塔と月待・日待塔

上州の近世石造物(二)

群馬県教育委員会

序　文

道端の石垣の上に肩を寄せ合う男女二神、憤怒の形想で邪鬼を踏まえる青面金剛、今は人通りも絶えた旧道の辻に斜めに立つ道しるべ、山裾に林立する百庚申の文字塔などなど。一時代前には、県内各所で普通に見かけた風景です。

最近の社会環境の急激な変化により、これらの石造文化財は危機に瀕しております。他処へ移動され、あるいは瓦礫の如く山積みにされ、首をもがれ、更には不心得者により持ち去られる石仏も少なからずあると聞きます。まさに石造文化財ご難の時代と言ってよいでしょう。

このような現状に鑑み、昭和五十八年度から三か年計画で「石造文化財総合調査」を実施して参りましたが、昭和六十年度で一応終了し、近世石造文化財保護の基礎資料が集積されたと考えます。

夏の調査では、背丈をこえて生い茂る草を切り払い、日影ではヤブ蚊に悩まされ、冬には雪の下から掘り出した石仏の寸法を凍える手で測り、銘文を記録する。また写真撮影では、良い光線を求めて同じ崖を何回もよじ登るといった、難行苦行の連続であったと聞いております。調査に当った県下七〇市町村二〇〇余名の調査員各位の、このようなご労苦と、各市町村教育委員会の担当職員各位をはじめ本調査に陰に陽にご協力を賜った皆様方に、改めて深甚なる謝意を表する次第であります。

ここに発刊の運びとなった調査報告書が、県民各位に活用され、石造文化財ひいては民俗文化財に対するご理解と文化財保護思想の涵養の一助になれば幸甚であります。

昭和六十一年三月三十一日

群馬県教育委員会

教育長　千吉良　覚

目次

序　文……群馬県教育委員会　教育長　千吉良　覚
凡　例
口　絵
上州の近世石造文化財（概論）……近藤義雄……37
上州の庚申塔と日待・月待塔……今井英雄……54
上州の庚申塔（市町村別）……73
上州の日待・月待塔（市町村別）……265
上州の庚申塔分布図(1)・(2)……（折込み）
上州の月待塔分布図(1)・(2)……（折込み）
石造文化財総合調査調査員名簿

凡　例

一、本書は、昭和五八～六〇年度に実施された「石造文化財総合調査」に於て、各市町村から提出された調査票をもとに、庚申塔、日待塔及び月待塔についてまとめたものである。

二、本書の編集は県教育委員会文化財保護課で行った。

三、口絵の写真は、調査票添付の写真のうちから適宜掲載した。

四、庚申塔及び日待・月待塔の一覧表は、市町村毎にまとめ、番号は市町村毎の通し番号とした。

五、表中の「形」については以下のとおりである。

(1)　庚申塔。「文」は文字庚申塔（庚申、青面金剛、猿田彦大神、梵字塔など）。「青面」は青面金剛像塔。「殿」は石殿（石祠）形庚申。「灯」は灯篭形庚申。「層」は層塔形庚申。「像」は地蔵菩薩等青面金剛像以外の像容庚申塔。「猿」は山王猿像など猿を中心とした像容の庚申。「臼」は石臼形の庚申。「他」はその他の形をとる庚申。

(2)　日待・月待塔。「文22」「像(如・22)」はそれぞれ文字塔で二十二夜待塔、如意輪観音像で二十二夜待塔を示す。「像（勢・23）」は勢至菩薩像の二十三夜塔を示す。「文（巳）」「文（甲子）」「文（弁）」「文（大）」はそれぞれ文字の巳待塔、甲子待塔、弁財天、大黒天を示す。「像（弁）」「像（大）」はそれぞれ弁才天像、大黒天像を示す。「日」「月」はそれぞれ日待塔、月待塔を示す。

六、「所在地」は大字以下の地名で示す。

七、「方量」は高さ、幅、総高を記し、高さは主体部（身部）の高さを、幅は主体部の最大幅を、総高は地上の最高値を示す。

八、「年代」は、元号を用い算用数字で示す。なお安政七年は「安政7」と、寛政庚申年は「寛政12」のように示した。年代が確定できない場合は「不明」とした。

九、「銘文」は原則として調査票記載のとおりとしたが、左のように変更した箇所もある。

(1)　異字・旧字は当用漢字に、変体仮名又は元の漢字又は平がなで示した。

(2)　文字不明の箇所は「□□」「[□□]」のように示した。

(3)　人名多数の場合は（他六名略）（女性名六名略）のように示した。

(4)　銘文の配列は、適宜変更してある。

十、庚申塔、日待・月待塔ともに紙数の都合で主要なものを掲載し全容については、巻末の「市町村別造塔数一覧」で示した。

庚申塔一

二猿庚申（延宝元）
前橋市公田町熊野神社

青面金剛像（宝暦十三）
前橋市西大室町　観昌寺

青面金剛像（明和三）
高崎市下日高　行人像

百庚申（嘉永四）
高崎市貝沢町　不動寺

庚申塔（寛文九）
伊勢崎連取町　上吉良墓地

青面金剛像（元禄七）
伊勢崎市国領町

庚申塔二

青面金剛像（正徳二）
太田市寺井　聖王寺

地蔵庚申（延宝二）
太田市寺井　聖王寺

青面金剛像（延宝二）
沼田市材木町　舒林寺

層塔庚申（不明）
沼田市原町　愛宕神社

青面金剛像（宝永二）
館林市仲町　観性寺

三猿庚申（寛文十二）
館林市　羽附　新興

庚申塔三

層塔庚申（承応四）
渋川市並木町　遍照寺

青面金剛と馬頭尊
渋川市入沢　鼻欠地蔵

青面金剛像（元文年間）
藤岡市下日野　高井戸

猿田彦大神（安政七）
藤岡市中栗須　神明宮

かのえさる（文政二）
藤岡市上栗須　赤城神社

一石百庚申（万延元）
富岡市上丹生

庚申塔四

庚申守夜塔（文化四）
富岡市小野　阿弥陀堂

猿像（庚申童子）（享保九）
富岡市額部

石殿庚申（寛永二）
安中市八本木　延命地蔵

青面金剛像（元禄九）
安中市上磯部　観音堂

馬頭尊庚申（元禄五）
北橋村小室　東丸山

石殿庚申（延宝五）
北橋村小室　第一

庚申塔五

青面金剛像（不明）
赤城村津久田　福増寺

庚申供養（元禄八）
赤城村敷島　諸田

庚申塔（万延元）
富士見村田島

大青面金剛宝塔（文化十）
富士見村原之郷　円竜寺

青面金剛像（不明）
大胡町上大屋　観音堂

庚申（安永五）
大胡町河原浜　応昌寺入口

庚申塔六

燈籠庚申（延宝八）
宮城村苗ヶ島　金剛寺

青面金剛塔（寛保三）
宮城村苗ヶ島　金剛寺

青面金剛像（享保十一）
新里村奥沢東部

一石百庚申（嘉永九）
粕川村深津　西福寺

青面金剛像（享保十一）
新里村　山上天竺

百庚申（寛政七）
粕川村月田　近戸神社

庚申塔七

庚申塔（宝永三）
黒保根村八木原上

青面金剛像（不明）
黒保根村　清水観音堂

青面金剛像（文化十）
榛名町本郷　蔵屋敷

青面金剛像（享保五）
倉渕村三之倉　全透院

石殿庚申（万治二）
榛名町下里見　郷見神社

庚申（万延元）
倉渕村　水沼中郷

庚申塔八

青面金剛像（元禄五）
箕郷町　駒寄

上章沮灘（元延元）
箕郷町白川　竹ノ鼻

百庚申（元治元）
群馬町北原村西

庚申塔（延宝八）
群馬町北原村西

庚申塔（万延元）
子持村白井　大宮神社

庚申塔群（層塔は承応二）
子持村中郷　双林寺前

庚申塔九

青面金剛像（不明）
小野上村小野子程久保

大青面金剛宝塔（嘉永二）
小野上村村上古城台

庚申（嘉永元）
伊香保町伊香保

層塔庚申（延宝元）
榛東村山子田　柳沢寺

青面金剛像（元禄十四）
榛東村山子田　地蔵堂

青面金剛像（明和四）
吉岡村南下

庚申塔十

青面金剛像（宝永元）
吉岡村大久保田端

守庚申会記（万延元）
新町五区　諏訪神社

青面金剛像（文化九）
鬼石町鬼石　福持寺

青面金剛像（元禄十四）
万場町下宿

青面金剛像（元禄五）
万場町下宿

青面金剛像（不明）
中里村伝田郷

庚申塔十一

庚申塔（寛政十二）
中里村神ヶ原

三尸怨（寛政十二）
下仁田町西牧

庚申（寛政十二）
上野村野栗沢

青面金剛像（万延元）
下仁田町馬山柚瀬百庚申

青面金剛像（享保四）
上野村乙父千日堂

青面尊像（元禄十三）
南牧村勧能前日向

庚申塔十二

庚申供養塔（元文五）
南牧村羽根沢　蛇見堂

青面金剛（寛政三）
松井田町下増田　赤坂

青面金剛像（天保六）
甘楽町国峰　興厳寺

庚申（万延元）
松井田町中宿　補陀寺

梵字庚申（寛政十二）
甘楽町　善慶寺

石殿（燈籠）庚申（寛文八）
中之条町赤坂

庚申塔十三

青面金剛（元禄三）
中之条町中之条　清見寺

青面金剛像（寛政十二）
吾妻町泉沢　渡戸観音

青面金剛尊（文化十三）
吾妻東村岡崎　榛名神社

百体庚申供養（天保十四）
吾妻町須賀尾　諏訪神社東

青面金剛
吾妻東村　御園観音

庚申塔（安永五・右　文化五・左）
長野原町林観音堂

庚申塔十四

庚申塔（不明）
長野原町　川原湯神社

庚申供養塔（文化十四）
六合村生須

庚申（文化五）
草津町草津　光泉寺

奉造立庚申供養（延宝八）
高山村中山五領

庚申供養塔（不明）
草津町　前口観音堂

青面金剛像（享保十一）
高山村中山判形

庚申塔十五

石殿庚申（延宝八）
白沢村尾合中村

青面金剛像（享保十四）
利根村　根利

層塔庚申（万治二）
白沢村平出　平出神社

層塔庚申（承応三）
川場村谷地　桂昌寺

青面金剛像（正徳元）
利根村　柿平観音堂

青面金剛像（元文五）
川場村生品　大日堂

庚申塔十六

庚申塔（不明）
片品村東小川中井

三猿庚申（不明）
水上町大穴　大見堂

層塔庚申（延宝四）
片品村土出　伊閑町

青面金剛（寛保二）
月夜野町下津南区

青面金剛（宝永）
水上町綱子

庚申塔（寛政十二）
月夜野町　下津竹改度

庚申塔十七

層塔庚申
新治村相俣　海円寺

庚申（文化十）
赤堀村今井　宝珠寺

庚申神（万延元）
新治村相俣浅地

青面金剛像（延宝八）
境町平塚　天人寺

青画金剛像（宝暦六）
赤堀町下触　万徳寺

奉造立庚申供養（正徳二）
境町島村

庚申塔十八

青面金剛像（元禄四）
玉村町板井八幡宮

青面金剛像（宝永二）
尾島町前小屋

石白庚申（不明）
玉村町南玉　金蔵寺

青面金剛像（元禄十五）
新田町下江田　最勝寺

三猿庚申（寛文八）
尾島町大館

青面金剛像（元禄）
新田町上江田

庚申塔十九

地蔵庚申（延宝）
藪塚本町　藪塚湯ノ入

梵字庚申（寛文十）
笠懸村　阿佐美

奉造立庚申供養塔（寛文十二）
藪塚本町　藪塚西野

青面金剛像（元文五）
大間々町　高津戸川面

百庚申
笠懸村阿佐美　南光寺

二猿庚申（延宝八）
明和村　矢島公民館

庚申塔二十

三猿庚申（寛文十二）
明和村矢島公民館

梵字庚申（寛政十一）
千代田町舞木　薬師堂

青面金剛像（延宝五）
明和村　斗合田　薬王寺

青面金剛像（延宝八）
千代田町瀬戸井　宝生寺

庚申塔二十一

庚申供養塔（元文五）
大泉町上小泉　正眼寺

青面金剛像（享保二）
邑楽町中野大根村

庚申塔（宝暦十二）
大泉町下小泉　正善院

青面金剛像（宝永四）
邑楽町秋妻　光林寺

日待・月待塔一

廿二夜供養（明和六）
前橋市西大室町観昌寺

廿一夜塔（天保十二）
沼田町坊新田町了源寺

大黒天
高崎市下日高諏訪神社

日待層塔（承応四）
沼田市戸神町虚空蔵様

二十三夜（嘉永四）
伊勢崎市戸谷塚町

十九夜供養塔（宝暦十一）
館林市成島小蓋公民館

日待・月待塔二

弁財天（宝暦十一）
館林市上林山

廿二夜佛（天保四）
富岡市下黒岩

甲子（元治元）
藤岡市上戸塚戸塚神社

三光寺供養塔（明和二）
安中市上ノ尻愛岩神社下

大黒天（元治元）
渋川市並木町　遍照寺

日待塔（承応三）
赤城村長井小川田年丸

日待・月待塔三

二十一夜塔（元文五）
北橘村

弁財天（天明七）
柏川村

廿一夜塔（天明元）
富士見村米野

巳需塔
新里村

二十一夜
大胡町

三日月神（天保四）
黒保根村

日待・月待塔四

二十二夜塔（天保五）
榛名町上里見間野

二十二夜
群馬町

弁財天
倉渕村

十六夜念仏供養
小野上村

廿三夜待供養塔（天明五）
箕郷町　西明屋

二十一夜念仏供養（明和七）
榛東村山子田

日待・月待塔五

廿二夜待供養
吉岡村

二十二夜（天保十三）
鬼石町浄法寺

二十二夜待供養塔
新町

三夜塔
上野村

二十二夜（安政三）
万場町青梨子

廿三夜待供養塔（明和五）
中里村

日待・月待塔六

弁財天
下仁田町青倉

巳子待塔
松井田町上増田

弁財天
南牧村

弁財天
中之条町中之条　林昌寺

奉待弁天供養塔
甘楽町

日待塔（明暦元）
吾妻東村新巻　正泉寺

日待・月待塔七

二十三夜
吾妻町

十九夜
六合村入山　品木

大黒天（文化元）
長野原町横壁　諏訪神社

二十一夜待（天保十一）
高山村

月光菩薩
六合村入山　梨木

一夜待供養（宝暦五）
白沢村平出　正眼寺

日待・月待塔八

十六夜待供養塔（文化七）
水上町高日向堂屋敷

二十一夜塔
利根村　穴原

準提観音塔
月夜野町

念一夜供養塔
川場村

二十一夜需供養
新治村

二十六夜塔
片品村幡谷

日待・月待塔九

廿二夜
新田町村田　宝蔵寺

二十二夜供養塔（明和五）
赤堀村　磯

子待塔
尾島町

二十三夜塔
境町

巳待塔
薮塚本町

大黒天（寛政五）
玉村町

日待・月待塔十

愛染明王（文化八）
笠懸村

二十三夜塔
千代田町

十九夜念仏供養
板倉町板倉　実相寺

廿二夜待供養塔（明和四）
大泉町

十九夜
明和村

二十二夜念仏供養塔
邑楽町

補遺

青面金剛明王（宝永八）
勢多郡東村花輪　祥禅寺

青面金剛像（享保十六）
勢多郡東村沢入　大沢寺

釈迦如来庚申（万治四）
桐生市本町　浄雲寺

上州の近世石造文化財（概論）

近藤義雄

一、はじめに
二、造立者
三、種類
四、地域差
五、石工

一、はじめに

近世石造文化財は、古代・中世に比べて非常にその種類が多い。石材はほとんど地元の安山岩を用い、中世のように凝灰岩や緑泥片岩を遠方から運んできて造立する例は稀である。近世は交通も発達し、物資の交流も盛んであるのに、近世石造文化財とその石材使用が地元中心であったのは何故であろうか。

中世石造物には、緑泥片岩の板碑が利根郡や吾妻郡などでもかなり大きなものも見受けられ、それらの石は遠く荒川上流や多野郡方面から運ばれたものである。また、凝灰岩の石仏や五輪塔など、その産地から離れた遠い地にもある。勢多郡赤城村宮田の石造不動明王像などはその好例である。その原因は特殊な信仰に基づくもので、加工技術が軟かい石材でなければ細工ができなかったわけではない。当時の密教信仰などによるという。

密教では石仏に着色して、より一層神秘性を高める必要があり、板碑は武士階層や僧侶などにより造立されたもので、当時の一般農民の手になるものではない。そこには、近世石造物と古代・中世石造物の信仰上の相違が深く係わっていたからである。

近世石造物は、古代が貴族や大きな権力者の造立、中世の武士中心の特殊信仰に基づくのに対し、一般庶民層により造立されたのが大部分であるのが特色である。そこには、古代貴族の富と権力もなければ、中世のような切実な信仰に根ざすものでないのが大部分である。近世石造物も大部分が信仰遺物であるが、そこには中世のように戦乱のなかで苦悩し、信仰が生きていた時代ではなくなってきていたことが窺える。

例えば、道祖神にしても泰平の世にユーモアを感じさせる抱擁型のものが近世中期から多くなるが、そこには中世のような深刻な姿は全く感じられない。六地蔵にしても、中世末の時代の人々は、輪廻車を廻してひたすら来世への悲願をこめて祈ったのであろうが、輪廻車孔をもつ六地蔵石幢（輪廻塔）は、近世にはその姿を消し、僅かに渋川市の真光寺と子持村双林寺の寛永期のものが二基あるだけである。月待供養塔も非常に多く造立さ

輪廻車孔をもつ石幢（元亀４）
大間々町浅原

れてくるが、その信仰集団の講中の集まりは、一部には切実な願いをこめて信仰する人もあったろうが、大部分はレクリエーション的である。総じて、近世石造物には前代のような暗さがなくなっているといえよう。三猿の上に青面金剛が勇ましい姿で刻まれていても、封建社会への庶民の生き方は教えられても深刻さはない。遠国の神々や仏を刻んだ石祠や碑にしても、講中の人々は旅の安全・感謝であろうが、そこには信仰とともに多分にレクリエーション的なものがあった。伊勢参宮日記などには京・大阪から四国の琴平までの社寺詣にかこつけた見物旅行であったことが窺える。

このような大きな変化は、近世社会が泰平であったことと庶民の生活文化が豊かになってきて、真の庶民文化が開花してきたことを示すものであろう。近世石造文化財は、庶民がその造立者であり、前代のような切実な強い信仰の所産でないから、遠方から特殊な石材を運ぶことなく、身近かな石材を用いて造立したのであろう。しかも、庶民にとっては記念物的意図もあるから硬質の石を選び、いつでも容易に礼拝し、より多くの人の目に触れることのできる路傍や社寺の境内・墓地・塚などに造立されたのである。したがって、造顕された石造物は種類も非常に多く、多種多様であり、近世庶民の精神生活をより具体的に示してくれる文化遺産といえるのではなかろうか。

なお、近年県下市町村で次々に近世石造文化財報告書が刊行され、また、市町村誌などでも近世の金石文として多く記録されてきている。以下これらを参考に本県の近世石造文化財を概観してみたい。

二、造　立　者

近世の各種石造物の造立者は、個人・惣村中・講中に大別できる。但し、個人名を刻んだものでも、多くは講中の一人として造立したものがかなりある。百庚申や千庚申には個人名を刻んだものが多いが、それは百庚申の一基を個人個人が分担したものがあり、安中市下秋間の百馬頭なども馬頭講中の一員としてあげたものがかなり多いと思われる。

純然とした個人造立は、村の有力者が記念に奉納したとか、特別の信仰をもった家で造立するのであり、不慮の災害で子供を失った親が供養に地蔵を造立する、或は行者が個人で不動尊を造立するなどである。一般に石神・石祠よりも仏像の場合に個人の造立が多いのも、それぞれの信仰に基づくからである。

惣村中の造立は、仏より神の場合が多い。鎮守の境内に造立者名のない

多数の寄進者名を刻むえんま堂の常夜燈
高崎市倉賀野町

石祠が多いが、それらの大部分は惣村中の造立であろう。道祖神、天王社（八坂祠）、水神などは路傍や池の中にあるがほとんど惣村中の造立である。

講中の造立例は、大きく二つに区分される。一つは村内の講で、その代表的な例は庚申講・月待講・馬頭講などであろう。庚申講は村落内に十数軒単位につくられることが多く、小さな村落では村中となることもあり、青画金剛像などはいくつかの講中がともに同一の像をまつる。月待講には女人講が多く、邑楽郡の渡良瀬川よりの地方には十九夜塔、太田市から西毛地方にかけては二十二夜塔が多く、利根郡地方には二十三夜が多い。時には十六夜塔・十七夜塔（太田市）などが見受けられる。これらのなかには、世話人は男性であるが講員は女性で、渋川市金井の二十二夜塔のように広範囲にわたる百人ほどの女性の信仰により造立されたものもある。念仏供養塔なども念仏講中の造立で、寒念仏塔や地蔵像を造立している。建築関係の職人は、聖徳太子の碑や像を造立してまつる。珍しいのは渋川市真光寺境内にある安政三年（一八五六）の一千職の碑であろう。一千職碑は床屋職人の講中四十数名により造立されたものである。天神社や道祖神は、惣村中の造立であろうが、その祭礼は子供が主役であった。

このような地縁集団、職業集団、信仰集団、女性集団、年齢集団などの地域の集団により、近世の多くの石造文化財は造立されたのである。

代参講中により造立されたものには、遠方の神々や碑がある。琴平（金比羅）社、秋葉社、富士宮、諏訪社、八幡社をはじめ、山羽三山や阿夫利山の石尊権現、御嶽などの碑も各所にある。代参社は無事代参をすませた記念に鎮守に灯籠や狛犬・鳥居・玉垣などを献納した例も多い。伊勢参宮などは、代参者が村を立つときはお仮屋をつくり、留守中家族は道中の無事を祈ってお参りした。代参者が一巡したのでその記念に石祠を造立したのもあったろう。

このように近世中期以後遠方の神仏への代参講が発展した背景には、有名社神の御師とよばれる神人団の活動、或は行者・修験者等が先達となり民衆への布教活動が大きく係わってきていたからである。なかでも御師の活動は盛んであったようである。

御師の活動　近世の中頃になると、庶民の社寺詣にかこつけた旅行も多くなる。この旅行はたいてい講中をつくり、代表者を何名か送って代参するのが一般的であり、その指導勧誘にあたったのが御師たちである。御師は秋の収穫後受持の村々を廻り、御初穂料を集めて代参者の参詣などの打合わせをする。その代参講が近世末にはかなり多くなり、講中では鎮守の境内に石宮をつくり有名社寺を勧請して拠り所とした。その結果どの

村々にも遠方の神々の石祠があり、いまではどの神社の分社だか不明になってしまったのも多く見受けられる。

このような御師の活動は、神社や御師の財源にもなり、定例の外に社寺修覆や大祭などの資金勧化が次第に増加し、なかには偽御師の勧化まであり村人の負担となってきた。その結果、村々では一定の御師以外は断る村議定までしている。一村だけでは断りきれないこともあり、連合村協定して排除することもでてきている。つぎに示す資料は、前橋藩向領三十三カ村議定書であるが、向領とは利根川右岸の旧群馬郡の前橋領で、文化十三年(一八一六)に三十三カ村の名主・組頭・長百姓が連署し、村々に入ってくる様々なねだりを排除しようとしたものである。全体が八カ条になっていて、その一条目に「近年浪人躰之者、旅僧、修験、瞽女、座頭並御師勧化僧、難船之者等多数徘徊致合力勧化、初穂等過分にねだり取候故」とあり、その六条目につぎのような一文がある。

一御師之儀は
伊勢　津島　榛名　碓氷　鹿嶋　愛宕　戸隠　石尊
右之御師先規之通取斗可申候、譬先前参来之御師ニ而茂右之外百石ニ付三文差出可申候、何様申候共其余者差出申間敷候、且又新規之御師決而請不申候

(『総社町誌』福島博家文書)

右によると、この八社以外は百石に付三文以上は支出しない協定である。一般的にはこの八カ所は対象外として認められたのであり、これらの石祠が多くの村々にあるのも古くからの御師の活動と結びついたからである。

右のうち、伊勢・榛名・鹿嶋・戸隠はよく知られているが、津島は尾張の津島牛頭天王社で、一般には八坂様として村々に勧請されてあり、伊勢参宮にはほとんどが津島参りもしている。伊勢参りだけでは「片参り」といわれ、両者をお参りしないとよくないとまでいわれてきている。碓氷は碓氷峠の熊野神社であり、石尊は相模の阿夫利神社である。石尊の場合は石祠よりも石碑や石灯籠などを造立した例が多い。

右の協定は榛名東麓の例であるが、県内各地で御師のくる神社が異る。伊勢・津島は県内共通であるが、赤城・妙義・秩父三ツ峰などの多くの講社が結成されている地域もあり、各地の石祠の相違はそれを証明してくれよう。代参講は御師の活動と関係深く、その講中により造立された石造物はかなり多いものである。

三、種　類

近世の石造文化財の大部分は信仰遺物であり、民衆の個人または集団により造立されたものであり、いわば近世庶民信仰の重要資料である。

道しるべ、石橋などは、一見信仰に係わりなさそうであるが、道しるべのなかには有名社寺への道しるべが相当ある。近世庶民の三十三番札所巡りがさかんになると、郡単位にまで三十三番札所ができ、人々は道しるべを必要としてきた。なかには渋川市八木原の道しるべのように伊勢や四国の金比羅まで示した天保四年(一八三三)の道しるべがある。古いものには有名霊場を教えたものの多いのもそのためであろう。また、石橋架橋に伴った橋供養碑もある。中山道の豊岡と板鼻宿との境の享和二年(一八〇二)の橋供養

碑は古くからよく知られている。

信仰遺物が中心であることから、近世石造物を大別すると、神道関係・仏教関係・記念物になろう。記念物も大部分は神・仏いずれかに大部分が入れられるので、二大区分により記すこととする。

神道関係

この種の石造物は石祠・石碑とその奉納品であり、なかには神仏習合時代のため神仏の両分野にまたがるものもある。庚申などは、青面金剛は仏教に属するが、庚申信仰は古く日本の山の神信仰の発展で、近世初頭には石宮の庚申が多く、修験などが深い係りをもっているので明確に区分し得ない。その結果、神道関係石造物は、近くの神、遠方の神、民俗信仰の神、奉納品に大別する。

近くの神　一応上野の国内に本社をもつ神々で、赤城神社・榛名神社・妙義神社・貫前神社・甲波宿弥神社などの石祠が多く、加茂神社や美和神社のような神々も上野十二社として古代から地方の本社のような役割を果してきているので土地の神とみてよいのではなかろうか。鎮守の社殿裏に上野十二社の石祠が並んでいる例は各地にある。この種の石祠には、近くの山や川を祭神として祀る地方的な例も多く、利根郡地方の武尊神社、吾妻地方の白根神社など、近くの山を祖霊の山として信仰し、村里に石宮を造立してきたのである。

遠方の神　この種の神には、八幡・天神・八坂(牛頭天王)・鹿嶋・富士浅間などが多い。八幡神社は上野神明帳には登載されていないが、中世以来武神として源氏の守護神となり、やがて農業神としても広く信仰されて伝播した。八幡神の多くは宇佐の本社からでなく鎌倉鶴ケ岡八幡からの勧請のようである。屋敷神として八幡石祠をもつ家も相当多い。天神は元来怨霊信仰であり、菅原道真の霊を鎮めるため北野の神人団が祭ったのにはじまるが、近世は道真を学問の神とし、子供組に天神待などが普及し、近世中期以後の寺子屋の普及とともに各地に祀られるようになった。八坂神社は夏越しの疫病除けの神として全県に普及し、一部宿場には市神として祀られている。これは尾張の津島神社からの勧請が大部分である。富士浅間神社は、富士講などの発展により全県的ではあるが邑楽郡地方には特に多い。館林の浅間神社の初山詣の信仰もあるが、高く塚を築いて祀るので水害に苦しむ地方の人々の生活が一層富士信仰を盛んにしたのかも知れない。鹿島や香取の石祠はそう多くはないが、代参講が普及していたからであろう。この他熊野・春日・諏訪・出羽三山・相模の石尊様・秩父三峰・遠州秋葉などの神々が各地に見受けられる。

民俗的な神　この種の神々は、特定の本社をもたないが全国的に分布している神が多いものである。十二様・水神・地神・疱瘡神・道祖神・稲荷などがこの種の神としては多い。稲荷の場合は、伏見稲荷や笠間稲荷を本社としてそこから勧請したものもあるが、屋敷稲荷が代表するように地の神であり穀物神である。水神は本地は弁財天であるが、多くは石祠であり、宇賀神像や弁財天像は少ない。地神は東毛では大泉町小泉の社日様が広く知られ、渋川地方では堅牢地神として祀られている。道祖神は、中毛から西毛に多く、二神並列像か文字塔であるが、一神型も各地にある。特に榛名山周辺と赤城山南面に多く、板倉町などには二神并列型は一基しかなく、太田市でも文字塔三基、二神并列型一基の計四基しかない。

献納品　神社境内には鳥居・水盤・狛犬・唐獅子・灯籠・玉垣などの各種献納の石造物がある。これらについては赤城の百足鳥居以外は大きな特色あるものはないが、高遠石工の作になる鳥居などが赤城村に多い。また、水盤では、渋川市の甲波宿弥神社の大蛇の形のものなどは特色がある。狛犬では碓氷熊野神社や粕川村月田の近戸神社などには中世にまで遡り得る古いものがあるが、他はすべて近世でそう古い銘のあるものも見受けられない。灯籠には赤城村宮田神社や妙義町の妙義神社に中世のものもあるが、他はほとんど近世であり、高遠石工の作が目立つ。また、世良田東照宮などには大名寄進のものもある。玉垣は有名神社は講中寄進が多いが、榛名神社の塩原太助奉納のものは広く知られている。

仏教関係

神道関係は祈願を主とするものが大部分であったが、仏教関係は供養のために造立された石造物がかなり多くなる。地蔵信仰はその代表的なものであるが、宝篋印塔・回国塔などいずれも追善供養が大部分である。しかし、石像の多くは仏像であることから、仏教的立場で分類すると如来・菩薩・明王・天部・羅漢及び祖師像・供養に関する碑などに大別して概観することにする。

如来　釈迦如来・薬師如来・大日如来などが主で、なかでも薬師が古くから現世利益の仏として、厄除け治病の信仰から造立されてきた。願果しに奉納された小さな薬師像がまわりに沢山あるのもよく見受ける。釈迦如来は禅宗寺院では本尊に安置しているがそう多くはない。大日如来は修験や真言宗に多く尊崇された仏で、地方によってはかなり多い。渋川市内だけでも四〇体近い大日如来の石像があり、赤城村では一八体ある。それに比べ新田町では四体、板倉町では四〇体、伊勢崎市では二体と文字塔四基である。この大きな地域差は、渋川市や赤城村では修験の影響が大きく、特に角田無幻などの影響が考えられる。また、板倉町の場合はほとんどの寺が真言宗であることにもよるのであろうか。一方伊勢崎に少ないのは、天台宗や禅宗が多く、真言宗の教線が弱いことが考えられる。

菩薩　観音・勢至・地蔵が菩薩の代表的仏である。観音には多くの種類があり、なかでも一番多いのは馬頭観音である。馬頭観音は元来三面六臂の忿怒像で、除魔の仏とされていたが、近世の信仰は馬を加護する仏として信仰され、愛馬の死後供養のために造立されたものも多い。伊勢崎市の場合、馬頭は一五六基で文字塔が大部分である。同市の三光町の嘉永五年(一八五三)の馬頭観音碑には「大館村付方中」など二〇カ村余の村名が刻まれてあり、問屋を中心とした交通業者や馬喰などの寄進であろう。馬が交通業者や農民にとっていかに重要な役割を果していたかを偲ばせる珍しい碑といえよう。しかし、地域的にはかなりの相違がある。赤城村の二八六基に対し、板倉町五基と少ない。平野部より山寄りが一層馬と人間の係わりの大きかったことを物語る。安中市下秋間の百馬頭も珍しい例であろう。

地蔵菩薩像は、全県的に平均して多い。中世以来地蔵信仰が盛んになり、近世になると墓地の入口に六地蔵を並べた例も多い。不慮の死者の霊を供養するための地蔵を造立した例も各地にある。子持村双林寺と渋川真光寺境内にある寛永年代の六地蔵石幢は、輪廻車孔をもつものとして、戦国時代以後ほとんどなくなったなかに珍しい例であろう。元禄・享保の頃の六地蔵石幢は各地で見受けられるが、輪廻車孔をもつものは見当らない。一

下秋間館の百馬頭　安中市

石三体・一石六体を並べたものもある。

なお、榛名山周辺には、榛名神社の本地仏である勝軍地蔵が何体か見受けられる。その勝軍地蔵が板倉町に一体あるのは珍しい。榛名神社とは特に係わりはなさそうである。また、この他菩薩界の像には虚空蔵・文殊・馬鳴などの菩薩も数は少ないが各地に見受けられる。虚空蔵は赤城信仰、馬鳴菩薩は養蚕と関係がある仏像である。

明王　不動明王・愛染明王・閻魔王・十王などが明王部の代表的な仏像であり、不動は修験と深い係りがあり、大日の変身として災難除去・治病の仏として古くから信仰され、修験の行場となる滝のあるところや山村に多く見受けられるが、元禄以前の作は少ない。珍しいのは尾島町安養寺の千体不動であろう。江戸浅草の石工による延享四年の作である。

十王・閻魔王は、地蔵・奪衣婆とともにセットで造立されている例が多く、地蔵十王経に基づくものである。中毛から北毛地方に多く、利根郡地方では曹洞宗寺院の境内や墓地に見受けることが多い。群馬町引間の十王堂(公開堂)には、近世初期の石像が一セット揃っている。

愛染明王は、紺屋の職人が愛染講をつくり祭る。高崎市下小鳥町の蓮華院が宝永五年(一七〇八)であるから県下では早い例のようである。

天部　毘沙門天などの四天王・大黒天・摩利支天などがある。なかでも広く見受けられるのは大黒天であり、大黒講中により造立されるのが多い。甲子講も大黒天の神使が鼠であることから大黒講と同様である。五穀豊穣と福徳をもたらすとして信仰され、丸彫像が多い。県内では近世中期以後で、そう古いものはない。摩利支天像は修験者や剣を学ぶ人などに祭られる。吉井町馬庭念流道場の樋口家の庭に祭られているのはよく知されているが、

千体不動供養塔
尾島町安養寺明王院

ほとんどが近世中期以後のものである。また、毘沙門天は忿怒相の武神像で、上杉謙信の深く信仰していた関係から長尾氏とも関係がある。伊勢崎市豊城町の蓮神社には室町時代の石像がある。同市には他に三か所も室町時代の石造毘沙門天像がある（『伊勢崎の近世石造物』）のは珍しい。長尾氏との係わりがあったのであろうか。しかし、近世の石像は非常に少ない。

羅漢及び祖師像等　五百羅漢は川越市の喜多院が有名である。県内にも何か所かあり、藤岡市の七輿山古墳の中段の五百羅漢は心ない者の仕業により頭部が欠けているのが惜しまれる。

祖師像では弘法大師像が多い。榛名町の室田地方から西には小字毎にあったようである。二十一大師ともいわれ、二十一ヵ所に造立され、それを札所巡りのように巡拝したのであろう。特に真言宗との係わりはなさそうである。

供養塔・日待・月待塔　供養塔には経典供養・回国供養の塔が多い。墓地には三界万霊供養塔や宝篋印供養塔が多く見受けられる。いずれも近世中期以後で、寛永期まで上るものはほとんど見受けられない。念仏塔も供養塔があるが、百万遍念仏・寒念仏などがあり、一字一石供養塔も数は少ないが各地に分布している。日待・月待塔では、十六夜塔から十七夜・十九夜・二十一夜・二十三夜塔などが県内にある。いずれもそう古いものはない。近世中期以後であり、その分布は既に記したように特色あり、十六夜・十七夜は希であり、十九夜は邑楽郡でも渡良瀬川よりに、二十二夜は中毛に、二十一夜は北毛に多い。それでも十九夜塔が松井田町や六合村・長野原町・下仁田町・南牧村などにも一～二基見受けられるのは、古くは十九夜が西毛地方にまで広く信仰されていたのであろうと都九十九一氏はいう。月待さ女人講が主で、月の上るのを念仏を唱えながら拝んだのである。庚申塔も供養塔の一種である。日・月を刻んだ日待講で、六〇日目、或は六〇年目にめぐってくる庚申の日や庚申の年を祭る講である。県下では桐生市川内町の千手寺庚申七面塔が古く、七地蔵を龕部に刻み、上段の竿石に「奉大乗之部　石燈供養　六道能化地蔵　薩埵尊容　現世安穏　後生善処也　天文十七年　戊申八月日　庚申七面塔　西小倉村旦那椅会座」（『桐生市の文化財』）とあり、地蔵信仰と庚申信仰が合わさっている。庚申単独のものは寛永期からのものが何基かあり、群馬町引間諏訪神社境内の「寛永十年癸酉十月朔日　奉造立石塔一基　庚申供養」とあるのは早い例であろう。一般に早い時期の庚申石造物は石祠型や塔型舟型光背石塔で、五重塔型は北毛地方に多く見受けられる。青面金剛像は寛文から享保期までのものが多く、東毛にすぐれたものが目立つ。千庚申は少例であるが百庚申は各地にあり、群馬町足門には嘉永三年（一八五〇）に一石百通りの書体で庚申と刻んだ塔もある。

庚申塔の造立は個人名のものも多いが、講中の一員として造立する場合が多く、庚申の年には特に多く造立されている。太田市の場合庚申塔二二五基中、寛政十二年（一八〇〇）六六基、万延元年（一八六〇）八八基で、この二回の庚申の年に一五四基も造立された。

四、地方差・時代差

地域差　近世石造物は、その種類も多く地方的に相違の目立つものである。概していえば、数量的には神流川の谷は特に少なく、榛名山周辺が

最も多く、赤城西面から南面および桐生辺にかけて山寄りがこれにつぐ。また、石造物の種類をみると、道祖神は東毛に少なく、中毛・西毛・北毛に多い。特に榛名山周辺は多い。また、十王石仏なども東毛に少なく、利根郡から赤城西面および北群馬郡・群馬郡などに多い。しかし、十九夜塔は館林市から板倉町にかけて多く、中毛・西毛・北毛にはほとんどない。一方二十二夜が中毛に、二十一夜が北毛に多い。

このような地方的に種類を異にするのに対し、全県的に多いのは庚申塔と馬頭観音と地蔵・回国供養塔などで、若干の濃淡はあるが全県下いたるところに見受けられる。また、数的には多くないが、どの地方にも何基かあるものには八坂・天神などの石祠がある。限られた特定の地域にあるものでは勝軍地蔵がある。堅牢地神の碑は渋川市を中心とする地方には少例ではあるが目につき、他地域には極めて稀である。勝軍地蔵は榛名神社の本地であるから榛名山周辺、特に吾妻郡地方にあるのは理解できるが、堅牢地神の場合はどのように解したらよいのであろうか。関東天台の名僧尊海が弘安八年（一二八五）二月に記した起請文には

立申圓頓房尊海起請文事

右件元意者、被接の断位の法門相伝しまいらせしを、尊海の一期に補處弟子一人よりほかに、二人までにおしへず候。弘めをもし候ものならば、上は梵天帝釈をはじめたてまつりて、四禅八定五衆、下にはけんらう地神等、悉一切の諸神、惣者日本六〇余州大小神祇、とをくは十方三世一切の三尊の御はちを、尊海か身のうへにあたりて、現世にみやうがなくて、後世には三悪道におち申べく候、仍起請文帖如件。

弘安八年二月十八日　　敬白　　尊　海　判

（河田谷十九通）

とある。鎌倉時代の起請文にまで記された堅牢地神は、恐らく当時は地の神として広く一般に信仰されたものであろう。それが次第に忘れさられ、僅かではあるが渋川地方以外にも何基かその石碑があるのは、かつては広く一般的だったことによる。渋川市・子持村・赤城村などと多く見られるのは、この地方の修験か特定の仏教徒などの指導があったかと思われるが、古い時代は各地で祭られていたのが次第に忘れ去られ、一部近世末に復活したように考えられる。このような観点からみると、十九夜塔が板倉町に多く、遠く隔てた六合村や嬬恋村にあるのも、古くは全県的に十九夜の信仰があり、それが二十二夜・二十三夜の信仰に次第にうすめられていったのが中毛・西毛地方の月待信仰の変化ではなかろうか。

つぎに、同一信仰のものでも、地方によりその石造形式の相違が見られるものもある。その好例は既に記した五重塔型の庚申塔が利根郡から北群馬郡地方に多いのがよく知られている。なお、庚申や道祖神は別項で詳述しているので参照していただきたい。

時代差　近世の石造物の造立年代をみると、その種類によって時期に相違がある。近世初期から見えるものは、石殿・石祠・燈籠・道祖神・庚申塔などに早い例が見られる。石殿・石祠は群馬では南北朝時代からあり、近世初期のものも西毛地方ではかなりある。一般に草屋根風の寄棟造りに中世末のものがあり、流れ造りでは中世のものはほとんどない。しかし、入母屋造りや流れ造りの場合、棟の両端に鬼面を刻んだものが近世初期に見られる。主に寛永期を中心とした前後のころのものに多く、元禄期以後

は鬼面をつけた石殿・石祠はほとんどなくなる。木造の寺院建築を模したものであろう。

石灯籠も中世銘のものが県内にはある。近世初期に大名が東照宮などに奉納したのにならい有力庶民が社寺に奉納しはじめる。太田市別所の円福寺には大猷院殿前に高村摂津守忠房の寄進した慶安四年(一六五一)の石灯籠があり、同市大光院には延宝二年(一六七四)の阿部播磨守正能寄進・元禄十一年(一六八)酒井下野守忠寛寄進などがある。庶民奉納では、新田町小金井の東雲寺に山崎兵左衛門寄進の寛文八年(一六六八)があり、同町上田中の長慶寺にも寛文十一年の灯籠がある。これらは庶民奉納では早い例であろう。元禄期になると各地に庶民奉納例を見かけるようになる。

道祖神・庚申については別項で詳述されるので省略するが、寛永期の道祖神は僧形であり、元禄期には坐り雛の形のものがある。烏川上流地方に古い道祖神が多く、抱擁型は十八世紀後半から見られるようになる。また、青面金剛像は十八世紀前半のものが多い。

つぎに総合的にみて、庶民の石造物を造立するのが一般的にいつ頃から多くなってくるのだろうか。十七世紀末から(元禄期)多くなるのが一般的であるが、本来道祖神や青面金剛像にど信仰対象の石神・石仏は、一度造立すれば滅失しない限り新たに造立しなくも足りるはずであるが時代とともに増加してくる。旧群馬郡四ヵ村の『府中資料集成二輯』では二十年おきに集計した表があるのでまずそれを示すと1表のとおりであり、資料の関係から約半世紀毎に『太田市石美術調査報告書』と『赤城村の石造物』をまとめると2表のとおりとなる。十七世紀後半から増加し、更に十八世紀後半には急増している。それは庶民の力が次第に大きくなるのを数的もに表現されたものとみてよいのではなかろうか。この近世石造物の増加と反比例になるのが農村人口の減少であり、それは農民の消極的反抗を示す

表1　旧群馬郡四町村の近世石神・石仏年代別集計表

年代＼種別	庚申塔	道祖神	二十二夜塔	馬頭尊	廻国供養	八坂神社	念仏供養納経	その他	計
寛永以前	1	0	0	0	0	1	1	12	15
寛永以後一貞享4	7	0	0	0	0	0	2	11	20
元禄元一宝永4	3	0	0	0	0	0	4	2	9
享保13一延享4	9	3	0	1	5	0	19	6	43
寛延元一明和4	3	8	2	2	6	0	15	6	42
明和5一天明7	3	5	2	6	7	0	17	13	53
天明8一文化4	16	3	5	2	3	3	5	9	46
文化5一文政10	8	1	4	4	3	0	3	10	33
文政11一弘化4	10	2	8	3	1	1	1	9	35
嘉永元一慶応3	20	2	4	8	3	2	1	18	58
明治元一明治20	2	0	1	5	0	0	1	17	26
明治21一明治40	12	0	0	0	0	1	1	11	25
明治41一大正15	9	0	1	7	1	2	2	4	26
昭和元年以降	21	1	0	0	0	2	2	5	31
年号不明	500	17	3	14	3	5	12	98	652
合計	631	44	31	53	42	17	100	236	1,154

※　旧群馬郡4町村は清里村、金古村、国府村、総社町で、区分は明治元年を基準とし、20年間隔で集計した。

のであり、幕藩体制の封建社会が次第に崩れかけたことである。石造物造立の増加は庶民勢力の伸張を示すものといえよう。まして道祖神などのようにユーモア的表現が増加してくるのは一層それを感じさせられよう。

表2　村別、年代別近世石造物比較表

年代＼町村名	赤城村	太田市
元和元―明暦3（1615 ― 1657）	11	2
万治元―元禄14（1658 ― 1703）	48	74
宝永元―寛延3（1704 ― 1750）	151	271
宝暦元―寛政12（1751 ― 1800）	362	409
享和元―嘉永6（1801 ― 1876）	308	255
安政元―慶応3（1854 ― 1867）	133	164

※　本表は『赤城村の石造物』・『太田市石造美術調査報告書』の年号別集計表から約50年間隔にまとめた。年号別集計では長期のものとの差が大きく、傾向をつかむのには適当でないため集約した。

五、石　工

石工と刻んだ石造物は中世にはほとんど見受けられず、石大工・大工と刻まれている。当時は梵鐘や懸仏を鋳造した職人も大工であり、大工とはそれぞれの職人の頭の称である。榛名山墓地の暦応四年（一三三九）の石造宝塔には「大工吉宗」とあり、赤城村宮田神社境内の嘉吉三年（一四四三）の石燈籠には「大工道心」とある。

中世の上州の石大工は、当然近世へその技を伝えたであろうが、伊派の技術が伝えられたことが考えられる。伊派は、鎌倉時代初期に東大寺大仏殿再興に従事し、その子伊行吉とともに活躍して伊派は各地に伝播した。その伊派の石大工たちは「行」「吉」などの一字を名に加えることが多く、榛名山墓地の宝塔などはこの伊派かとも考えられる。すぐれた中世石造物にはこの伊派の系統かと思われる関西風のものも見受けられる。

近世になると、庶民の造立による石造物が急増する。しかし、中世以来の石大工の系統をうけた上州の石工たちも相当いたのであろうが、上州で生まれた石工集団といえるものは見当らない。江戸や信州の石工集団の影響が強かったようである。

江戸石工　江戸の石工集団は、江戸城の築城と大いに関係がある。徳川氏は太田道灌以来の江戸城を文禄元年（一五九二）、慶長九年（一六〇四）から寛永十三年（一六三六）にかけて大規模の拡張工事をしている。このとき、全国各地から石工を江戸に集め、石材などは諸大名に命じて江戸に輸送させている。

伊豆方面からも大量に海上輸送されたようであるが、上州からも利根川の水運により石材輸送がなされた。前橋市下大屋町の産泰神社境内には江戸城の石を截出したと伝える場所があり、社殿東北の境内地に人工の崖がつくられている。

このように江戸城修築に集められた石工たちは、城の完成後も日光造営をはじめ各地の徳川氏をはじめ大名の社寺修覆があり、そこに献納する石燈籠や鳥居の製作にあたった。その為江戸には石工集団が形成され、関西から来た石工は和泉屋、伊勢屋などという石工集団をつくり、江戸に本拠を構えた。その江戸石工の集団は、当然上州へも大きく影響し、近世石造物に江戸石工の名が比較的早い時代に見える。

県内の江戸石工の作例をみると、東毛から中毛にかけて見られる。館林市の茂林寺境内元禄三年(一六九〇)の銅製聖観音像の台石には

従江戸運石其外指図
川俣村　金右衛門重春
江戸松屋町　泉屋助右衛門

(『六郷・三野谷の石仏』)

とあり、この聖観音寄は有名な高瀬善兵衛の関係者によるものである。

また、甘楽郡妙義町の妙義神社本社前の石垣中央の銘文には

延享甲子六月
石階造修工匠武州江府霊岸島近藤利兵衛

とあり、同社の宝暦六年十二月一日の棟札は

信州高遠石切　二六人
江戸石切　一人

とある。県内で最も見事な石垣といわれる妙義神社の石垣は、古くは江戸石工により、後に高遠と江戸とあるから、江戸石工の得意とする城郭風の立派な石垣が完成したのであろう。『太田市石造美術報告書』には、小舞木の円養寺の正徳元年(一七一一)の地蔵菩薩像が「江戸浅草石　石工五郎兵衛」とあり、『伊勢崎の近世石造物』には、宝暦十二年(一七六二)の昭和町天増寺地蔵丸彫像台石に

宝暦十二壬午歳六月廿四烏　天増寺現住万機代
尊像世話人　武州堤村　戸矢三良左衛門
石工　江戸北八町堀　和泉屋　治良右衛門

とある。この外尾島町安養寺の千体不動(延享四年)、前橋市下大屋町産泰神社の水盤などが知られている。

以上からみて、江戸石工は近世中期以前の作が多く、有名社寺などに奉納する石造物や工事などが主のようであり、城郭の石垣技術を生かしたものが多かったのではなかろうか。安養寺の千体不動などは、ピラミッド状に組み上げられたものであり、妙義神社の石垣はよくそれを物語る。また、江戸石工の作品分布は、主に中毛から東毛のようであり、江戸中期以後は信州高遠石工や上州在地の石工たちが発展し、特殊な社寺に限られたよう

である。なお、小花波平六氏研究による近世末の江戸石工十三組の表を参考までにつぎにあげておこう。

江戸石工十三組

1	本所組	二四人	本所新坂町山口屋平四郎ほか
2	浅草組	二八人	浅草観蔵院門前真間田屋忠左衛門ほか
3	柳原組	三一人	浅草万蔵寺門前和泉屋九兵衛ほか
4	筋違組	二六人	神田旅籠町和泉屋与四郎ほか
5	谷中組	一四人	自性院門前和泉屋安兵衛ほか
6	駒込組	一三人	小石川和泉屋五郎兵衛ほか
7	市ケ谷組	一七人	牛込原町平田屋四郎右衛門ほか
8	四ツ谷組	二三人	四ツ谷伝馬町遠州屋清兵衛ほか
9	麻布組	二二人	麻布六本木高井屋五郎兵衛ほか
10	伊皿子組	九人	伊皿子町伊勢屋与兵衛ほか
11	芝　組	八人	三田四丁目遠州屋八左衛門ほか
12	八丁堀組	四二人	京橋東石田屋左右衛門ほか
13	深田組	一一人	深川平野町岩槻屋源兵衛ほか
合計		二六八人	

（『伊勢崎の近世石造物』八三八頁）

高遠石工　江戸石工が近世領主と結ばれて比較的早くに上州へ進出したのに、高遠石工が上州で活躍するのは一時代遅れてからのようである。それは、近世庶民勢力が台頭する江戸中期からで、上州にその作品が残っているものでは富岡市七日市の金剛寺北入口の「高遠町　石屋　上原甚兵衛」と刻まれている元禄四年（一六一）の名号塔が最も古いといわれ、享保期になるとその作例が多くなる。

群馬県で高遠石工に早く注目していたのは住谷修氏である。昭和二十五年に住谷修・榎田宏・阿久津宗二・近藤義雄が国府村・金古町・清里村・総社町の旧四町村の石神・石仏を調査し、府中資料集成第一集『郷土信仰資料篇』（近藤義雄編）として刊行した際、高遠石工の上州進出について話しておられた。その解説にも注目すべしと記されている。その後同氏は各地の高遠石工の作例を調査され、現在は相当多くの高遠石工の作例を記録されている。なお、府中資料集成のなかにも、金古町四ツ家常仏寺入口の文化十二年の二十二夜塔に「石工　信州高遠　御堂垣宿　中屋太蔵」などが記録されている。その後県内の町村誌や県教委の民俗調査報告書・『勢多郡誌』編纂過程でも多くの人々が高遠石工の上州進出について注目するようになった。近年今井善一郎氏が『群馬歴史散歩』一〇号（昭和五十年）に信州高遠石工のリスト作製を提案し、以後同誌に各地の報告が散見し、『伊勢崎の近世石造物』には板橋春夫氏の小論が掲げられているのが注目される。

以上が群馬県下における高遠石工研究の歩みであるが、一方高遠の地元の研究者たちも『貞治の石仏』刊行以来『高遠町誌上巻』に大塚省悟氏が群馬県下の高遠石工の分布図や多くの作例を紹介している。今回の県内近世石造文化財の悉皆調査では、更に作例が多く記録されているので活用していただきたい。

群馬県下における高遠石工の進出状況をみると、西毛から中毛地方に多くその作品をみることができる。既刊の市町村別石造文化財調査報告からみると、板倉町には高遠石工の作例は一基もない。館林市『六郷・三野谷

の石仏』には、文化六年(一八〇九)と天保十四年(一八四三)に灯篭が二例あるだけで、『太田市石造美術調査報告書』には、別所円福寺境内の千手観音像に「石工信州高遠領北原村北原九兵衛信行作」とあるのが一例だけである。但し、円福寺の安政二年(一八五五)の水盤に「境町石工北原玄番好視・朽木常吉」とあるのは、境町に住みついた高遠石工であろう。高遠石工の上州進出は太田辺が一応の境界のようである。

一方西上州にはその作例が多い。『赤城村の石造文化財』には、享保三年(一七一八)の青面金剛像を初発に、銘文の明らかなものだけでもつぎの一七基がある。

1 青面金剛像　享保三年　溝呂木クラブ入口
「信州高遠　保科安之丞作」
2 青面金剛像　享保七年　上三原田蟹谷戸地蔵塚
「信州高遠領　石屋彦四郎」
3 青面金剛像　元文元年　津久田高科十王堂
「石屋　信州高遠　安三郎」
4 鳥居　宝暦三年　津久田赤城神社
「石工　安兵衛」
5 鳥居　明和四年　津久田西谷稲荷神社
「石工　新助」
6 鳥居　安永九年　長井小川田清水
「石工　高遠　伊藤新助」
7 鳥居　天明七年　津久田八幡神社
「石工　伊藤新助　同新五郎」
8 鳥居　寛政三年　長井小川田八幡神社
「石工　伊藤新助」
9 鳥居　寛政八年　勝保沢諏訪神社
「石工　伊藤新助」
10 灯籠　寛政六年　溝呂木諏訪神社
「信州高遠住　石工　伊藤新助重信」
11 灯籠　文化八年　津久田八坂神社
「信州高遠野田笹村　保科要蔵」
12 灯籠　文化八年　長井小川田八幡神社
「石工信州高遠　伊藤平左ヱ門」
13 灯籠　文化十二年　敷島高瀬六〇―三
「石工信州高遠　保科要蔵」
14 宝篋印塔　安永五年　津久田小池原観音堂
「石工　信州高遠彌勒邑　新助　直七」
15 宝篋印塔　寛政元年　溝呂木天神上り墓地
「石工　高遠彌勒村　伊藤新助　同友八」
16 宝篋印塔　文化元年　溝呂木大蓮寺墓地
「石工　信州高遠　源蔵　次兵衛　政孝」
17 宝篋印塔　文化七年　津久田北原青木家墓地
「石工　信州高遠住　飯塚源蔵　同政吉　同庄蔵」

以上のように赤城村では享保期からはじまり、初期には庚申の青面金剛像などを彫り、ついで鳥居や灯籠・宝篋印塔となっているが、寛政以後が多く、保科・伊藤・飯塚などの石工が多く入ってきていたようである。この他石工銘のないものの中にも、信州高遠の石工の作は多くあったと考え

られる。この地方は江戸石工の作例は全く見えていない。

つぎに『甘楽町の石仏』からその例をみると、ここでは地蔵菩薩像が早くに彫られ、近世後期に宝篋印塔が彫られている。

1　地蔵菩薩　享保九年　中佐久間善龍寺跡
「信濃国中伊奈郡高遠　藤沢栗木村　願主　北原源太郎　同武兵衛　同勝左ヱ門」

2　地蔵菩薩　明和四年　町屋薬師堂
「願主　高遠栗木村　北原七郎治」

3　子育地蔵　天保十三年　天引向陽寺
「信州伊奈羽廣村　宮下与兵ヱ」

4　宝篋印塔　寛政二年　国峰興厳寺
「信州高遠栗田　石工　北原七郎治宗清」

5　宝篋印塔　寛政二年　国峰興厳寺
「信州高遠中伊奈郡栗田村　北原平次宗清」

などがある。ここでも近世後期には宝篋印塔が彫られている。

『伊勢崎の近世石造物』をみると、近世石工銘のあるもの二九基中、高遠石工と刻まれたもの一五基、石工名からみて高遠石工と考えられるもの三基で、合計一八基も高遠石工の作である。種別は地蔵二、宝篋印塔三、庚申二、馬頭観音二、石祠二、他に鳥居・石灯籠・聖観音・二十二夜塔・観音塔・手洗石・天道念仏塔などである。ここでも地蔵は寛保元年（一七四一）と早く、宝篋印塔は寛政十一年（一七九九）が最も早い例である。石工は北原・保科・西村・伊藤・宮下・高見・中山・高嶋・湯沢・中村・山崎・大谷などの姓が見受けられるが、北原村の石工が早くから県内各地に入っていたようである。

このように高遠石工は親子何代にもわたり上州に入ってきていて、多くの優れた作品を残しているが、その作風は極めて特色があり、一見木彫風の繊細な彫りである。特に植物の葉や花の彫りに特色がある。木彫風といえば、石殿・石祠などには木造建築のように細部まで彫刻したものがあり、なかでも吾妻郡吾妻町の古賀良山神社などは、大きな石殿で袖障子の彫りものまでした見事なものであり、さながら木造社殿を思わせる。また、渋川市行幸田の駒形社も大きさといい細部の彫りといい見事で、何れも高遠石工の作である。西毛地方の近世後期の宝篋印塔には高遠石工の優れた作品が多く目立っている。また、江戸城の石垣の石を切出したと伝えられる前橋市下大屋町の産泰神社境内には、江戸石工に対抗するかのように大きな灯籠を高遠石工が彫んでいる。なかでも参道脇の高灯籠はその大きさからみても県下最大級であり、灯籠を支える鬼の彫刻も見事である。総じて高遠石工の作品は木造建築や木彫を思わせる。そう見ていくと、高遠石工の銘の刻まれてないものにも、高遠石工の作と考えられるものがかなり多いのではなかろうか。

ところで、これら多く上州入りした高遠石工たちは、やがて上州に定住した者も多かったと考えられる。先に記した太田市円福寺の水盤銘には、「境町石工北原玄番」とある。近世後期には多くの北原を名乗る高遠石工が上州へ入ってきているので、佐波郡境町に定住したのであろう。『伊勢崎の近世石造物』には、太田町小暮家墓地の安政四年（一八五七）の地蔵菩薩石台に「石工　信州　高遠領的場村産　本州伊勢崎住　大石市太郎」とあり、嘉永二年（一八四九）の曲輪町同聚院の宝篋印塔には「本国信州伊奈郡高遠領北

原郡住出店当国佐位郡境町　石工　北原復祐好祖」とある。これらの人々は境町に出店しても高遠の石工として作品を刻み、大石市太郎のように「伊勢崎住」と上州の住人となったことを表現したものもある。

このように多くの上州入りした高遠石工たちは、上州に定住しても同郷の石工職人として講中をつくり、互いに高遠石工としての誇りを堅持し続けたようである。それを物語る作品が安中市原市八本木地蔵堂境内の丸彫の聖徳太子孝養像である。この像も見事であるが台石には関東入りした高遠石工の名が数十名名を連ねて刻まれている。その所在と氏名を示すとつぎのようであり、西毛・中毛・北毛から北武蔵にまでおよんでいる。高遠石工の発展を示す好資料といえよう。

古賀良山神社本殿
吾妻町大戸

黒沢　赤羽　嘉傳治
弥勒　小林　栄次郎
木下　藤森　吉弥
八幡山　伊藤　清兵衛
中坪　中山庄左エ門
板山　伊藤　豊三郎
野口　矢澤　松太郎
荒町　金井　久之亟
藤塚　鍛冶屋　與六
荒町　秋山　馬太郎
高崎　相澤　小右エ門
新田町
勝間　小松　政蔵
水上　唐澤　倉之助
□□　伊□□□□□

聖徳太子孝養像
（安中市八本木　地蔵堂境内）

□町
野水中
口上村
矢澤十郎左エ門　赤羽菊蔵
元　北原
宮下政吉
北市五郎
伊藤甚右エ門
唐澤龜吉
田中惣左エ門
伊藤嘉吉
保科勝太郎
中野傳
坪花
御堂前
垣外
大島町
安藤
野本
町口
中園
野口
町嶋
講

天保六年歳
次乙未冬十一月
信州伊奈
石工講中
満福寺現住
俊澄代

御堂垣外　藤澤徳兵衛
行田　清水大十郎
福島　井口卯之松
磯部　堀口直次郎
長岡　金子仁兵衛
高梨子　國太郎
中後閑　佐五郎
上棚　鳥山常蔵
小出　平澤瀧三郎
中坪　向山政吉
荊口　北原岩蔵
野口　向山民吉
武州羽生町職工人
関口条次郎置虎
越後　田端常蔵
柏崎

上州の庚申塔と日待・月待塔

今井英雄

一、はじめに
二、庚申塔
三、日待塔
四、月待塔

一、はじめに

石造文化財総合調査で、県下七〇市町村から集約された庚申塔及び日待・月待塔の数は別表のとおり膨大な数である。

本書で扱う庚申塔・日待塔・月待塔は広い意味の日待塔と考えられる。

「日待」とは、同一村落共同体などの同信者が仲間を組み、特定の日に集まり、夜を徹して籠り明かすことである。同一村落内の同信者は、一般に「講」を作り、特定の場所を宿とし(講員の家を輪番で宿とするのが一般的)仏又は神を祀り、供物を供えて礼拝した後、一同で食事をし深夜まで談笑したり、時として徹宵して散会するのを例としている。

これらの「まちごと」は、その初期においては極めて宗教的色彩の濃いものであったが、次第に娯楽的要素が強まったとみられる。

日待は二つに大別できる。その一つは甲子・庚申・己巳などの日に大黒天(大国主命)・青面金剛(猿田彦命)・弁才天(弁財天)などを祀ったり、十九日・二十二日・二十三日といった特定の日に、特定の場所に集まって月の出るのを待つといったものである。その二は、前夜から特定の場所に仲間が集まり、徹宵して日の出を待ち、太陽を拝する行事である。元旦の初日の出を拝する習慣もこの行事の一形であろう。

いずれにしても、これらの多種多様な日待の行事の記念物として、あるいは信仰の対象物(供養塔)として造立されたものが「日待塔」である。庚申懇話会編『日本石仏事典』によれば、日待塔を「まちごと」として次のように分類している。

日待塔(まちごと)
- ①日待塔(狭義)
- ②月待塔(二十三夜塔など)
- ③庚申塔・甲子塔・巳待塔の類
- ④念仏塔・題目塔の類
- ⑤その他(代参講などの記念碑)

本書では、便宜的に③のうち庚申塔を独立して取扱い、①及び③のうち庚申塔を除くものを日待塔、②を月待塔とした。

なお、④及び⑤まで日待塔に含めることについては検討の余地もあろう。

本書では、これらを除外し、別の機会にゆずることとした。

紙数の都合で報告された全ての塔を登載できなかったが、統計処理は報告された全てを対象にし、別表として掲げたので県内の庚申塔・日待塔・月待塔の全容は把握できると思う。

二、庚　申　塔

庚申塔は、六〇日ごとに巡ってくる庚申（かのえさる）の日の夜に、講中の人々が一堂に会し夜を徹して食事をし（大食を良とする）、話し合い、人体中にある「三尸（さんし）虫」が天帝（帝釈天とされる）にその人の罪過を告げにいくのを防げる日待行事である。この所謂「三尸説」は、古く奈良時代以前に中国から伝来した道教の教えによるとする説が一般的である。奈良・平安朝の貴族の間で「守庚申会」が催されたことが諸文献に見える。

① 三尸塔　三尸絶彭処（元文５）
藤岡市立石寺
「守庚申会記」

三尸とは、「彭候（倨）尸」、「彭常（質）尸」、「彭矯尸」のことであり、これが人の身中にあってその人を短命にする。特に庚申の日には、その人の睡眠中に昇天して天帝に人の罪過を告げて記録し、生命を縮めようとする。従って長命を願う者は、庚申の夜は身を慎み、眠らずに過ごすことにより三尸の昇天を防げることが肝要である、とするのが道教の経典の説くところである。これを守庚申または守夜庚申といい、「三守庚申三尸振伏、七守庚申三尸長絶」と説かれていたのである。「三尸怨」、「絶三彭罪」等の塔が県下各所に造立されているのは、この思想に基づくものであろう。また、多野郡新町の諏訪神社境内、勢多郡粕川村西福寺境内等にある「守庚申会記」は、古い形のいわゆる「守庚申会」を伝えるものであろう。

しかし、われわれが平常目にする庚申塔は「守庚申」とは別の信仰に基づくものである。「講」を結成し、青面金剛の軸を飾り、徹宵の供養をするという形の「庚申待」が始まるのは室町時代中期以後とされる。これは、仏教系の青面金剛を庚申の主尊とし、「供養」という形の宗教行事として一般庶民の間に浸透していったものであり、供養塔としての庚申塔の造立が開始されたのである。そして、その陰には、修験者や富士浅間社の「御師」の活動があったことがわかっているのである。

現存するわが国最古の庚申塔は、埼玉県川口市実相寺にある文明三年（一四七一）の庚申板碑であり、本県においては桐生市小倉の天文十七年（一五四八）の七面庚申石幢が初例である。『日本石仏事典』によれば、わが国の中世庚申塔は、表(1)の如くであり、この表で見る限り、庚申塔の発生は関東南部と思われ、その時期は十五世紀後半と考えてよいようである。

ところで、富岡市中高瀬に次のような文字庚申塔がある。

表(1)　慶長以前の庚申石造物（『日本石仏事典』より）

地方	都府県	合計数	初出年（西暦）	山王二十一仏
関東	埼玉	五七	文明三（一四七一）	二八
	東京	一六	長享二（一四八八）	二
	千葉	一八	延徳四（一四九二）	一〇
	群馬	三	天文四（一五三五）	
	栃木	一	不明	
	神奈川	二	天文三（一五三四）	
中部	長野	一	天文十四（一五四五）	
近畿	大阪	一四	永正十一（一五一四）	
	奈良	九	弘治元（一五五五）	
	三重	三	慶長二（一五九七）	
	和歌山	二	慶長三（一五九八）	
中国	広島	一	天正七（一五七九）	
	岡山	一	天文五（一五三六）	
九州	佐賀	一四	天正十一（一五八三）	
	大分	五	天正六（一五七八）	
	熊本	五	明応八（一四九九）	
	宮崎	五	天文二（一五三三）	
	鹿児島	一二	大永二（一五二二）	
合計		一七〇	文明三（一四七一）	四〇

大宝元年辛丑人日庚申　五十　高瀬保
青面金剛明王　講中
天王寺大僧正重善傳流　余人　□□

(注)
人　日＝一月七日
天王寺＝四天王寺
高瀬保＝高瀬村ほどの意

大宝元年（七〇一）の造立銘をもつということで以前大いに話題になったが、「偽銘」であるということで一応の結着をみたようである。大宝元年銘が偽銘であることに異論はないが、実はこの塔から南西方向へ一㎞ほどのところ（同市上高瀬）に次のような文字庚申塔がある。

（表）
庚申供養塔　當村
講中

（裏）
寛政拾二庚申年夏卯華月日造敬
大寶元庚申年正月七日庚申日御出現
但當歳迄二千一百年也

即ち「大宝元年」は、摂津国（大阪市）四天王寺の庚申縁起に基づく「青面金剛出現」の年なのである。無論、四天王寺庚申縁起が説く「大宝元年、青面金剛出現」は俗説であろうが、寛政十二年（一八〇〇）前後に、富岡市高瀬地区の有識者の間では、四天王寺庚申縁起が一種の教養となっていたものと思われる。その意味で「大宝元年」は実年代を越えた「銘文」と見

② 千手寺の七面庚申石幢（天文17）
桐生市川内町　小倉

られ、「大青面金剛明王」と同様の意味を持つと考えてよかろう。

かくして本県における庚申塔の初現は、桐生市小倉の七面庚申石幢ということになった。また、大間々町浅原の元亀四年(一五四三)の七仏輪廻庚申石幢一対がこれに次いでいる。次に、両塔の銘文を全文掲げておく。

○桐生市川内町小倉千手寺　七面庚申石幢

「奉大乗六部　石燈供養彫　六道能化地蔵薩埵尊容　現世安穏後　生善処処　天文拾七年　戊申八月日　庚申七面塔　西小倉村旦　那椅会座」

○大間々町浅原馬場　七仏輪廻庚申石幢

「奉造立六地蔵庚申供養　朝原村本願弥左衛門人数四十一人也　于時元亀四年癸酉八月吉日」

庚申塔の種類　庚申塔ほど種類の多い石造物も珍しいのではないか。分類すれば表(2)のようになるだろう。

表(2)　庚申塔の分類

文字塔	庚申文字塔	庚申・庚申塔・庚申碑・庚申神・庚申供養・庚申供養塔・かうしん・奉造立庚申二世安楽・庚申尊・百庚申・五百庚申・千庚申・上章涒灘・上章涒灘塔・[illegible]・[illegible]など
	青面金剛文字塔	青面金剛・青面尊・青面金剛明王・青面金剛尊・青面王・青面金剛童子・大青面王・大青面金剛明王・大青面尊・奉供養青面金剛塔・青面金剛王・大青面金剛宝塔など
	猿田彦文字塔	猿田彦命・猿田彦大神・猿田毘古大神・猿田毘子大神・奉勧請猿田彦大神・左留田比古・大田神・都波岐大神・岐神八衢神・大元尊猿田彦大神・事勝神・千勝神など
像塔	梵字塔	[illegible]など
	三尸塔他	帝釈天・帝釈尊天・大帝釈天・三尸怨・三尸絶など
	青面金剛像	一面二臂・一面四肴・一面六臂・一面八臂
	猿田彦像	
	如来像	釈迦・大日・阿弥陀・薬師など
	菩薩像	如意輪観音・聖観音・馬頭観音・地蔵など
	天部・明王像	帝釈天・不動・閻魔
	その他の像	道祖神・猿像(一猿・二猿・三猿)など
その他特殊塔		層塔　二層・三層・(四層)・五層 石殿・石祠 宝塔・多宝塔・宝篋印塔 燈籠・石幢・石臼(板碑) ○層塔・燈籠・石幢などの中に対をなすものあり。 ○集合体として百庚申・五百庚申・千庚申などがある。

文字塔は総計九、二六九基(百庚申中に含まれるものは除く)報告されている。うち「庚申」「庚申供養塔」などの庚申文字塔は八、二一一基で八八%を占めている。「庚申」の表現方法も、楷・行・草・隷・篆の五体の漢字によるもののほか、かな書きのものや梵字で音を写したものまで、多種多様である。(図参照)「青面金剛」「青面金剛明王」などの青面金剛文字塔は六四〇基(七%)。「猿田彦命」、「猿田毘古尊」などの猿田彦文字塔は二二四基(三%)となっている。(別表参照)

像塔は総計一、二五一基であり、うち青面金剛像一、一九〇基(九五%)と圧倒的な数である。

庚申文字塔（コーシンの音を梵字に写した例）

1 コウ ジン 榛東村広馬場上サ琴平宮

2 カウ シン 小野上村村上古城台

3 キャウ シン 前橋市川原町市杵島神社

義軌による青面金剛像は、一面三眼四臂となっているが、一面六臂像が圧倒的に多く、四臂像がこれに次ぎ二臂像・八臂像は希少である。また、青面金剛像の分布については、巻末の分布図に見る通り東毛地方に濃密であり、美術的にみてもすぐれた作品が多いように見受けられる。

青面金剛以外の像塔で目立つのは地蔵菩薩像である。独尊の場合と六地蔵のように集合体で表現される場合が見られる。

太田市から報告された庚申像塔の中に一風変わった庚申像がある。板碑様の碑面上部に二鶏、下部に二猿を配し、中央に僧形合掌立像を刻み出したものである。（口絵参照）僧形の像が何であるか不明確だがひとまず地蔵尊像としておく。『群馬歴史散歩』第四〇号（庚申特集号）の中で小花波平六氏がこの像についてふれている。「上部に二鶏下部に二猿で中央に長袖の衣をまとう合掌像を刻む寛文期の塔が太田市付近でみられる。（中略）この珍しい像を刻むのも群馬の特色であり、青面金剛が出現してくる前の状況を示す貴重なものといえよう。」

調査票でみると、計一四基の「地蔵像」が示されており、うち一〇基に紀年銘がある。初出は寛文六年七月銘の同市茂木正願寺のもの、そして延宝二年十一月銘の同市寺井聖王寺の塔を最後に忽然と姿を消している。この間八年余である。太田市における青面金剛像の初出は寛文十三年（同市三ツ堀常盛庵跡）であるから、小花波氏の説も首肯されよう。

猿田彦像は本県においてはきわめて数が少ない。猿田彦塔（文字塔・像塔）の総造立数二三三基中わずか六基で二・六％にすぎない。代表的なものを二、三例示しておこう。

(1) 勢多郡東下田沢字津久瀬所在の「元文二天巳十月吉日」銘のあるもので、尖頭角柱に猿田彦像を刻み出す。高さ九八㌢、幅三〇㌢。

(2) 太田市上田島鳥ケ谷所在の「万延元年庚申九月日、施主加藤、猿田彦大神」の銘をもつもので、板状石に猿田彦像を刻む。高さ九八㌢、幅二九㌢。

(3) 利根郡水上町藤原栗沢所在の「紀元二千五百三十六年一月吉日、猿田彦大神・道祖神・開運神」の銘を有する。板状自然石の表面を平滑に磨き、中央に大きく線刻の猿田彦像を描く。高さ五四㌢、幅三〇㌢。

石殿型庚申塔は一六二基が報告されており、県内各地に分布しているが、強いていえば東毛地方に稀薄である。形状からみると「流れ造」型が多いように思われ、次いで「宝形造」のいわゆる石堂形が目につく。他に入母屋造」などもみられる。おおむね一猿又は二猿を配し、一鶏又は二鶏を付

③　石殿型庚申（寛永２）
安中市八本木　地蔵堂墓地

す。三猿付は年代的に新しいとみられる。

層塔型庚申塔は北毛地方を中心に計七二基報告されている。二層・三層・四層・五層塔が見られるが、二層・四層はもと三層・五層塔であった可能性がある。各層に日月、二猿、二鶏を配するものが多く三猿付もあるが時代的には新しいものである。

石幢（燈籠）型庚申塔は計五二基報告されているが、後述のように近世前期に造立が集中している。また県下最古の庚申塔は石幢形であった。石幢は六地蔵を付した重制のものがほとんどで、輪廻車を有するものもまれにある。（大間々町浅原の七面庚申石幢）

独立の燈籠型はきわめて稀少である。百庚申や庚申塚などの「荘厳」の施設として造立される場合が多いようである。

百庚申・百観音・千体地蔵・千体不動など、数の多きを「吉」とする風は古くからある。庚申塔の場合、講中が発願して、然るべき場所をトして百基の庚申塔を造立する例が各地にみられる。百庚申の形態は種々あるが、基本的には、①「親庚申」を中心に計百基（百一基）造立する場合、②古い庚申塔の建つ場所（庚申山・庚申塚などと呼称されていたと思われる）に、ある時期百庚申を造立し、その後も近くの講中により造立が行なわれ、百基を越える数の庚申塔が林立している場合、③一石に庚申（青面金剛・猿田彦命）の文字を書体を変えて百通り刻む「一石百庚申」「一碑百庚申」と称する場合などに大別できよう。本県内の百庚申（③を除く）の造立数は一七五カ所である。そこに造立された庚申塔は一万一千基以上である。（調査票の記載方法にばらつきがあることと、倒伏したり埋没したり山積みになっていて正確な数が確認できず、「計数十基」「多数」「八〇基以上」のような記載とならざるをえなかったことなどに起因する）。

百庚申の造立年代は江戸時代後期に片寄っている。前橋市を例にとって造立年代を考察してみよう。

前橋市内の百庚申は十二箇所報告されており、その全容は表(3)の通りである。

初出は寛政九年で、寛政十二年の庚申の当り年に二カ所、万延元年の庚申年に三カ所、その間（六〇年間）に四カ所造立されている、不明の三カ所もほぼ同時期と推定されるので、全て寛政期以後の造立ということになりそうである。

県内一七五カ所に造立された百庚申の造立年代もほぼ前橋市の傾向と大同小異と見てよいようだ。「市町村別一覧表」中には、享保八年、宝暦九年等の例が散見されるが、これらは前述の②の百庚申に属する庚申塔の年代

表(3)　前橋市の百庚申

No.	造立場所	親庚申の紀年	現存塔数	備考
1	大友町神明宮	寛政十二（一八〇〇）	一〇一（親庚申を中心に文字塔一〇〇基）	親庚申は青面尊像
2	総社町五霊神社	万延元（一八六〇）	数不明	
3	鳥羽町公民館	不明	数不明	
4	清野町八幡宮	天保十五（一八四四）	六四（文字塔のみ）	
5	総社町植野諏訪神社	天保十五（一八四四）	六二（文字塔のみ）	
6	江田町鏡宮神社	嘉永七（一八五四）	一一三（文字塔のみ）	
7	荻窪町荻窪神社	万延元（一八六〇）	約五〇（文字塔のみ）	
8	西大室町最善寺	寛政十二（一八〇〇）	四一（文字塔のみ）	
9	下長磯町お上人塚	万延元（一八六〇）	約七〇（文字塔のみ）	石臼型あり
10	川原町市杵島神社	天保十四（一八四三）	一一五（文字塔のみ）	
11	天川大島町愛宕神社	不明	六〇（文字塔のみ）	他から移動したもの
12	新堀町新堀神社	寛政九（一七九七）	九三（文字塔のみ）	

と考えてよいのではないか。今後の精査により結論は得られようが、ここでは予測にとどめたい。

なお、珍しい百庚申として二、三紹介しておこう。

(1)　十二山の千庚申、富士見村横室所在

総高二六五㌢の「猿田彦大神」文字塔を親庚申として、百基ごとに総高一三三㌢の「猿田比古太神」文字塔を計一〇基配し、小庚申塔を九九〇基ほど合せて千庚申を構成する。この千庚申は、百庚申一〇組の集合体ともみられ誠に壮大な造塔というほかない。万延元年の造立である。

(2)　北原村西の百庚申　群馬町北原村西に所在

三枚の板状自然石の表面を研磨して三碑とし、中央に「百庚申」と大書し、小字で庚申の文字を四〇通り刻んだ総高一七〇㌢の大碑を中心とし、向って右に「猿田彦大神」と大書し、同じく庚申の文字を三三通り刻む、裏面に「元治二年歳次乙丑夏四月望後二日」の紀年を有する（総高一一七㌢）。向って左に「青面金剛王」と草書で大書し、その左右に「庚申」の文字（中字）を配し、下部に「庚申」二九、「青面王」一、計三二通りの小文字を配す（総高一二八㌢）。いわば「三石百庚申」である。「庚申」の文字の行間に書家の名前が十五人分ほど見える。近隣の文人墨客に依頼したもので、堀口藍園、木暮足翁らの名もみえる。逸品といってよい。（口絵参照）

(3)　川浦浅間神社の一石百体庚申　倉渕村川浦浅間神社境内所在

高さ一三二㌢、幅四七㌢の尖頭角柱の四面に各二五体の青面金剛像を浮彫りしている珍しいもので、「寛政六甲寅天六月如意日」の紀年銘がある。

庚申塔の造立年代　本県の庚申塔の初出は前述の通り天文十七年（一五四八）の七面庚申石幢であり、続いて元亀四年（一五七三）の七仏輪廻庚申石幢一対がある。これら三基は中世石造物に属しいずれも石幢型である点に特色がある。（高崎市の佐野美術館にある庚申板碑は年代的には本県最古（天文四年）を示すが、もと東京都足立区内にあったもので、本県の庚申塔としては扱わない）その後約半世紀を経て本県の庚申塔造立は本格化するの

表(4)　文字庚申塔、年代別造立状況

	前橋市	伊勢崎市	渋川市	勢多郡	北群馬郡	佐波郡	邑楽郡	館林市	藤岡市	富岡市	安中市	群馬郡	多野郡	甘楽郡	碓氏郡	吾妻郡	沼田市	利根郡	桐生市	太田市	館林市	新田郡	山田郡	邑楽郡	
1600～																									
10～																									
1620																									
20～					1			1		1			1			1		1							6
30～												1													1
40～												2													2
50～																1									1
60～		1		1		1						1	1			1			2		3		2		13
70～	3	4	1	4		1	1	2	2	2	2	1	2	1				4		4	2	3	1	2	40
1680	5	4	1	4		4		2	4	2	1	3	8		5		2	2	2	2	1	1			53
80～	7	5	1	5		6		2	5	5	2	3	11	1	11		6	2	2	2	2	3			81
90～	4	2	6	10	8	8	4	1	1	16	7	2	12	2	19	(2)	6	1	3	1	5	10			130
1700～	7		4	13		3	4		1	5	2	6	9		2	(1)	12	4	2	1	6	10			92
10～	5	3	1	21	4	14	7	4	7	11	4	4	14	3	5	(2)	12	4	10	1	9	4	1		158
20～	5	5	1	16	4	11	6	6	13	10	7	6	21	1	6		12	7	1	1	9	1	5		154
30～		3	4	16	5	12	6	6	5	6	5	9	25	3	9	(1)	4	7	12	1	19	5	3		166
1740	3	3	1	23	3	15	3	33	19	4	5	15	29	2	6	(1)	11	28	16	3	29	11	12		275
40～	7	11	4	41	9	29	6	37	19	7	13	21	48	3	14	(3)	20	29	25	7	4	12	15		384
50～	4	20	1	12	2	14	7	1	2	9	3	8	19	4	11		10	3	8		7	4	12		161
60～	3	12	3	10	6	17	5	6	2	7	6	9	20	1	18	(1)	11	1	5	4	10	4	5		166
70～	5	7	3	26	3	10	9	4	1	2	9	7	12	1	8	(1)	8	5	9		44	19	7		203
80～	12	18	1	86	4	26	5	6	11	39	15	4	17	9	6	(1)	17	87	21	3	61	54	7		510
90～	28	25	10	58	6	34	14	10	26	97	30	10	62	22	17		32	46	32	9	65	29	22		684
1800	37	38	26	106	40	62	25	106	62	31	56	69	112	21	21	(1)	77	41	65	15	71	23	49		1152
1800～	40	50	36	140	60	76	31	107	70	53	81	84	131	24	53	(1)	85	57	69	18	65	33	55		1407
10～	5	12	4	33	3	10	6	4	2	4	7	8	8	7	23	(3)	11	5	5	2	10	18	6		196
20～	7	4	3	46	5	16	7	8	7	10	11	3	2	7	8	(1)	9	3	6	1	10	4	6		184
30～	3	1	4	18	4	14	1		7	10	4	11	6	1	9		7	7	1	1	15	8	8		140
40～	10	4	10	20	10	24	1	5	3	8	2	9	6	3	6		1	7	5		21	4	5		164
50～	7	3	3	16	12	19	9	3	3		12	5	6	2	2		1	6	4		22	3	9		147
1860	41	82	16	101	23	87	18	101	37	42	91	49	70	36	30	(1)	71	74	90	22	126	33	58		1299
60～	44	94	17	121	31	92	21	102	42	52	101	53	76	39	41	(1)	73	86	96	23	133	34	60		1432
	6614																								

表(5)　青面金剛像塔、年代別造立状況

	前橋市	伊勢崎市	渋川市	勢多郡	北群馬郡	佐波郡	邑楽郡	館林市	藤岡市	富岡市	安中市	群馬郡	多野郡	甘楽郡	碓氏郡	吾妻郡	沼田市	利根郡	桐生市	太田市	館林市	新田郡	山田郡	邑楽郡	
1600～																									
10～																									
1620																									
20～																									
30～																									
40～																									
50～																									
60～				1													1			2			1	5	
70～				1		1							2			1	1		4	21	3		16	50	
1680				1		6										1			8	9	5	2	19	51	
80～	1			2		8								1	3	1		1	4	7	11	2	24	65	
90～	5	4	10	17	9	9	2			2	1	5	1		3	5	15	4	7	3	17	5	10	134	
1700～	3	4	4	3	5	16	3	4		1	4	11	1		4	1	11	4	9	7	15		22	132	
10～	5	8	5	7	3	5	2	2		1	5	4	2	1	1	5	8	5	11	11	10	1	27	129	
20～	2	3	2	9	5	2	2	3		1	3	4	4	1	3	3	6	1	4	5	9	3	8	83	
30～	3	2	2	2		2	2	1			1	3	1		3	1	2	3	3	4	1	1	3	40	
1740	2		2	2			1				1	1	4			4		1			2	2	11	33	
40～	2	1	2	7		1	1	1			1	1	4		1	3	1	1			3	2	16	48	
50～		1		2	2	1	2				1	4	1		1	4							5	24	
60～	2	2		2	5	2	1	1			2	1	1		3		3		1			1	5	32	
70～		1		3	1			1			2	1					2	1			1			13	
80～		2		3	1									2	2	1	2	1		2	5		2	24	
90～	1	1		2	2	2	1			1	2			1			1	1			2			17	
1800			1	1		2			1	3	2	2	1	2	1		3				2	2	3	26	
1800～	1		1	2	1	2			1	3	4	2	1	2	1	1	2		1		2	2	3	32	
10～				1				1				1							1		2		1	7	
20～	1		2	1		2																2		8	
30～					1	2		1									1		1	1			1	8	
40～										1										1			1	3	
50～													1		1				1		1			4	
1860			1		1	1					3	1	3	1									2	13	
60～			1		1	1					3	1	3	1									2	13	
	871																								

表(6)　青面金剛文字塔、年代別造立状況

	前橋市	伊勢崎市	桐生市	勢多郡	北群馬郡	佐波郡	高崎市	藤岡市	富岡市	安中市	群馬郡	多野郡	甘楽郡	碓氷郡	吾妻郡	沼田市	利根郡	館林市	太田市	桐生市	新田郡	山田郡	邑楽郡	
1600～																								
10～																								
1620																								
20～																								
30～																								
40～																								
50～																								
60～		1															1							2
70～												1									1			2
1680				2				2														1		5
80～				2				2													1	1		6
90～	1										1	1			1									4
1700～	1							1		2			2							1		1	1	9
10～	1	1		7						1		1	6		2			3			1			23
20～		1		7						4		1	3				1	2	3		2			23
30～				3	1	1	2			1		1	2	2				1	3	3	4			24
1740		1		2			1	2	2	4	2		3	1				6	8	6	2	1	3	44
40～	1	3		3		1	2	2	4	6	4		3	4			2	6	8	8	2	1	3	63
50～				1					3			3	1							1	1			10
60～	1				3			1	1	1	3	1	1	2	1		1		1	2			2	21
70～	2	1		1	1	1		2	1	1	2	2	3				1			1	1	1	2	23
80～	1		2	8	1	3		1	1	2	2	1			1		1	2		1		4	1	32
90～				1	1			1	2	1	2	1	1		2		1				1	1		15
1800		1		6	3	1			7	1	1	1	13	2	2		3	4		・2	1			48
1800～		1		7	4	1			9	1	4	1	14	2	7		3	4						58
10～			1	3	1				1		1				5			1				1		14
20～	1		3	1			2			2			1					1						11
30～				2					1	1							1							5
40～				1	3	1															1			6
50～				3	2	2			1		1				1			1						11
1860	3		4	24	7	1	1	3	5		17	2	14	1	4		2	3	2		5	3		101
60～	3		5	28	10	1	1	3	5	1	17	2	14	1	6		2	3	2		5	3		112
	474																							

表(7)　猿田彦塔年代別造立状況

（　）内は猿為彦像塔数

	前橋市	伊勢崎市	桐生市	勢多郡	北群馬郡	佐波郡	高崎市	藤岡市	富岡市	安中市	群馬郡	多野郡	甘楽郡	碓氷郡	吾妻郡	沼田市	利根郡	館林市	太田市	桐生市	新田郡	山田郡	邑楽郡	
1600～																								
10～																								
1620																								
20～																								
30～																								
40～																								
50～																								
60～										1														1
70～																								
1680																								
80～																								
90～															1									1
1700～																								
10～																							1	1
20～																						1		1
30～				(1)																				(1)
1740				1																			1	2
40～				2			1																1	4
50～															2								1	3
60～	1										1													2
70～						2						1												3
80～				3																	1			4
90～	1			1									1											3
1800					2	1			5	1		1			3		3						1	22
1800～					3	1			6	1		1			3		4			1			1	25
10～					1	2				1			1		2								1	8
20～	2		1			1		1					1		1		1		1	1	2			12
30～			1		1			1						1	1		2				1			8
40～					1								1		1	2								5
50～	1			1		2	1							1	1									7
1860	8	1	1	9		10	1	6(1)			2	6	2	1	3		5		(1)		7		2	64(2)
60～	10	1	1	9	1	10	1	6(1)			3	8	2	2	4(1)		5(1)		(1)		8	1	2	74(4)
	162(5)																							

表(8)　石殿、層塔庚申年代別造塔数

（　）内は偽為疑塔数

	前橋市	伊勢崎市	沢川市	勢多郡	北群馬郡	佐波郡	高崎市	藤岡市	富岡市	安中市	群馬郡	多野郡	甘楽郡	碓氷郡	吾妻郡	沼田市	利根郡	桐生市	太田市	館林市	新田郡	山田郡	邑楽郡	92 (8)
1600～																								
10～																								
1620																								
20～			1								2													
30～	1		1		1																			
40～																								
50～	2		3(2)		3(3)		1				2				(2)	(1)	1(0)				1	1		14 (6)
60～	4		1	1(0)	3				2	1	3				3(2)		(1)							18 (3)
70～	1	1		1	3(2)						8				(1)		(2)							14 (5)
1680	1				3					1	2						2							9
80～	1				4					2	3				2		3(0)	1						16 (1)
90～	1				3				1		4					1	1(0)							11 (3)
1700～			1	1	1						1				(2)		1					(1)		5 (3)
10～					1						1						1							3
20～															1(0)									1 (1)
30～											1													
1740				(1)																				(1)
40～				(1)																				(1)
50～																								
60～															1									
70～																								
80～											1		1				(1)							2 (1)
90～																								
1800																	(2)							(2)
1800～											1				1		(2)							2 (2)
10～														1			1							2
20～					1																			1
30～																								
40～																								
50～																	(1)							(1)
1860																	1(1)							1 (1)
60～																	1(1)							1 (1)

表(9)　石幢（燈籠）型庚申

	前橋市	伊勢崎市	沢川市	勢多郡	北群馬郡	佐波郡	高崎市	藤岡市	富岡市	安中市	群馬郡	多野郡	甘楽郡	碓氷郡	吾妻郡	沼田市	利根郡	桐生市	太田市	館林市	新田郡	山田郡	邑楽郡	45
1600～																								
10～																								
1620																								
20～																								
30～																								
40～																								
50～											1													1
60～																						1		1
70～			1	2																				3
1680				2																				2
80～				2						2														4
90～	2			1						1			1				1							6
1700～		2		1								1	3									2		9
10～			3								1		1				1							6
20～					2								2											4
30～																								
1740																	1							1
40～																	1							1
50～																								
60～																								
70～																								
80～																								
90～									1													1		2
1800									1	1												1		3
1800～				1																				1
10～																								
20～																								
30～										1														1
40～																								
50～															1									1
1860										1					2									3
60～																								

である。

表(4)～表(9)は県内の庚申塔のうち紀年銘があるものを種類毎に年代別・地域別に表にしたものである。

庚申文字塔の造塔は、寛永年間に始まり、元禄期に本格し、寛政期にピークに達する。

青面金剛像塔の造立は寛文年間に始まる。これは文字塔の初出から四〇年程遅れており、造顕のピークは元禄期と、文字塔のそれより一世紀ほど早いのである。

以上をまとめてみると、十五世紀後半に庚申板碑という形で関東中南部に始まった庚申造塔は、十六世紀中頃に上州東部桐生近辺に導入され、三基の中世石幢型庚申塔を生んだ。約半世紀後に上州各地で文字庚申塔の造立が始まり、地域的に特色を持つ形態も生まれた。石殿型庚申塔が群馬・北群馬両郡(旧群馬郡域)を中心に一六二基の造立を見、ひき続いて層塔型庚申塔が北毛地域を中心に七二基ほど造立された。いずれも十七世紀後半に集中して見られる。寛文年間には青面金剛像の造立が始まり元禄期には館林・邑楽地方を中心に造立のピークを迎えた。一方文字塔は寛政十二年と万延元年の庚申年に、年間一、〇〇〇基をはるかに越える爆発的な造立数を見、猿田彦塔も幕末にその数を増した。これに並行して各地に百庚申の造立が相つぎ、寛政期以後の庚申塔の造立実数はおそらく一万一千基を下らないと見られるのである。

なお、これらの夥しい数の庚申塔を製作した石工及び文字塔の文字を揮毫した書家達については、概論を参照願いたい。

三、日待塔

前述のとおり、庚申塔・月待塔も広義の日待塔と考えられるが、ここでは日待塔(狭義)、甲子塔(子待塔)、己巳塔(巳待塔)、大黒天塔、大国主命塔、弁才天塔、弁財天塔、大黒天像、弁才天像等を日待塔として、調査表の集約をしてみたい。

(1) 日待塔

「お日待ち」は、春秋の社日などの特定の日に、講員が宿に集まり食事を共にして一夜を過ごし、日の出を拝して作物の豊穣などを祈願して散会する行事である。お日待ちの記念物として或いは講員の信仰の依代として造立されたのが日待塔である。

形態的には、自然石・角柱形・石殿形・層塔・像塔などがあるが、いずれも「日待」の文字が不可欠である。

本県には四〇基の日待塔が遺存するが、東毛地方を除く県内各地に散見される。市町村別にみても、赤城村・松井田町の各四基、甘楽町・長野原町・水上町の各三基が多い方である。造立年代をみると、承応・寛文年代に造立が集中しており、比較的古い時代のものが多いが、中世にまでさかのぼるのは今のところ発見されていない。次に代表的なものを二、三紹介しておこう。

① 吉井町穴岡薬師所在、虚空蔵菩薩像の日待塔で「奉造立日待供養　正徳二壬辰年十一月吉祥日　施主惣村中」の銘がある。高さ一五〇センチ。

上州の日待塔市町村別一覧

市郡別	整理番号	市町村別	日待塔	巳待塔(文字)	弁財(才)天像	弁財(才)天石祠	子待塔(文字)	大黒天像	子待(大黒天)石祠
市	1	前橋市	1	6		1	30	2	
	2	高崎市	2	11			1	2	
	3	桐生市		10			3		
	4	伊勢崎市	1	4			32	4	
	5	太田市		4	2		14	1	
	6	沼田市	1						
	7	館林市		4	1	3	2	1	1
	8	渋川市	1	1	5	15	1	5	
	9	藤岡市	2	45	1		20		
	10	富岡市		11			1		
	11	安中市	1	18		4	3	1	
		市 計(11)	(9)	(114)	(9)	(23)	(107)	(16)	(1)
勢多郡	12	北橘村	1	1		1	3	3	
	13	赤城村	4		3	3	6	1	
	14	富士見村		10		1	3		
	15	大胡町		2		3	10		
	16	宮城村							
	17	粕川村		1		3	4	1	
	18	新里村							
	19	黒保根村		1					
	20	東村					1		
		計 (9)	(5)	(15)	(3)	(11)	(27)	(5)	
群馬郡	21	榛名町		6		5	1		
	22	倉渕村	1			2		1	1
	23	箕郷町			1		1		
	24	群馬町			1	1	1		
		計 (4)	(1)	(6)	(2)	(8)	(3)	(1)	(1)
北群馬郡	25	子持村	2			1			
	26	小野上村	1	1		6	1	2	
	27	伊香保町						1	
	28	榛東村	1	2	1	6	1		
	29	吉岡村				1	1	1	
		計 (5)	(4)	(3)	(1)	(14)	(3)	(4)	
多野郡	30	新町				1			
	31	鬼石町		6			1		
	32	吉井町	1	18			10		
	33	万場町		7			1		
	34	中里村		1					
	35	上野村		1					
		計 (6)	(1)	(33)		(1)	(12)		
甘楽郡	36	妙義町		1					
	37	下仁田町	1	12	3				
	38	南牧村		14	2		1		
	39	甘楽町	3	10					
		計 (4)	(4)	(37)	(5)		(1)		
碓氷郡	40	松井田町	4	6			5	1	
		計 (1)	(4)	(6)			(5)	(1)	
吾妻郡	41	中之条町		4	4	4	7	2	
	42	東村	2			1			
	43	吾妻町	2	7	6	2	14	3	
	44	長野原町	3	6			2		
	45	嬬恋村							
	46	草津町			1				
	47	六合村		2			2		
	48	高山村				1	2		
		計 (8)	(7)	(19)	(11)	(8)	(27)	(5)	
利根郡	49	白沢村				3			
	50	利根村				3			
	51	片品村		1					
	52	川場村	1						
	53	月夜野町	1				1	2	
	54	水上町	3	1		1			
	55	新治村				1	5	5	
	56	昭和村				4			
		計 (8)	(5)	(2)		(12)	(6)	(7)	
佐波郡	57	赤堀村		12		1	7		1
	58	東村					7		
	59	境町		1		2	25	2	1
	60	玉村町		3			7	1	
		計 (4)		(16)		(3)	(46)	(3)	(2)
新田郡	61	尾島町					22	2	
	62	新田町		4			3		
	63	藪塚本町		1			1		
	64	笠懸村		9		1	4	1	
		計 (4)		(14)		(1)	(30)	(3)	
山田郡	65	大間々町		1			1	5	
		計 (1)		(1)			(1)	(5)	
邑楽郡	66	板倉町		1		2	1	1	1
	67	明和村				2	2		
	68	千代田町						1	
	69	大泉町						1	
	70	邑楽町		2	1	1		1	
		計 (5)		(3)	(1)	(5)	(3)	(4)	(1)
都計(58)			(31)	(155)	(23)	(63)	(164)	(38)	(4)
合計			40	269	32	86	271	54	5

(注)1. この表は各市町村から報告された「石造文化財調査票」をもとにして作成した。
2. 巳待塔(文字)は巳待、己巳待のほか、弁財天、弁才天の文字を刻む塔を含んでいる。
3. 子待塔(文字)は、子待、甲子待のほか、大黒天、大国主命、大己貴命などの文字を刻む塔を含んでいる。
4. この表にあるもののほか、宇賀神(像)2、少彦名命(文)1、日月待(文)1、燈籠型の弁財天、巳待各1がある。

④　年丸の日待塔（承応３）
赤城村長井小川田

②　赤城村長井小川田字年丸所在、石殿の身部右側面に「為御日待　奉建修石造　于時承應三年甲午十月吉日」左側面に「年丸」の地名と計一四人の人名がある。高さ一四六㌢。

③　渋川市金井金蔵寺墓地所在、六地蔵石幢の竿部に「日待供養　寛文十年庚戌拾月　岸忠右ェ門（他九名）」の銘がある。高さ一六二㌢。

④　伊勢崎市連取町飯玉神社所在。板碑型の文字碑で「梵字（バーンク）　奉待日天尊供養所　于時寛文元年辛丑今月今日　才兵衛（外十二名）」の銘がある。高さ一〇五㌢。

(2)　甲子待塔

甲子待は、甲子待講、子待講の人々が、甲子の日(子の日)の夜に特定の家を宿として集まり、大黒天(大国主命)を祀り、夜遅くまで飲食雑談し、来福・商売繁昌等を祈る行事である。甲子は干支の最初であり、陰陽道において「大吉」とされる。また「子」は「ね」であり鼠に通ずる。一方、大黒天の「大黒」と大国主命の「大国」の音が通ずるところから両者の習合が行われた。大国主命の神話から、鼠は大国主命の神使とされ、大黒天の「使い」ともなった。甲子と大黒天(大国主命)の結びつきは以上のような理由により説明されている。

大黒天は室町時代より七福神の一つに数えられており、恵比須と並んでわが国の代表的な福神である。従って、甲子待講(子待講)は町人によって結成されることが多かった。かれら町人の結成した講中の造立した石塔が甲子塔であった。

甲子塔には文字塔と刻像塔がある。

文字塔に刻まれる文字は、「甲子」「甲子待」「甲子塔」「甲子待塔」「甲子

⑤　子待大黒天像（延享元）
高崎市上大類町　安楽寺

大黒天」「子待」「子待塔」「大黒天」「大黒尊天」「大黒天神」「大黒待供養」「大国主命」「大己貴命」「大国主大神」などであり、供養塔としての造立のようである。

刻像塔は、丸彫・浮彫・線刻などで、像容は一般に頭巾をかぶり、肩に大きな袋を担ぎ、打出の木槌を持ち、俵二俵の上に立つ姿をとるもののようである。

本県における甲子塔の造立状況は、文字塔二六九基、大黒天像五三基、石殿(石祠)五基、総計三二七基である。造立年代は、享保期から造立が始まるが、文化元年及び元治元年の甲子年に造立が集中している。

(3) 己巳待塔

己巳待は、己巳の日（巳の日）に、巳待講の人々が宿に集い深夜まで精進供養をし、家内安全、五穀豊穣などを祈る行事である。二カ月(六〇日)毎に巡りくる己巳の日に行なわれることが多く、時に前日の戊辰の日に行なわれることもある。巳の日は弁才天の縁日であり、巳待の本尊として弁才天を祀るのが一般的である。

弁才天はインドの河を神格化したもので、初めは土地豊饒の農業の神として尊崇されたが、後に智の神(バーチ）と結合し、言語・音楽の神に転じたとされる。我が国では鎌倉時代以降、楽天として以外に、「弁財天」と記して、福徳神として広く尊崇されたという。室町時代には七福神の一つに加わった。江戸時代になると、財宝を恵む福神として流行神となり町人の尊崇を集めた。

「巳」は蛇に通じ、蛇は弁才天の神使とされ、巳待講の人々に大切に扱われた。

巳待講の人々が造立した供養塔が巳待塔であるが、甲子待塔と同じく、文字塔と刻像塔がある。

文字塔に刻まれた文字としては、「巳待」「巳待塔」「巳待供養」「己巳待」「己巳待供養」「ﾀ（ウ）弁才天」「弁財天」「弁才天女」「弁才尊天」「大弁才天女」などがある。刻像塔としては、丸彫、浮彫、線刻などの形がある。

像容は、経軌では「八臂」とあり、各手に弓、箭（セン）、刀、稍（サク）、斧、長杵（しょ）、鉄輪、羂索（けんじゃく）を持つとされるが、石造の弁才天像はほとんどこれによらない。八臂像の場合は右手に鍵を持つことが多く、頭部に鳥居又は蛇を戴く形をとる。二臂像もあるが、頭部に鳥居を戴く形は八臂像と共通である。

なお、稀少例ではあるが、人頭蛇身の宇賀神像もあり、巳待の刻像とされる。

『群馬県民俗分布地図』(群馬県教育委員会編）によれば、甲子講は水上

⑥　宇賀神　吾妻町

町・中之条町・長野原町・安中市・高崎市の五地点に見えるが、巳待講は一カ所も見えない。にもかかわらず、巳待塔は西毛地方を中心に、文字塔二六九基、刻像塔三二基、石殿(石祠)八六基、計三八七基が遺存するのである。

年代的には、元禄期から造塔が始まり、寛延二年・文化六年・明治二年の己巳年の造塔が目立つが、概して江戸後期の造立が多いと思われる。甲子講と同様、貨幣経済の発達による町人勢力の増大と軌を一にしていると考えられる。

四、月待塔

月待塔は、特定の月齢の夜に定まった宿に集まり、月の出を拝する行事を行なった月待講の人々によって、供養のしるしに造立されたものである。

「月待」も、前述のとおり広義の日待(まちごと)である。

わが国には古来、月の盈ち欠けに神秘性を感じ、月を崇め拝する習慣があり、貴族社会では十五夜の月を基準に、その後の月を文学的に表現している。十六夜をいざよい・十七夜を立待・十八夜を居待・十九夜を伏待、それ以後を寝待と称している。このように月待の歴史は古いのだが、月待塔の造立は室町時代を待たなければならない。『日本石仏事典』によれば、月待塔の最古のものは、埼玉県富士見市の個人蔵になる板碑で「(弥陀三尊種子)奉待月供養」の銘があり嘉吉元年(一四四一)の造立だという。

本県にも多くの青石塔婆(板碑)があるが、今のところ、月待を示すものは発見されていない。

月待塔の分類　月待塔は、その「当り日」によって十九夜塔・二十一夜塔・二十二夜塔・二十三夜塔などに分けることができる。

全国的にみると、「三日月待」「十三夜」「十四夜」「十五夜」「十六夜」「十七夜」「十八夜」「十九夜」「二十日夜」「二十一夜」「二十二夜」「二十三夜」「二十四夜」「二十五夜」「二十六夜」「二十七夜」「二十八夜」「二十九夜」「月待」「七夜待」などがあるとされる。これらの多くは地域的に偏在しているようであり、本県では十五夜・十八夜・二十四夜・二十五夜・二十七夜・二十八夜・二十九夜の月待塔は発見されていない。

月待塔は、文字塔と刻像塔に分類することもできる。文字塔の場合は、「文字どおり」区分すればよいわけだが、刻像塔の場合は、例えば如意輪観音像に「十九夜待」とか「二十二夜講中」などの銘があれば簡単だが、単に「講中」とか「惣邑中」などの銘文しかない場合は困ることがある。

表(10)　七夜待の本尊(「日本石仏事典」より)

当り日＼出典	文殊日礼	七七夜待之大事	七夜待本尊之事
十七日	千手観音	正観音	千手観音
十八日	正観音	千手観音	正観音
十九日	馬頭観音	馬頭観音	馬頭観音
二十日	十一面観音	十一面	十一面
二十一日	如意輪観音	准胝	准胝
二十二日	准提観音	如意輪	如意輪
二十三日	勢至菩薩	勢至	勢至

七夜待塔　ななよまち、しちやまちと称されるが、「七日の夜の月を待つ」のではない。十七夜の月から二十三夜の月まで「七夜」連続して月待

供養した記念の塔である。七夜の各夜に主尊が定められており（表⑩）、それぞれの主尊を経軌に則て供養するという仏教の儀式なのである。従って、これを修することが可能なのは僧侶及び一部上流階級の人々だったであろう。時代が下って、月待が一般化してくると、「七夜待」を正式に行なうことは少なくなり、ある地方では如意輪観音を重視して二十二夜待を修し、またある地域では勢至菩薩を尊崇して二十三夜の月を拝する行事を行なったとも考えられる。いずれにしろ、月待の当初の姿は「七夜待」だったと考えられ、七夜のうちのいくつかがその土地に根づいたものと思う。

本県における「十九夜塔」の分布は館林・邑楽地方に偏在している。（巻末分布図参照）しかし、沼田市・桐生市・伊勢崎市や上信国境に接する南牧村・下仁田町・松井田町・六合村・長野原町などにも数こそ少ないが「十九夜塔」が遺っているところをみても、前述のことが肯かれよう。

月待塔の分布　本県に多い月待塔は二十二夜塔と二十三夜塔である。それぞれ八九四基・六一五基を記録している。これに次いで、二十一夜塔二六五基、十九夜塔一三二基であり、その外数種類の月待塔が確認されているが、数は少ない。

さて、本県における月待塔の分布については巻末の分布図にみるように特徴がある。即ち、十九夜塔・二十一夜塔・二十二夜塔（いずれも如意輪観音を本尊とすることが多い月待塔）の分布状況についてみると、十九夜塔は東毛地方の特に館林市・邑楽郡地域にほぼ限られて分布し、二十一夜塔は利根郡・北群馬郡地域に分布し、二十二夜塔は十九夜塔分布地域より西部、二十一夜塔分布地域より南部（中・西毛地方）に分布している。上記の三地域は、互いに接する地帯に混在をみるが、ほとんど確然とした分布域を保っているようにみえる。この原因については、確かなことは不明だが、これら三種類の月待塔の背景にある「講」集団は、三者共に「女人講」である点にヒントがありそうである。

月待講　月待講は念仏講の要素を強くもっている。事実、十九夜塔や二十二夜塔の銘文には「十九夜念佛講中」「二十二夜念佛　當邑女人講中」などと記される例は枚挙にいとまがない。彼女達は、輪番制の宿に集い、手作りのごちそうを食べながら歓談し、月の上るのを待つのであるが、その時二十二夜念仏などを唱和するのである。江戸時代の農村女性にとってこの集いはほとんど唯一の娯楽の場であったろう。従って、この講中の結束はかたく、しかも本尊の如意輪観音（十九夜様、二十一夜様、二十二夜様）に対する崇拝はなみなみならぬものであった。

二十二夜様の念仏

帰妙頂来　ありがたや
　二十二夜まち　まつ人は
しみづあらため　身をきよめ
　心の悪心　持たずして
しんじんけんごの　身を持ちて
　菩薩を拝し　給うべし
女人　菩薩の　ごがんには
　あまた女人の　身代りに
血の池地獄へ　落ちるおり
　すでに入らんと　したまえば
あらありがたや　ふしぎやな

池より蓮華が　現れて
左右の御手で　みどり子を
いだきあげさせ　給うべし
右の御手で　招きつつ
われを念ずる　人なれば
血しゃく　けっかい　血のやまい
長血　白血の　やまいでも
薬効能　ましまさば
たちまち快気　いたすべし
子のない女人に　子を授け
産前産後の　大難も
安産にして　えさすべし

（妙義町上高田字下十二『妙義町の民俗』より）

なお、分布図裏の表中にある「如意輪像のみ」の欄の数値は、「十九夜」「二十一夜」「二十二夜」の文字はないが「月待塔」として報告されたものだが、例えば「十九夜塔」地域にある如意輪観音像で「月待塔」とされているものは「十九夜塔」としてほぼ間違いないと思われるが、混在地域もあるのを考慮して、あえて独立の欄を設けた。

二十三夜塔　二十三夜塔は「三夜様」「三夜待」とも称される。三夜は産夜に通ずるとして、お産の神様とされ一般的には女性のみの講が多いとされる。この夜の本尊は勢至菩薩とされている。

単に「月待」とある場合は「二十三夜待」と考えられるほどに、月待の中核をなしている。

他の月待塔が地域的に偏在するのに比べ、二十三夜塔は全国各地に遺存しているが、特に関東地方や長野県などに多く遺っているという。

二十三夜塔にも文字塔と刻像塔がある。

本県の場合、文字塔では「二十三夜」「二十三夜塔」の類が最も多く、「二十三夜月天子」「大勢至菩薩」「得大勢至」「徳大勢至」なども相当数あるようである。他に「月天子」「帰命月天子」「月読命」「月光菩薩」なども数は少ないが報告されている。

刻像塔では当然のことながら勢至菩薩像が多いが、全県で五二基と意外に少ない数しか報告されていない。他に如意輪観音像、月天、地蔵菩薩、大日如来などの像がある。

全国的には「女人講」により供養されているが、本県の場合は「二十二夜待」は女性、「二十三夜待」は男性となっている地方がかなりある。本県内の二十三夜塔造立数（遺存数）は六一五基で、県内各地にまんべんなく分

⑦　月天子二十三夜
前橋市後閑町　円満寺

布している。

その他の月待塔　「十六夜念仏供養」とか「十六日念佛」の銘のある十六夜塔が三〇基報告されている。地蔵尊像に上記の銘を有する刻像塔も見うけられる。中之条町と新治村に各六基遺存する。

「十七夜塔」「永代十七夜塔」と刻む塔が桐生市・太田市・新里村に各一基ある。

「二十六夜塔」と刻んだ文字塔が桐生市に三基、前橋市・片品村・水上町に各一基ある。二十六夜待講は染色業者の講だという。この夜の本尊は愛染明王とされ、愛は藍、染は染めるということで藍染(紺屋)を業とする染色業者の信仰を集めたと思われる。愛染明王の刻像塔は三基報告されている。

「奉　十四夜念佛供養」(明和九年)、如意輪観音像に「奉供養十四夜念佛為□□」(宝暦三年)の銘をもつ二基の十四夜塔が板倉町にある。十五夜(望月・満月)の前夜の月だから供養の対象として多くまつられていそうだが、県内にはこの二基のみであり、全国的にみても大変珍しいものである。

「十三夜塔」は片品村と昭和村に各一基、「三日月尊」「三日月塔」「三日月二十三夜」などの三日月待塔が桐生市・榛名町・板倉町に各一基ある。「二十夜塔」は吾妻郡東村から報告されているが、これも珍らしいものである。二十夜塔は東北地方(宮城県・岩手県)に集中して造立されている地域があるという。

上州の庚申塔

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	殿	上細井 細井神社	寛文9	高さ 98cm 幅 70cm 総高122cm	庚申石□　上州□□田村 于時寛文九天己酉十月□ 端気	二猿
2	青面	〃	元禄10	高さ 88cm 幅 43.5cm 総高 cm	元禄十年丁丑二月廿日 （青面金剛六臂像） 大口田氏 （2鶏） （3猿）	駒形 瑞雲日月
3	文	〃	元禄4	高さ 57cm 幅 32cm 総高 cm	元禄四年 奉庚申供養現當二世安楽之所 四月十一日　（二鶏 二猿） （六名略）	上部欠 下部地中
4	文	〃	宝永3	高さ 61cm 幅 25.5cm 総高 69cm	宝永三丙戌九月十七日 奉供養青面金剛 寺家村 阿内村　且越	角柱日月 二鶏三猿
5	文	〃	安政7	高さ 61cm 幅 32cm 総高 cm	安政七庚申年 猿田彦大神 二月吉祥日	自然石
6	青面	房丸町 公民館	宝永7	高さ 50cm 幅 34cm 総高 cm	奉造立庚申供養 （青面金剛六臂像） 旨宝永七丁丑天十一月吉日	舟形日月 下部地中
7	層	房丸町 宝聚堂墓地	不明	高さ cm 幅 44cm 総高189cm	（日月） （2鶏）	3層
8	殿	下佐鳥町 公民館前霊園	寛文7	高さ 75cm 幅 58cm 総高 98cm	于時寛文七季丁未十月吉日 奉建立庚申宮 道俗惣供養 （2鶏） （2猿）	
9	青面	公田町	元禄6	高さ93.5cm 幅 42cm 総高147cm	元禄六年 （青面金剛像） 霜月吉祥日 （2鶏） （2猿）	
10	文	西箱田 常円寺	元禄3	高さ 70cm 幅 36.5cm 総高 cm	于時元禄三年 奉造立庚之供養二世安楽之所 十二月四□ （2鶏） （2猿）	板碑形 日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
11	文	〃	享保12	高さ 70cm 幅 26cm 総高 81cm	享保十二歳丁未 奉造立庚申為菩提也祈所 霜月吉祥日　箱田邑 （8猿） （台）右板鼻 左高崎道	尖頭角柱兼 道標 日月
12	青面	前箱田 稲荷神社	不明	高さ 74cm 幅 34cm 総高 94cm	（青面金剛六臂像） 奉造立 □□□ （2鶏） （2猿）	板碑形
13	青面	西大室町 最大寺	不明	高さ114cm 幅 38.5cm 総高 cm	奉造立庚申□□ （青面金剛六臂像） 旨□□□歳寅十一月六祥日 石工　福嶋文左ヱ門（他五名略） 龍昌寺　関野七兵ヱ（他四名略） （2鶏） （2猿）	笠付台地中 日月
14	百庚申	〃	寛政12	高さ 90cm 幅 70cm 総高 cm	庚申塔　寛政十二庚申 十一月吉日	親庚申 瑞雲日月 他に四十一 基
15	青面	西大室 大室社北三差路	宝暦13	高さ106cm 幅 41cm 総高171cm	北講中 （青面金剛六臂像） 宝暦十三癸未天十二月吉祥日	笠付 瑞雲日月
16	青面	西大室町 観昌寺	宝暦13	高さ 94cm 幅 35cm 総高173cm	宝暦十三癸未歳 （青面金剛六臂像） 十一月吉祥日 （竿）同　山田与右ヱ門 小峯五郎左ヱ門　同　武右ヱ門 同　入沢安之丞 森田右ヱ門 同　□兵ヱ	笠付 竿は六角柱 瑞雲日月
17	青面	〃	元禄10	高さ 91cm 幅 48cm 総高105cm	庚申供養 （青面金剛四臂像） 元禄十天辰十一月吉日 （3猿）（六名略）	日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
18	青面	元総社町 徳蔵寺	享保19	高さ120cm 幅 54cm 総高203cm	享保十九甲寅歳十月吉日 （青面金剛六臂像）馬場新田 （2鶏） （2猿）	舟形 瑞雲・日月
19	百庚申	江田町 鏡宮神社	嘉永7	高さ 93cm 幅 60cm 総高103cm	嘉永七甲寅歳五月吉日 庚申塔 當村中	文字塔 計一〇三基
20	青面	総社町 元景寺入口	不明	高さ 96cm 幅 45cm 総高130cm	（青面金剛六臂像） （2鶏） （3猿）	舟形、日月
21	殿	鳥羽町 大福寺西	寛文8	高さ 75.5cm 幅 58.5cm 総高 98.5cm	（2猿） 寛文八戊申年 九月下旬 石宮 （人名多数略）	石殿形
22	青面	総社町 野馬塚神明宮	宝永6	高さ105cm 幅 48cm 総高120cm	宝永六□ （青面金剛四臂像） （2鶏） （2猿）	舟形、日月
23	青面	総社町 神明宮	正徳5	高さ 85cm 幅 40cm 総高135cm	正徳五年乙□霜月 （青面金剛像） 粟嶋町 2鶏） （3猿）	舟形、日月
24	百庚申	下長磯町 観音橋南 （お上人）	万延元	高さ105cm 幅 77cm 総高 cm	庚申塞 萬延元庚申八月吉日建之 世話人（八名略）	約七〇基
25	青面	上泉町 玉泉寺	元禄16	高さ108cm 幅 42cm 総高141cm	奉造立庚申供養二世安楽所 （青面金剛六臂像） 元禄十六癸未天十二月吉日 施主 敬白 （2鶏） （2猿）	舟形、日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
26	文	上泉町 玉泉寺	嘉永6	高さ117cm 幅 45cm 総高155cm	嘉永六癸丑三月吉祥日 庚申 世八人（十名略） （台）右 前はし一リ 左 駒かた二リ	兼道標
27	文	端気町 善勝寺門前	元禄7	高さ 94cm 幅 31cm 総高108cm	于時元禄七甲戌天霜月吉日 庚申供養寶婆 □□□（二十五名略）	日月
28	文	下大屋町 産泰神社神門前	延宝8	高さ 78cm 幅 40cm 総高108cm	延宝八庚申天 奉供養庚申二世為安楽 施主敬白 十一月五日 （1鶏） （1猿）（六名略）	板碑形 日月
29	文	城東町 教徳寺 （宗念坊）	寛政3	高さ cm 幅 cm 総高 cm	寛政三辛亥歳十二月大吉日 庚申塔 左大胡日光 津久井氏 綿貫氏 藤井氏	兼道標
30	文	総社町 長見寺	万延元	高さ 89cm 幅 49cm 総高119cm	萬延元年庚申十二月 青面王 惣村中世話人（九名略） 無幻道人書	自然石
31	殿	石倉町 林倉寺	元禄9	高さ 75cm 幅 54.5cm 総高 128cm	奉造立庚申石堂一宇現當二世處 于時元禄九□子天霜月吉辰 信心願主石倉村中 （3猿）	石殿形
32	文	庚申塔 即明書	安永6	高さ101cm 幅 60cm 総高146cm	安永六丁酉四月吉祥日	自然石
33	百庚申	〃	寛政12	高さ 81cm 幅 38cm 総高121cm	奉造立寛政十二庚申年十一月吉日 （青面金剛六臂像） 世話人（五名略）	主尊を中心に文字塔一〇〇基

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
34	青面	下新田町 福徳寺西	享保11	高さ 93cm 幅 43cm 総高181cm	享保十一丙午天五月吉祥日 （青面尊六臂像） 施主村中 （2鶏） （3猿） （2馬）	舟形 瑞雲日月
35	文	関根町 金剛寺	貞享4	高さ 68cm 幅 31cm 総高 73cm	（2鶏） 貞享二二歳 庚申塔奉建安稔 四月十三日 福楽 （3猿）	板碑形 日月
36	文	〃	享保4	高さ 76cm 幅 47cm 総高 94cm	享保四丙亥天 信心施主 奉供養庚申之大金剛面 十一月廿二日 細井□□	自然石 日月
37	文	〃	明和2	高さ163cm 幅 124cm 総高201cm	惟時明和二年乙酉季春吉辰 青面金剛明王 関根邑講中	自然石
38	殿	紅雲町 厳島神社	慶安3	高さ cm 幅 cm 総高 cm	慶安三暦寅□拾月吉日 敬白（四名略 二名略） 奉造立石□庚申行□□成就供□□□□ 云者也 現世安穏□前	
39	像	南町二丁目 水神社	天和3	高さ 82cm 幅 35cm 総高 96cm	天和三年 （地蔵尊合掌立像） 四月吉日 （2鶏） （2猿）	日月
40	青面	力丸町 善昌寺門外	文政3	高さ 74cm 幅 30.4cm 総高114cm	文政三庚辰年 （青面尊六臂像） 十一月大吉日	
41	青面	〃	貞享5	高さ 97cm 幅 45cm 総高131cm	角栄山宝性院法楽寺泰全 （青面尊四臂像） 貞享五戊辰年五月吉日起立之	舟形
42	文	千代田町三丁目 大蓮寺	享保元	高さ107cm 幅 40cm 総高129cm	享保元丙申天（六名略） 奉納庚申供養 十月吉日 （2鶏） （3猿）	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
43	文	六供町 寿延寺	宝暦6	高さ 90cm 幅 52cm 総高 cm	庚申塔 宝暦六丙子歳十一月吉日	日月
44	殿	〃	寛文元	高さ 81cm 幅 42cm 総高 91cm	于時寛文元年辛□□月吉祥	二猿二鶏
45	青面	駒形町 駒形神社	元禄11	高さ 71cm 幅 39cm 総高 83cm	（青面尊六臂像）猿 鶏 奉願所庚申供養 元禄拾一□ 駒形村連中施主 十月吉□ （二名略）	舟形、日月 一猿一鶏
46	青面	下大島町 来迎寺	正徳4	高さ 78cm 幅 31cm 総高 93cm	（青面尊六臂像） （裏）正徳四甲午 奉待庚申供養 正徳寺 今月今日 （2鶏）（3猿）	瑞雲・日月 位牌形
47	青面	朝日町四丁目 相続庵	宝永元	高さ cm 幅 cm 総高 cm	宝永元年甲申九月十三日 （青面金剛像） これより左り （三名略） 二ノ宮道	二鶏二猿 ショケラ
48	青面	川原町 大興寺南	文化2	高さ 68cm 幅 37cm 総高 cm	文化二天 （青面尊六臂像） □□□	
49	殿	〃	寛永12	高さ 70cm 幅 51cm 総高 91cm	寛永□亥 □月吉□	鬼面付 日月
50	青面	川原町 大興寺山門前	元禄9	高さ100cm 幅 46cm 総高130cm	元禄九丙子天 （青面尊四臂像） 六月吉日 （2猿）	瑞雲日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
51	百庚申	川原町 市杵島神社	天保14	高さ145cm 幅 63cm 総高695cm	庚申 天保十四癸卯春三月吉日建 願主 高崎山睡□子三敬書　川原総村中	文字塔計一一五基あり（文字青面五、文字猿田彦一を含む）
52	青面	日輪寺町 日輪寺	正徳5	高さ 90cm 幅 48cm 総高134cm	正徳五□□歳 （青面尊六臂像） 霜月廿六日造立之	日月
53	文	〃	宝永3	高さ105cm 幅 33cm 総高127cm	于時宝永三□年 奉造立庚申供養成就飮　施主 十一月吉祥日（五名略）　敬白 （3猿）	台石に二鶏三猿あり日月
54	文	本町三丁目 薬師堂	万延元	高さ150cm 幅 95cm 総高183cm	萬延元庚申歳夏五月庚申日申刻録 庚申 行妙書　片貝町中	
55	文	朝日町四丁目 相続庵千日堂	享保3	高さ 62cm 幅 24cm 総高 78cm	享保三戊戌天 奉納庚申供養塔 十一月吉日　（六名略） （3猿） （2鶏）	
56	文	矢田町 祝昌寺門前	延宝8	高さ106cm 幅 35cm 総高 cm	上州那波郡矢田村三十五人□尊□ 奉供養庚申待諸願成就所 延宝八□九月吉日　諸願主敬□ （2猿） （2鶏）	板碑形
57	文	後閑町 円満寺	宝暦2	高さ114cm 幅 45cm 総高139cm	于時寶暦二壬申歳 庚申塔 八月吉祥日　村中 （2鶏） （3猿）	自然石
58	殿	〃	寛文10	高さ 68cm 幅 46cm 総高 84cm	奉供養石堂為庚申加護後閑村 （鶏）童男童女佛果菩提也 旨寛文十年十一月大吉□ （2猿）	
59	文	朝日町 一号公園	安政7	高さ157cm 幅 80cm 総高184cm	安政七庚申年春三月吉日 猿田彦大神　百尊造立　施主町内中 石田静林謹書	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
60	百庚申	天川大島町 愛宕神社	不明	高さ 53cm 幅 75cm 総高 90cm	（猿） （猿）	計六〇基
61	文	下公田 諏訪神社	宝永3	高さ 84cm 幅 36.5cm 総高103cm	宝永三年戊□ 庚申青面金剛尊 十一月大吉日 （2鶏） （3猿） （鶏）	日月
62	百庚申	新堀町 新堀神社	寛政9	高さ 97cm 幅 75cm 総高122cm	庚申塔　寛政九丁巳歳 正月吉日	文字塔計九三基（うち猿田彦命五基）
63	文	公田町 熊野神社前	延宝元	高さ 94cm 幅 41cm 総高 cm	令千里内 七難不起 旨延寶元年癸丑敬白 （1猿） （1鶏）	板碑形
64	文	池端町 神明宮	万延元	高さ157cm 幅 34cm 総高227cm	猿田彦大神　願主神保十左衛門郁次 萬延紀元歳在庚申冬十有一月吉建之　斉藤慈水書	
65	文	青梨子町 諏訪神社	寛政11	高さ cm 幅 94cm 総高115cm	日天子 月天子 庚申塔　寛政十一龍次己未 講中（廿六人略） 四月吉天日　世話人小池銀七	
66	青面	青梨子町 正法寺	元文5	高さ cm 幅 55cm 総高128cm	旨元文五庚申天十月吉日 （青面尊六臂像） 施主　當村中（八名略） （2鶏） （3猿）	舟形 瑞雲・日月
67	青面	青梨妻町前 原 阿弥陀寺跡	元文5	高さ cm 幅 66cm 総高114cm	元文五庚申年十二月吉祥日 （青面尊像） （2鶏） （3猿）	日月
68	文	〃	嘉永5	高さ cm 幅 52cm 総高208cm	嘉永五年歳次壬子三月吉日 猿田彦大神　（十八名略） 講中胥議謹立之　下組中	人名の最後に「阿弥陀寺」とあり

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
69	青面	青梨子町 前原上宿	享保15	高さ cm 幅 47cm 総高117cm	享保十五壬 （青面尊像） 戊十一月吉日　當村施主 （二十五名略）（猿） （鶏）	
70	百庚申	総社町 五霊社	万延元	高さ cm 幅 90cm 総高112cm	庚申 萬延元庚申年 殿小路町中 遺玄法橋智門書 當院智常代 赤石元長（以下二十八名略）	数不明
71	文	〃	万延元	高さ170cm 幅 111cm 総高 cm	萬延元年庚申春講中（七名略） 庚申庚申… 猿田彦大神 庚申庚申… 米山高柳有孚拝書□□	猿・鶏 一石百庚申
72	百庚申	鳥羽町 公民館	不明	高さ 53cm 幅 34cm 総高 cm	庚申	数不明
73	青面	高井 観音寺	正徳4	高さ 77cm 幅 49cm 総高 97cm	青面金剛 （青面金剛立像） 正徳四天五月吉日□□右兵衛 （3猿）	日月
74	文	総社高井 観音寺	延宝8	高さ 128cm 幅 35cm 総高 143cm	延宝八年 奉造立石塔壹箇庚申待供養也 施主 庚申九月吉日　敬白 帰命月天子厳除衆闇事無超日光備 曜若尓者 覆六趣之昏街積善光影照四主真池而也 西上劣群馬郡高井郷（十二名略）	日月
75	青面	荒口町 西原	寛政6	高さ 50cm 幅 28cm 総高 70cm	寛政六甲寅十月吉日 （青面尊像） 施主嶋村佐七 （3猿）	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
76	青面	西大室町 大室神社近く	享保3	高さ116cm 幅 32cm 総高162cm	享保三□□十一月十六日 （青面尊六臂像） 庚申供養　欽吉　（十七名略） （3猿）	笠付 瑞雲・日月
77	文	荒子町 荒子神社	明和元	高さ 87cm 幅 35cm 総高145cm	明和元甲申歳十二月吉辰 奉祭鎮猿田彦尊 當邑講中 東　志もおふや道 南　いせさき道 西　まやは志道	尖頭角柱 兼道標
78	青面	荒子町 薬師堂	享保11	高さ138cm 幅 66cm 総高180cm	青面金剛供養塔 （青面尊六臂像） 享保十一丙午年九月吉日　（2鶏） （3猿）講中荒子	舟形日月
79	灯	亀泉町 地蔵堂	元禄9	高さ140cm 幅 42cm 総高 cm	（鶏猿） （竿）元禄九丙子天六月十五日施主敬白 奉造立庚申供養石塔 （六名略）	灯篭 宝珠欠
80	文	〃	延宝5	高さ 72cm 幅 31cm 総高 cm	于時延宝□天 庚申為供養　（九名略） 丁巳十月十六日 （鶏猿）	板碑形
81	百庚申	荻窪町 荻窪神社	万延元	高さ205cm 幅 90cm 総高241cm	青面金剛 万延紀元庚申歳十一月	自然石計五 ○基ほど
82	文	〃	享保7	高さ100cm 幅 35cm 総高 cm	奉造立庚申供養 享保七壬寅歳　九月吉日 （2鶏） 3猿	円頂角柱 下部地中 日月
83	百庚申	清野町 八幡宮	天保15	高さ135cm 幅 76cm 総高111cm	庚申塔 天保十五辰歳三月吉日 光旋書　當村中	自然石 （計六四基 残欠 五～六）
84	百庚申	総社町植野 諏訪神社	天保15	高さ 75cm 幅 56cm 総高115cm	庚申 天保十有五甲辰年二月 植野村中	自然石 篆書体 計六二基

上州の庚申塔

８０－８１頁は

個人情報が含まれるため非公開

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
28	文	倉賀野町下 正六 正六観音堂	元禄9	高さ cm 幅 cm 総高 cm	元禄九丙子年 奉造立石塔一□庚申待供養　敬白 十月吉祥日　（台石に向きあう二猿）	笠付
29	文	〃	元禄9	高さ cm 幅 cm 総高 cm	元禄九丙子年 奉修造庚申待供養　敬白 十月吉祥日　（台石に三猿）	笠付
30	文	倉賀野町 養報寺	万延元	高さ 78cm 幅 42cm 総高125cm	烏川即明書 庚申之尊塔 萬延元年星在庚申　十一月吉日 當山三十二世良全代 願主松本重右衛門 同九郎兵衛 源原常吉	自然石 篆書
31	青面	倉賀野町下 昭和町 り電鋼通	宝暦7	高さ 94cm 幅 49cm 総高134cm	宝暦七丁丑年　十二月庚申日 供養塔 （青面尊六臂像）　（足下に邪鬼 下部に二鶏三猿）	起舟形
32	文	上中居町 極楽寺	元禄7	高さ 91cm 幅 34cm 総高 cm	元禄七甲戌天 奉造立庚申供養塔一宇為現当安楽 九月十五日 施主上中居村 田中作左ヱ門 同　助右ヱ門	板碑形
33	文	下中居村 発性寺	元文5	高さ 75cm 幅 笠52.5cm 総高155cm	元文五年庚申　施主 青面金剛塔　三猿不聞 八月吉日　下中居村　不言	笠付
34	青面	東中里町 火雷若御子 神社	宝永9	高さ124cm 幅 43cm 総高 cm	宝永元甲申天十一月廿四日 （青面尊四臂像） 施主　八人	起舟形
35	文	東中里町 火雷若御子 神社	宝永2	高さ105cm 幅 笠45cm 総高 cm	宝永二年酉ノ十月吉日 庚申　（下部三猿）	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
36	文	栗崎町 「諏訪神社」	万延元	高さ141cm 幅 50cm 総高161cm	万延元庚申年七月庚申日建之 百庚申　五十嵐耕五郎	一石百庚申 板状
37	文	栗崎町 地蔵寺	元禄15	高さ125cm 幅 38cm 総高 cm	元禄十五□年　七月吉祥日　（向い合う二猿） （二鶏）	板碑形
38	青面	矢中町 八幡宮	元禄12	高さ 95cm 幅 40cm 総高130cm	（青面尊六臂像） 于時元禄十二年　卯ノ九月日	起舟形
39	文	柴崎町 大沢雅休墓 所うらの堂	元禄10	高さ 66cm 幅 29cm 総高120cm	庚申 元禄十六年 奉供養石塔一宇　下部三猿不聞 霜月十八日　不見　不言	笠付日月
40	文	八幡原町 円福寺	延宝7	高さ 97cm 幅 43.5cm 総高 cm	延宝七己未年 奉造立庚申石塔 十月吉日　（2鶏） （2猿）（十一連名）	向い合う 二猿
41	文	〃	享保7	高さ 70cm 幅 55cm 総高 cm	享保七壬寅祀　講中 奉造立一石塔一宇庚申供養 九月吉日　敬白	自然石 日月
42	文	下斉田町 諏訪神社	寛保3	高さ100cm 幅 53cm 総高142cm	寛保三癸亥年 猿田彦大神 二月吉日　村中	自然石 （下部三猿）
43	青面	南大類町 柳原観音堂	享保7	高さ cm 幅 cm 総高 cm	（青面尊六臂像）　講中 享保七年壬寅十月吉辰　南大類村	日月 （三猿） 尖頭角柱
44	青面	鼻高町	享保2	高さ cm 幅 cm 総高 cm	享保二天 （青面尊六臂像） 五月吉日	起舟形 日・月 （二猿）
45	青面	石原町 観音山	元禄10	高さ cm 幅 cm 総高 cm	（青面尊六臂像） 元禄十□十一月吉日	板碑形 ショケラ

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
46	文	石原町 駒形神社	万延元	高さ165cm 幅 127cm 総高201cm	万延元年歳在庚申 庚申塔 十一月地福日建之 役密園尊謹書 當所講中	自然石
47	文	石原町 吉田佐四郎 氏宅入口	正徳3	高さ cm 幅 cm 総高 cm	正徳三□ 奉造立供養処□ 八月吉日	板碑形 瑞雲日月 三猿
48	文	石原町 利済寺入口 墳丘	宝永4	高さ 71cm 幅 31.5cm 総高 cm	卍 奉 宝永四丁亥年 刻彫庚申文塔一基 十一月吉日	笠欠損角柱 瑞雲日月 三猿
49	文	根古屋町 宝性寺	正徳6	高さ103cm 幅 32cm 総高118cm	正徳六丙申年 六月穀旦 （3猿）	尖頭角柱
50	青面	木部町 心洞寺	不明	高さ 74cm 幅 25cm 総高 92cm	（青面尊二臂像）	尖頭角柱 日月 二猿
51	百庚申	寺尾町 館の百庚申	寛政9	高さ cm 幅 cm 総高 cm	寛政九丁巳季秋 庚申塔 佐藤賀書	計五十四 かうしん 青面尊 三尸怨
52	百庚申	鼻高町 小林山の百庚申	文化3	高さ cm 幅 cm 総高 cm	山鼓書 庚申塔 文化三年丙寅四月 富士塚 熊井宗五郎 相川武兵エ 吉田仙右衛門	計一〇九基
53	百庚申	上滝町 慈眼寺	享保8	高さ 96cm 幅 36cm 総高133cm	享保八癸卯天 施主 奉造立庚申供養石塔 拾月吉祥日 當村中	上滝慈眼寺の百庚申の中蓮舟に日月計七十七基三猿

桐生市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	青面	川内一丁目 三六九 東禅寺	宝永7	高さ cm 幅 50cm 総高171cm	宝永七寅庚年十一月吉日 （青面尊六臂像）	二猿二鶏 舟形光背
2	青面	川内五丁目 一四七八 馬ン場	宝永6	高さ cm 幅 50cm 総高183cm	于時宝永六年己丑霜月吉祥日 （青面尊六臂像） 上州山田郡中仁田山村講中敬白	笠付角柱一面六臂 二鶏二猿日月像
3	文	川内三丁目 五八七―一 西宿	宝永7	高さ cm 幅 22cm 総高 90cm	寶永七庚申年九月吉辰 青面金剛明王敬白 願主八人 上野国山田郡須永村	日月 二鶏三猿
4	文	川内三丁目 七二九 雲祥寺	元文5	高さ cm 幅 36cm 総高122cm	皆元文五庚申歳十月吉辰 青面金剛明王 須永西講中八人	日雲月雲 方錐角柱
5	文	川内五丁目 二六五―一 忠霊塔	天明元	高さ cm 幅 48cm 総高 75cm	天明元辛丑年七月吉日 千庚申塔	
6	文	〃	元禄17	高さ cm 幅 25cm 総高 52cm	元禄十七甲申年三月十一日 庚申	板碑型日月
7	青面	〃	慶応4	高さ 33cm 幅 25cm 総高 58cm	慶応四辰仲秋 （青面尊六臂像） 願主今泉清兵	舟型光背像
8	百庚申	川内五丁目 九九九 麦生小路	宝永7	高さ 60cm 幅 50cm 総高129cm	宝永庚寅天十一月吉日 （青面尊六臂像）	百庚申現在 庚申一九青 面一日月二 鶏二猿舟型
9	百庚申	川内五丁目 二九五―一 忠霊塔	享保元	高さ cm 幅 37cm 総高150cm	享保元丙申年十月吉祥日 庚申 上野国小田郡 願主下仁田山村	日月三猿 方錐角柱 計一六一基
10	文	〃	元文5	高さ cm 幅 38cm 総高141cm	元文五庚申歳八月吉日講中 庚申	日雲月雲 方錐角柱

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
11	青面	川内一丁目二七七―八堀の内	元禄9	高さ 30cm 幅 80cm 総高275cm	于時元禄九年 （青面尊六臂像） 薗田右□門他八名	日月 二鶏二猿 笠付角塔
12	文	広沢町聞の島	天明7	高さ cm 幅 55cm 総高188cm	庚申塔 渓嶽□敬書 当村講中 天明七丁未仲冬吉祥	自然石 呑竜様墓地
13	文	〃 諏訪神社境内	元文5	高さ cm 幅 69cm 総高170cm	青面金剛 元文五庚申供養 九月吉日　村中	自然石
14	文	広沢町一丁目小川氏宅前	文政10	高さ cm 幅 cm 総高 cm	青面金剛 文政十丁亥年六月吉祥日	自然石
15	文	広沢二丁目墓地	宝永2	高さ cm 幅 cm 総高 cm	奉造立庚申供養塔 于時宝永二年乙酉□月 十一□□　本□□□清	日月
16	文	〃	正徳4	高さ cm 幅 59cm 総高172cm	奉造立庚申供養塔 正徳□年甲□拾月吉祥日	笠付　日月 二鶏　三猿
17	文	広沢町三丁目比呂佐和神社	寛政元	高さ cm 幅 cm 総高 cm	庚申塔 寛政元星賚己酉無射上浣 願　主	
18	文	広沢町五丁目	寛政6	高さ cm 幅 37cm 総高 76cm	千庚申 寛政六甲寅年十一月吉辰	清水商店下 三〇〇m
19	文	広沢町六丁目	元文2	高さ cm 幅 50cm 総高143cm	奉建立青面金剛塔 元文二丁巳年拾月初五日	山久食品入口 格狭間
20	青面	広沢町六丁目法楽寺	宝永3	高さ 95cm 幅 49cm 総高158cm	宝永三丙戌年十一月吉祥日 （青面尊六臂像） （寄進者連名）	板碑型 瑞雲日月 二鶏三猿 一邪鬼

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
21	文	東二丁目観音院	天明7	高さ cm 幅 95cm 総高204cm	庚申塔 天明七丁未年七月日 東都片山勝永孚敬書	
22	文	東三丁目重恩寺	享保15	高さ cm 幅 48cm 総高132cm	庚申塔 享保十五戌天十月吉日	笠　日月 一鶏一猿
23	文	東七丁目スポーツセンター入口	文政13	高さ cm 幅 cm 総高 cm	奉納千庚申文政十三庚寅年八月吉日	
24	文	仲町三丁目稲荷社裏	元禄9	高さ cm 幅 cm 総高 cm	奉供養庚申像 元禄九年丙子二月十六日	日月　三猿 山角型
25	文	境野町七丁目賀茂神社	寛文8	高さ cm 幅 55cm 総高131cm	卍 為庚申供養也 敬白 寛文八年十月十八日	日月 二猿　蓮弁
26	文	境野町二丁目成就院	天明7	高さ cm 幅 77cm 総高227cm	庚申塔 天明七年丁未九月建 東江源隣書印印	
27	百庚申	境野町六丁目五宝院庚申塚	寛政元	高さ cm 幅 65cm 総高168cm	庚申塔 寛政元酉霜月吉辰 （寄進者二十一名連名）	他に万延元年銘を含む一九〇体の庚申あり造立年ほとんどなし
28	青面	天神三丁目旧重足寺入口	正徳2	高さ 80cm 幅 38cm 総高115cm	正徳二年壬辰三月 （青面尊像）	
29	千庚申	宮本町二丁目光明寺	弘化4	高さ cm 幅 64cm 総高 93cm	弘化四年在丁未冬十月吉辰日 青面金剛	庚申三八基 青面塔一九基 猿田彦一基 青面像一基

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
30	青面	宮本町三丁目 長福寺	元禄13	高さ 47cm 幅 63cm 総高200cm	元禄十三年庚辰十月吉日 （青面尊像） 奉造立庚申供養	二鶏 三猿
31	青面	東久方町一丁目 大蔵院	万延元	高さ cm 幅 62cm 総高109cm	萬延元庚申年九月穀旦敬造立 （青面尊像） 茂木小兵衛他十三名	
32	青面	菱町黒川 墓地	享保元	高さ 51cm 幅 51cm 総高158cm	于時享保元年丙申九月吉日 （青面尊像） 施主 中里	
33	文	菱町黒川 文昌寺	延宝8	高さ cm 幅 47cm 総高158cm	延宝八天三月吉日 奉建立庚申供養	二鶏 二猿
34	青面	梅田町五丁目 上藤生	寛政4	高さ 57cm 幅 30cm 総高 cm	寛政四壬子年 （青面尊六臂像） 九月吉祥日 願主向田氏	三境林道分岐点 起舟形
35	文	〃	寛政6	高さ 78cm 幅 31cm 総高 cm	寛政六寅天 百庚申供養 十一月吉日	上藤生への旧道入口 姿見墓石形
36	文	梅田町五丁目 石鴨天満宮	寛政12	高さ 62cm 幅 32cm 総高 cm	寛政十二庚申天 十月吉日	一石百庚申 自然石 楷書
37	青面	梅田町五丁目 津久原	安永2	高さ 62cm 幅 31cm 総高 cm	安永二癸巳年七月吉日 （青面尊六臂像）	長谷寺参道 舟形ショケラ
38	文	梅田町五丁目 馬立原	不明	高さ 74cm 幅 34cm 総高 cm	寛文□ 青面金剛塔 願主 敬白	自然石 楷書
39	文	梅田町五丁目 橋場 薬師堂	天明7	高さ 93cm 幅 33cm 総高 cm	天明七丁未年 百庚申	自然石 楷書

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
40	文	梅田町四丁目 皆沢西三差路	天明7	高さ124cm 幅 55cm 総高 cm	（裏面） 天明七丁未年八月二十六日 百庚申供養 願主 當村中	自然石 楷書
41	青面	梅田町四丁目 皆沢	享保15	高さ102cm 幅 41cm 総高 cm	享保十五戊歳 （青面尊四臂像） 九月吉日 當村	日月 二猿 二鶏
42	青面	梅田町四丁目 湯本 温泉神社	享保19	高さ 68cm 幅 36cm 総高107cm	享保十九年 （青面尊六臂像） 冬十月吉日 （二鶏一猿）	温泉神社 舟形半彫一面六手
43	青面	梅田町四丁目 湯本 温泉神社	享保11	高さ106cm 幅 43cm 総高 cm	享保十一丙午天 （青面尊六臂像） 八月朔日 （日月）（三猿）（二鶏）（邪鬼に乗る）	ショケラ 板碑形
44	文	梅田町四丁目 荷場	天明5	高さ 53cm 幅 22cm 総高 cm	法華塔 庚申塔 天明五乙巳年十二月吉日	子育観音堂 姿見墓石形 楷書
45	青面	梅田町三丁目 持丸	享保15	高さ 76cm 幅 45cm 総高 cm	奉造営庚申 （青面尊六臂像） 享保十五庚 戌吉日 （一猿）（二鶏）	日月 舟形
46	青面	梅田町二丁目 護国薬師神社入口	元禄4	高さ 66cm 幅 54cm 総高 cm	元禄四年 （青面尊四臂像）	舟形
47	青面	〃	元禄8	高さ 86cm 幅 63cm 総高 cm	元禄八亥歳 （青面尊四臂像） 十一月吉祥日	舟形
48	青面	梅田町二丁目 瀬の辻場橋北西	正徳3	高さ 50cm 幅 30cm 総高 70cm	正徳三年十一月吉日 （青面尊六臂像） 庚申供養塔 三猿	舟形半彫
49	文	梅田町一丁目 金沢	元文5	高さ108cm 幅 89cm 総高 cm	天下泰平 庚申供養塔 元文五庚申天十月吉日 万民安楽 金沢講中	自然石 行書

伊勢崎市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	文	波志江町二丁目	万治3	高さ138cm 幅 48cm 総高 cm	梵字 □ 万治三庚子年二月十八日 （人名八人略） 心指□□□□	一猿 板碑形
2	文	太田町八八四 細野家墓地	寛文2	高さ 115cm 幅 31.5cm 総高159cm	梵字 寛文二壬寅□ 十月□日　施主（人名不明）	日 一猿　一鶏 笠付
3	文	鹿島町 中下町会議所	寛文5	高さ105cm 幅 47cm 総高 cm	梵字 寛文五年 奉供養青面金剛 巳如月吉日	板碑形 一鶏一猿
4	文	連取町 上吉原墓地	寛文9	高さ 98cm 幅 37cm 総高 cm	梵字 寛文九己酉天 奉造立庚申之塔婆也 于時　霜月朔日　施主（十六人略）	板碑形 一鶏二猿
5	文	田中町 諏訪神社	寛文10	高さ 83cm 幅 38.5cm 総高 cm	梵字 于時寛文十年戊二月吉日　（願文略） 奉造立庚申供養石塔 之塔婆者遍	板碑形 二鶏二猿
6	文	波志江町一丁目 宮貝戸	延宝1	高さ136cm 幅 34.5cm 総高 cm	梵字 延宝元癸丑年結衆等宮貝戸二世 奉造立石塔庚申供養為也（蓮） 十月廿日　施主敬白　安楽	板碑形 日　一鶏一猿
7	幢	昭和町 天増寺	延宝3	高さ191cm 幅 51cm 総高 cm	梵字 奉造立庚申供養　（六名略） 延宝三乙卯天九月共五日　敬白	石幢 一鶏一猿
8	文	太田町 五郎神社	延宝5	高さ107cm 幅 42.5cm 総高 cm	梵字 于時延宝五丁巳天 如月吉日　施主（十二名略） 敬白	板碑形 二鶏二猿
9	文	連取町 上吉原墓地	貞享3	高さ 62cm 幅 26cm 総高 cm	梵字 貞享三丙寅歳 奉庚申供養家内長久処　願主 閏五月一日飯嶋大性院　敬白	板碑形
10	青面	中町 会議所	元禄5	高さ 85cm 幅 39cm 総高101cm	元禄五壬申年亮弁 （青面尊六臂像） 霜月十五日　敬白　（十九名略）	駒形 二鶏三猿 瑞雲日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
50	文	梅田町一丁目 湯沢目兼宮神社裏手	享保11	高さ 99cm 幅 46cm 総高 cm	享保十一年　上湯沢村 奉供養庚申青面金剛尊像 十月吉祥日　願主　敬白	笠付角柱形 楷書三猿
51	青面	梅田町一丁目　山根 薬王殿脇	正徳元	高さ 90cm 幅 31cm 総高173cm	庚申供養塔 （青面金剛像） 正徳元年十月吉祥日	二鶏三猿
52	青面	梅田町一丁目　居館 渭雲寺参道	正徳元	高さ 61cm 幅 35cm 総高 cm	正徳元卯天 （青面尊六臂像） □月吉日□□氏	舟形 二鶏三猿
53	青面	川内一丁目二七七—八 堀の内	元禄16	高さ 50cm 幅 40cm 総高119cm	元禄十六年癸未八月日 （青面尊六臂像）　庚申供養	舟形光背日月 三猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
11	青面	国領町 蓜川南	元禄7	高さ 80cm 幅 37.5cm 総高 cm	庚申供養證菩提 （青面尊六臂像）　那波郡 元禄七甲戌年十月共六日　国領村 施主敬白	駒形　日月 瑞雲 二鶏三猿
12	青面	馬見塚 清水町	元禄7	高さ 62cm 幅 22.5cm 総高111cm	奉庚申供養 （青面尊四臂像）　（六名略） 元禄七年戌十月日	笠付 日月 一鶏一猿
13	青面	連取町 宝幢院北	元禄12	高さ 92cm 幅 52cm 総高 cm	（青面尊六臂像）　（台）（六名略） 元禄十一卯ノ年十一月吉日	起舟形 瑞雲日月 一鶏一猿
14	青面	長沼本郷町 観音寺	元禄15	高さ 78.5cm 幅 34cm 総高 cm	奉供養石塔施主 （青面尊四臂像） 元禄十五壬午天十月吉日	駒形 瑞雲日月 二鶏三猿
15	青面	三和町 曙不動尊	元禄16	高さ 81.5cm 幅 36cm 総高 99cm	于時元禄十六癸未年 （青面尊六臂像）　（台）上植木村 庚申十一月十八日　正法院（他）	舟形 瑞雲日月 二鶏三猿
16	青面	堀口町 昌雲寺	元永元	高さ 105cm 幅 55cm 総高206cm	諸願成就二世安楽所 卍　奉造立石仏　庚申供養 （青面尊六臂像）（六名略） 宝永元天甲申十一月廿四日 諸願成就二世安楽所	笠付 日月 二鶏三猿 二童子 四薬叉
17	灯	〃	宝永元	高さ122cm 幅 58.5cm 総高 cm	皆宝永元天　施主（六名略） 奉建立庚申　宝前石燈籠 甲申十一月廿四日謹敬白	灯篭一対
18	青面	太田町五六 一一 赤坂橋下	宝永4	高さ 87.5cm 幅 37.5cm 総高 cm	宝永四年亥　施主 （青面尊六臂像）（一二名略） 十二月吉日　敬白	起舟形 瑞雲日月 二鶏三猿
19	青面	波志江町三 丁目	宝永7	高さ 85cm 幅 43.5cm 総高 cm	□永七稔庚寅 （青面尊六臂像）　（二十四名略） 閏八月吉日　右廿四人施主敬白	舟形 日月 一鶏一猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
20	青面	安堀町三八 四 吉沢家墓地	正徳元	高さ 76cm 幅 35cm 総高103cm	正徳元辛卯年 （青面尊六臂像）　（十名略） 十月吉日	舟形 二鶏一猿 日月
21	青面	波志江町二 丁目五四一	正徳2	高さ 84cm 幅 41cm 総高 cm	奉造立青面金剛 （青面尊六臂像）　（六名略） 正徳二壬□□	舟形 日月 一鶏一猿
22	青面	太田町八八 四 細野家墓地	正徳3	高さ 77.5cm 幅 40cm 総高 90.5cm	正徳三年 （青面尊六臂像）　（七名略） 巳四月吉日	舟形 日月 一鶏一猿
23	文	華蔵寺町 御嶽山	正徳4	高さ 67cm 幅 30.5cm 総高109cm	奉待供養庚申天　信心講主 □□□□ 正徳四歳甲午十一月二十七日講人□□	笠付 日月
24	青面	日乃出町 雲晴院	享保元	高さ 66cm 幅 45cm 総高 cm	享保元申天 （青面尊六臂像） 九月吉日	舟形 日月 一鶏一猿
25	青面	安堀町西太 田 観音堂	享保元	高さ 93cm 幅 34cm 総高137cm	享保元年申（二十四名略） 霜月四日起立之 （青面尊六臂像）　（十八名略） 奉供養宝塔	笠付 日月 二鶏三猿
26	像	曲輪町 同聚院	享保2	高さ114cm 幅 38cm 総高197cm	（丸彫地蔵立像）　（台）庚申供養　（願文略） 当町願主 善男善女	
27	青面	中町和田三 九二	享保5	高さ 85cm 幅 45cm 総高101cm	奉造立庚申塔二世安楽攸 （青面尊六臂像） 享保五天子十一月吉日　施主	舟形 瑞雲日月 二鶏三猿
28	青面	富塚町二四 一六	享保6	高さ137cm 幅 36.5cm 総高 192cm	享保六年辛丑十一月吉日 （青面尊六臂像）　（六名略）	笠付 日月 二鶏一猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
29	文	波志江町一丁目（宿波志江）	享保7	高さ cm 幅 41cm 総高157cm	庚申供養塔 享保七壬寅年十月吉日 （台）施主当村中	尖頭角柱 三猿二鶏 日月
30	文	下蓮町公民館	享保7	高さ cm 幅 cm 総高 cm	享保七壬寅天 奉庚申供養 十一月吉日 上汲那波領下蓮沼村	笠付 瑞雲日月 三猿二鶏
31	青面	日乃出町雲晴院	享保8	高さ107cm 幅 48.5cm 総高 cm	享保八癸卯天 （青面尊六臂像） 四月吉日 神谷村 （六名略）	駒形 瑞雲日月 三猿二鶏
32	文	波志江町二丁目中屋敷	享保8	高さ155.5cm 幅 43cm 総高 cm	享保八癸卯歳南呂吉祥日 庚申供養塔 上州佐位郡波志江村 （二十名略） 信州高遠中□郡 北原関右衛門	角柱 日月 三猿二鶴
33	青面	馬見塚渕町一四八八	元文元	高さ 61cm 幅 27.5cm 総高 cm	元文元年 （青面尊六臂像） 辰十月吉日 羽尾□右衛門	舟形 日月 二鶏
34	青面	上之宮町慈眼寺	元文3	高さ 67cm 幅 27.5cm 総高 cm	元文三戊午年八月八日 （青面尊六臂像） （六名略）	角柱 瑞雲日月 三猿
35	青面	今井町真光寺	寛保2	高さ 76cm 幅 44cm 総高111cm	三月吉日 （青面尊六臂像） 阿弥大寺村小暮元右衛門 為両親菩提 寛保二戌之天 為二世安楽 円誉一心上座 両施主 敬白	起舟形 日月 二鶏三猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
36	文	本関町一一八九斎藤家南	延享5	高さ 95cm 幅 59cm 総高 cm	延享五年 庚申塔 辰正月吉日講中 （右）大まゝ道 （左）いせさき道	自然石 複道標
37	青面	戸谷塚町諏訪神社	寛延3	高さ 67.5cm 幅 28.5cm 総高 cm	寛延三庚午天 （青面尊六臂像） 三月吉日 施主小沢彦七	尖頭角柱 日月 二鶏三猿
38	文	波志江町二丁目	寛延4	高さ 63.5cm 幅 26.5cm 総高 101cm	寛延四辛未之天 庚申供養塔 三月良辰 （台）施主講中 （六名略）	笠付
39	文	三和町間之原	宝暦5	高さ107cm 幅 35cm 総高155cm	宝暦五乙亥歳 庚申塔 十一月吉祥日 （台）組中	尖頭角柱 二鶏三猿 日月
40	文	美茂呂町退魔寺	宝暦10	高さ 77cm 幅 31cm 総高102cm	宝暦十庚辰季十一月朔日 庚申塔	笠付 瑞雲日月
41	青面	曲輪町善応寺	宝暦14	高さ 64cm 幅 31cm 総高132cm	（青面尊六臂像） （台）願主（六名略） （台）宝暦十四年甲申二月吉日	笠付 日月 鬼
42	文	波志江町二丁目五四一中之面	明和2	高さ115cm 幅 50cm 総高135cm	明和二乙酉天十一月吉日 （六名略）	自然石 日月
43	青面	山王町五二八阿弥陀堂	明和3	高さ 91cm 幅 36.5cm 総高214cm	（青面尊六臂像） （台）明和三歳戌十一月 那波郡山王堂邑 卅日供養 施主（六名略）	笠付 日月 三猿
44	青面	波志江町二丁目	明和8	高さ 98cm 幅 31cm 総高155cm	明和八辛卯天 （青面尊六臂像） 四月吉日 講中 （七名略）	尖頭角柱 日月 三猿
45	文	今泉町一丁目法長寺	安永6	高さ 78cm 幅 65cm 総高 cm	庚申塔 丁安永六稔 酉十月吉祥日	自然石

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
46	青面	太田町一九七 三ツ谷	安永9	高さ 65cm 幅 37cm 総高 cm	□永九子十一月日 （青面尊六臂像） 施主（四名略）	舟形 瑞雲日月
47	文	東本町 常清寺	天明3	高さ 64cm 幅 26cm 総高 cm	天明三癸卯三月庚申日 庚申塔　願主　善心 施主下植木村伊勢崎町今泉村	尖頭角柱
48	文	波志江町二丁目 岡屋敷 阿弥陀堂	天明8	高さ117cm 幅 68cm 総高 cm	天明八龍集戊申十二月吉祥日 庚申塔 岡屋敷講中	自然石
49	青面	豊城町 堀田家西の墓地	寛政元	高さ 72cm 幅 30cm 総高 cm	寛政元己酉十月吉日 （青面尊六臂像） 施主津久井彦兵衛	角柱 瑞雲日月 三猿
50	文	馬見塚 清水町	寛政元	高さ114cm 幅 40cm 総高 cm	寛政改元己酉龍集仲冬吉日 庚申塔 剣二謹書	駒形 行書
51	青面	田中島町 観月院	寛政3	高さ 71cm 幅 36.5cm 総高102cm	寛政三辛亥天正月吉日 （青面尊六臂像） （台）供養塔　講中	起舟形 瑞雲日月 三猿
52	文	馬見塚中町 延命寺	寛政10	高さ104cm 幅 41cm 総高 cm	寛政十戊午年霜月吉祥旦 庚申碑 向松剣二謹書　講中九人	駒形
53	文	波志江町 一丁目 宮貝戸	寛政12	高さ110cm 幅 61cm 総高 cm	寛政十二龍集庚申 八月大吉祥日	自然石 日月
54	文	波志江町 岡屋敷 阿弥陀堂	寛政12	高さ134cm 幅 52cm 総高 cm	寛政十二庚申星 青面金剛尊　当組中 仲冬大吉祥日	自然石

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
55	文	下道寺町六三三 橋本家西	寛政12	高さ113cm 幅 60cm 総高 cm	庚申 （裏）我輩尊守庚申□十載于此」今玆 寛政十二歳以庚申」且有奇祥十二 月吉立石以勤」積怡云」 当所寺 多賀谷氏七人講中	自然石
56	青面	山王町 道伝	享和元	高さ 84cm 幅 31cm 総高195cm	享和元年辛酉 霜月吉辰 （青面尊六臂像） 奉納百庚申供養 （裏）（台）「庚申」五二 「庚申塔」四七 計九九あり	角柱 四段の基礎 日月 一石百庚申
57	文	波志江町三丁目 金蔵寺	文化14	高さ 75cm 幅 29cm 総高123cm	文化十四丑年九月大由日 庚申　講中　（六名略） 悉能満足渋羅密 当楽豊饒生勝族 由莫山拝書 石工　西村安與澄	角柱
58	文	馬見塚三橋町 金井家西	嘉永6	高さ 23.5cm 幅 14cm 総高 cm	百村百庚申 嘉永六癸丑八月吉日建之	自然石
59	文	安堀町 西太田 観音堂	安政7	高さ 93cm 幅 57.5cm 総高123cm	庚申塔　（台）当組講中（二八名略） 安政七龍次庚申年二月吉日建之	自然石 日月
60	文	三和町書上 赤城神社跡	万延元	高さ160cm 幅 151cm 総高 cm	万延元年庚申春庚申日建之組中 石橋供養 庚申 一菴美孝書	自然石 行書
61	文	曲輪町 延命寺	万延元	高さ 78cm 幅 28cm 総高 cm	帝釈天 万延元庚申九月吉祥日紺屋町 高橋多吉	自然石

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
62	文	下道寺町 塔の辻	万延元	高さ123cm 幅 31cm 総高 cm	猿田彦大神左やったわたし 右五れう道 （裏） 万延紀元庚申歳拝庚申尊一万基 同秋九月庚申日建之下道寺村中	円柱形
63	文	馬見塚渕町 茂木家西	万延元	高さ 64cm 幅 69cm 総高 cm	庚申塔 万延元庚申歳 十一月吉日 渕上中	石白
64	文	華蔵寺町 御嶽山	万延2	高さ112cm 幅 42.5cm 総高 cm	庚申塔 当所塩野求左エ門合掌 万延辛酉年二月庚申日	自然石
65	文	下蓮町 二七四―一	慶応3	高さ 75cm 幅 55.5cm 総高 cm	百村 慶応三卯花月庚申日立之 庚申塔 当所斎藤百行	自然石
66	青面	宮子町 紅葉去跡	不明	高さ110cm 幅 44cm 総高 cm	釈迦文仏 （青面尊六臂像） 青面金剛	舟形 日月 三猿二鶏
67	青面	茂呂町一丁目 清音橋西	不明	高さ 55cm 幅 33cm 総高 cm	（青面尊六臂像）	舟形 ショケラ 三猿

太田市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	文	東長岡 長運寺	寛文2	高さ122cm 幅 48cm 総高 cm	寛文二壬寅年折秋吉祥日 彭候尸　彭常尸　命児尸 南□菩提大日本国東山道上野州山田郡 蘭田荘 新田領東長岡郷伊豆山村庚申供養人数 廿七人 奉建立石塔一宇者也□主敬白	板碑形 日月 二猿二鶏
2	像	茂木 正願寺	寛文6	高さ 99cm 幅 53cm 総高 cm	寛文六□□□七月吉日 （地蔵像） 庚申待供□	日月 二猿二鶏
3	像	上田島 常楽寺	寛文6	高さ122cm 幅 60cm 総高 cm	寛文六□□天十月六日 （地蔵像） 奉造立□□□	日月 二猿二鶏
4	像	大島	寛文8	高さ112cm 幅 48cm 総高 cm	寛文八年□□十月吉日 （地蔵像） 奉造立庚申□供養□ （四一名略）	日月 三猿二鶏
5	像	台之郷 江徳寺	寛文8	高さ 95cm 幅 60cm 総高 cm	寛文八□ （地蔵像） □	日月 二猿
6	像	浜町 地蔵院	寛文9	高さ104cm 幅 66cm 総高 cm	寛文九年□□七月吉日 （地蔵像） 奉造立□供養 施主	日月 二猿二鶏
7	像	長手 浅間神社	寛文9	高さ157cm 幅 65cm 総高 cm	寛文九己酉九月吉日 （地蔵像） 奉造立庚申待供養 長手村 施主	板碑形 日月 二猿二鶏
8	像	市場 東応寺	寛文10	高さ120cm 幅 75cm 総高 cm	寛文十□戌年十月吉祥日 （地蔵像） 奉造立庚申□ 施主	日月 二猿二鶏
9	青面	只上 三ツ堀 常盛庵跡	寛文13	高さ125cm 幅 45cm 総高 cm	寛文十三癸丑七月廿日 （青面尊六臂像） 三堀村	日月 二猿二鶏

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
10	像	寺井 聖王寺	延宝2	高さ 92cm 幅 47cm 総高 cm	延宝二年寅十一月吉日 （地蔵像）施主	日月 二猿二鶏
11	文	東金井 藤本家前	延宝3	高さ 96cm 幅 43cm 総高 cm	延宝三年□十月三日 奉造立為庚申供養二世安楽 南金井村	日月
12	青面	上田島 常楽寺	延宝3	高さ116cm 幅 37cm 総高 cm	延宝三年十月吉日 （青面尊四臂像） 奉造立庚申供養　杉内村 施主卅人	舟形
13	青面	牛沢 新田墓地	延宝3	高さ105cm 幅 37cm 総高 cm	延宝三乙卯十一月吉日 （青面尊六臂像） 牛沢村 結衆	三猿二鶏
14	青面	丸山薬師	延宝4	高さ118cm 幅 70cm 総高 cm	延宝四□辰天十月十一日 （青面尊二臂像）本願 奉造立庚申石彫一躰為二世安楽	舟形 日月 二鶏二猿
15	青面	別所 円福寺	延宝8	高さ104cm 幅 44cm 総高 cm	延宝八庚申年八月吉日 （青面尊六臂像） 奉庚申供養石像一体信心　当村道俗	日月 二鶏三猿
16	青面	由良 諏訪 八州屋前	延宝8	高さ157cm 幅 56cm 総高 cm	延宝八庚申天十一月五日 （青面尊六臂像）	舟形 日月 二鶏三猿
17	青面	成塚 向山南斜面	天和3	高さ141cm 幅 43cm 総高 cm	奉造立庚申供養 （青面尊四臂像） 天和三年寅十月廿一日	舟形 瑞雲日月 二鶏二猿
18	青面	沖之郷 実相寺	元禄5	高さ112cm 幅 45cm 総高 cm	元禄五壬申十一月吉日　沖之郷村中 （青面尊六臂像） 奉□□庚申供養二世安楽所	日月 二鶏三猿 鬼
19	文	吉沢 唐沢	元禄10	高さ 78cm 幅 36cm 総高 cm	奉造立為二世安楽　施主惣村 元禄拾天□□十月十六日 石像一宇庚申并石橋□□供養	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
20	青面	東別所 本郷	元禄11	高さ 90cm 幅 44cm 総高 cm	元禄十一戊寅十月吉日　施主村中 （青面尊六臂像） 奉建立八面石像一躰二世安楽	日月 二鶏三猿
21	文	矢田堀 一四四	宝永6	高さ157cm 幅 45cm 総高 cm	宝永六天己丑十一月大吉日 奉供養青面金剛塔 吉沢村施主廿五人	日月
22	青面	丸出八五八	宝永7	高さ 95cm 幅 47cm 総高 cm	宝永七庚寅天十月吉祥日 （青面尊六臂像） 奉供養庚申二世安楽所　同行廿二人	日月 三猿二鶏
23	文	台之郷 江徳寺	正徳元	高さ 71cm 幅 40cm 総高 cm	正徳元卯天十一月吉日 奉供養庚申二世安楽也	
24	青面	寺井 聖王寺	正徳2	高さ120cm 幅 52cm 総高 cm	正徳二壬辰年十月日 （青面尊六臂像） 奉造立庚申供養　寺尾村 一結	日月 二鶏三猿
25	青面	竜舞 正運寺	正徳3	高さ175cm 幅 52cm 総高 cm	正徳三癸巳天三月吉祥日 （青面尊六臂像）　龍舞村上宿 為現当二世　三十三軒 らくかききんせい	日月 二鶏三猿 鬼
26	文	八重笠 正竜寺	享保元	高さ170cm 幅 36cm 総高 cm	享保元丙申十一月吉日 庚申供養塔　八重笠村らくかき 庚申講中　きんせい	
27	青面	東矢島 薬王寺	享保13	高さ100cm 幅 40cm 総高 cm	享保十三申天二月吉日 （青面尊六臂像） 東矢島村施主田屋中	日月 ショケラ鬼 三猿二鶏
28	文	北金井 大鷲神明宮	享保19	高さ168cm 幅 110cm 総高 cm	享保十九天甲寅四月吉日 庚申供養	自然石 惣書 瑞雲日月 二鶏三猿
29	文	細谷 教王寺	元文5	高さ 68cm 幅 45cm 総高 cm	元文第五慈海庚申八月十二日 青面金剛塔　細谷村原口講中	日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
30	文	沖野 延命寺	元文5	高さ 85cm 幅 46cm 総高 cm	元文五庚申歳九月吉祥日	自然石
31	文	吉沢 学音寺	元文5	高さ130cm 幅 92cm 総高 cm	元文五天十月大吉日 奉供養青面金剛□塔 七日市村中	
32	青面	丸山薬師	元文5	高さ125cm 幅 41cm 総高 cm	元文五庚申天十月吉日 （青面尊六臂像） 丸山村中	日月 鬼 ショケラ 二鶏三猿
33	青面	丸山七二〇	延享3	高さ 77cm 幅 32cm 総高 cm	延享三丙寅十月吉日 （青面尊六臂像） （丸山村講中八人）	日月 鬼 二鶏三猿
34	文	東金井 玉厳寺	寛延1	高さ150cm 幅 90cm 総高 cm	庚申 寛延元年十二月 内金井村	
35	文	竜舞 御霊神社	宝暦12	高さ117cm 幅 57cm 総高 cm	庚申塔 宝暦壬午天十月吉日 龍舞村原中	
36	文	東金井 庚申様	天明8	高さ151cm 幅 111cm 総高 cm	庚申塔 天明八戊申稔仲秋 東金井邑中	
37	文	長手入口 道端	寛政12	高さ160cm 幅 70cm 総高 cm	庚申塔 寛政十二庚申十月吉日	
38	文	牛沢新田 墓地	寛政12	高さ 72cm 幅 30cm 総高 cm	庚申塔 寛政十二庚申十一月吉日 うしざわ村 かすミ中	
39	青面	八重笠 四三〇	文化2	高さ 65cm 幅 29cm 総高 cm	文化三寅十一月吉日 （青面尊六臂像） 村中	日月 鬼 ショケラ 三猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
40	文	西長岡 長岡寺	文化8	高さ 65cm 幅 29cm 総高 cm	文化八未閏二月吉日 千庚申 西三人	
41	青面	古氷五八	文化9	高さ 67cm 幅 30cm 総高 cm	文化九壬申十月吉日 （青面尊六臂像）	日月 二鬼 ショケラ
42	文	下小林 一行寺	嘉永元	高さ 70cm 幅 37cm 総高 cm	嘉永元年申十月十六日 千庚申供養 願主長谷川富右衛門	
43	青面	古氷四八	安政4	高さ 67cm 幅 28cm 総高 cm	安政四年十月吉日 （青面尊六臂像）	日月 鬼 ショケラ
44	像	上田島 鳥ケ谷戸	万延元	高さ 78cm 幅 29cm 総高 cm	元延元年庚申九月日 （猿田彦像）猿田彦大神 施主 加藤	板状塔 瑞雲日月
45	文	牛沢新田 墓地	万延元	高さ104cm 幅 58cm 総高 cm	万延元庚申年冬十月日 庚申 牛沢村宿曲輪中	日月
46	百庚申	高林 長勝寺 庚申塚	万延元	高さ 65cm 幅 60cm 総高 cm	庚申 万延元申年十月吉日	計六〇基
47	文	牛沢新田 墓地	万延元	高さ 90cm 幅 63cm 総高 cm	庚申 萬延元年庚申十一月十六日 牛沢村 石工 妻沼 須藤又右衛門	
48	文	強戸 瑞光寺	万延元	高さ165cm 幅 105cm 総高 cm	庚申 萬延元庚申年十一月吉□ 講中	
49	文	藤阿久	万延元	高さ 70cm 幅 45cm 総高 cm	万延元庚申十一月吉日 藤阿久村中	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
50	文	吉沢 唐沢	万延元	高さ 96cm 幅 42cm 総高 cm	庚申 万延元年庚申霜月□□	
51	文	強戸 瑞光寺	寛政3	高さ 70cm 幅 50cm 総高 cm	庚申 寛政三辛亥年十月吉日 子供講中	自然石

沼田市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	文	沼田市柳町 三光院	元禄7	高さ 74cm 幅 450cm 総高128cm	奉造立供養 元禄七 伝五兵衛 藤右エ門 忠丘衛 綾助 九兵衛 五兵衛 （裏） 太良右エ門 保之亟 杢兵衛 清右エ門	笠付 角柱型 日月 一猿二鶏
2	文	材木町 天桂寺	文化10	高さ180cm 幅 98cm 総高210cm	庚申 （裏）文化十癸酉八月吉辰 壇中建之 廣久忠誌	自然石 篆書
3	文	柳町 三年坂	文政元	高さ 68cm 幅 30cm 総高 68cm	（庚申文字六列七段刻む） 百庚申 （同右　　） （裏）（庚申文字二列一段一列二段刻む） 文政元年戊寅十一月吉日	尖頭角柱 百の庚申文字を刻む 一石百庚申
4	青面	材木町 天桂寺	正徳5	高さ 81.5cm 幅 42cm 総高103.5cm	（正面）（青面尊六臂像） 正徳五乙未天 十一月十三日 上山五兵衛 吉沢□兵衛 小林右□丞 木村□□ □塚平助 （台石部分） 真下三良右エ門 石坂力三丞 小林九条八 大沢市右エ門	舟形 光背型
5	青面	坊新田町 安楽寺跡	元禄9	高さ 79cm 幅 38cm 総高 93cm	元禄九天丙子十一月七日 （青面金剛四臂像）	舟形 光背型 二猿二鶏
6	文	坊新田町 愛宕神社	万延元	高さ208cm 幅 118cm 総高246cm	庚申 施主坊新田町中 萬延元庚申歳閏三月庚申日	自然石 篆書

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
13	層	新町 高橋保家入口	不明	高さ 18cm 幅 60cm 総高186cm	(一層目二猿と蓮華　二層目蓮華 三層目二鶏)	層塔型 (三層)
12	青面	戸鹿野町 東源寺	享保14	高さ113cm 幅 40cm 総高 56cm	(正面)(青面金剛像) (台石正面)(台石右)(台石左) 青面金剛　施主　享保十四 己酉歳 奉建立十一月吉日	光背型 三猿
11	殿	榛名町 榛名神社	不明	高さ 34cm 幅 53cm 総高102cm	(二鶏) (二猿)	石殿型
10	層	〃	不明	高さ295cm 幅 68cm 総高295cm	(正面)一層目に蓮華　三層目に二鶏 四層目に月　五層目に日	層塔型
9	文	鍛冶町 正覚寺	文政7	高さ206cm 幅 76cm 総高306cm	庚申 (裏)文政七年甲申二月良辰　藤賀和敬□印 石工　小林伊左衛門周宣　鍛冶町中	自然石
8	文	柳町 観楽院	元禄8	高さ 87cm 幅 55cm 総高135cm	元禄八年 奉供養庚申 亥十月十九日	笠付型 日月　二鶏
7	青面	材木町 舒林寺	延宝2	高さ103cm 幅 49.5cm 総高122cm	奉造立庚申供養　木檜七左ェ門 (青面尊六臂像) 延宝二年甲寅(重)三月吉日	舟形 光背型 三猿二鶏 ショケラ

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
14	青面	新町 千日堂	延宝8	高さ 68cm 幅 52cm 総高 91cm	延宝八年四月五日 (青面尊六臂像)	笠付型 三猿二鶏
15	殿	〃	不明	高さ 30cm 幅 46cm 総高 71cm	(鶏) (二猿) (鶏)	石殿型
16	殿	沼須町 東金井基行家	不明	高さ 87cm 幅 52cm 総高 87cm	(日月) (鶏) (二猿)	石殿型
17	青面	沼須町 愛宕山	享和2	高さ 61cm 幅 31.5cm 総高 61cm	享和二壬辰 三月吉日　星野氏 (青面金剛像)	光背型
18	青面	沼須町 砥石神社	享保6	高さ 69cm 幅 40cm 総高 83cm	(青面金剛像) (台石正面) 享保六 庚申供養 十二月吉日 金井	舟形 光背型 猿がヘイソクを持つ 一猿二鶏
19	青面	上沼須町 金剛院跡	天明5	高さ 93cm 幅 29cm 総高147cm	(青面金剛像) (台石右)惣村願主 (台石左)天明五乙巳五月吉日	光背型
20	青面	〃	享保14	高さ 95cm 幅 35cm 総高 95cm	政左衛門 左玄平 左平治 (青面金剛像) 享保十四己酉天八月吉日 施主　天右衛門 又右衛門 仲左衛門	光背型
21	文	〃	宝永元	高さ 74cm 幅 31.5cm 総高 74cm	寶永元年 庚申供養 甲申七月九日 (三猿)	起舟板碑型 三猿二鶏

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
22	殿	栄町 十二神社内	不明	高さ 90cm 幅 50cm 総高 90cm	（二猿） （台）猿奉供養 （三）青面金剛	台石は別もの 石殿型
23	文	下久屋町 中平	天明9	高さ 74cm 幅 29cm 総高126cm	天明九辰年 願主十四人 （ヤマヤ）庚申塔 十月吉日	
24	文	下久屋町 八幡宮	寛政12	高さ106cm 幅 35cm 総高106cm	庚申塔 （裏）寛政十二庚申仲冬建之 永井講中	自然石
25	青面	上久屋町 孝養寺	宝永7	高さ196cm 幅 62cm 総高196cm	于時宝永七庚寅天 九月念一日 （青面金剛像） 腰越村施主 住人 十三人	笠付型
26	文	横塚町 延命寺	元文5	高さ150cm 幅 39cm 総高210cm	（ヤマヤ）元文五庚申天 （ヤマヤ）庚申供養 閏七月吉祥日	角柱型
27	青面	〃	元禄7	高さ 119cm 幅 49cm 総高 142cm	（ヤマヤ）奉造立庚申供養同行七人敬白 （青面金剛像） 于時元禄七甲戌歳十二月吉日	光背型
28	青面	〃	正徳2	高さ109cm 幅 53cm 総高148cm	奉造立青面金剛菩薩埵供養塔二世安楽 所施主敬白 （青面金剛像） 利根郡 于時正徳二壬辰七月日横塚村結衆 十六人	光背型
30	他	上発知町 楚利	元禄3	高さ 82cm 幅 33.5cm 総高 82cm	元禄三年十月吉日 （二鶏） （二猿）	板碑型

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
31	青面	上発知町 門前 墓地	元文2	高さ 34cm 幅 36cm 総高 68cm	（青面尊六臂像） 元文二天巳七月日	磨崖仏 三猿二鶏
32	青面	上発知町 細通	正徳2	高さ 80cm 幅 46cm 総高104cm	正徳二壬辰歳 （青面金剛像） 十月二十八日	光背型
33	青面	上発知町 香林寺入口	元禄7	高さ125cm 幅 48cm 総高147cm	奉造立庚申供養之塔善男十八人 （青面尊六臂像） 茲時元禄七甲戌年吉祥日願主敬白	特殊な形態 日月 三猿
34	文	〃	明和7	高さ 80cm 幅 52cm 総高188cm	明和七庚寅年 庚申塔 十一月吉祥日	笠付型
35	殿	〃	不明	高さ 73cm 幅 43cm 総高 73cm	承應□□ 八月□ 歳 （二鶏） （二猿）	石殿型
36	殿	中発知町 大陣山	不明	高さ 74cm 幅 38cm 総高 74cm	（石祠内に一鶏二猿の御身体あり）	石殿型
37	文	中発知町 東禅寺跡	元禄7	高さ 78cm 幅 50cm 総高151cm	（ヤマヤ）于時元禄七年甲戌三月吉日 上州利根郡 中発知町 庚申待供養 三十四人敬白	笠付型
38	文	中発知町 塚原	元文6	高さ128cm 幅 53cm 総高128cm	于時元文六辛酉天 宮崎村 庚申待供養塔 二月吉日 同行十人	自然石
39	文	中発知町	天保10	高さ 73cm 幅 62cm 総高 73cm	猿田彦命 （裏）天保十年 亥六月 加藤氏	自然石
40	文	発知新田町 龍渕寺入口	享保21	高さ170cm 幅 58cm 総高170cm	享保廿一丙辰天 庚申供養塔 三月吉日 同行 村中	自然石

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
41	他	発知新田町 龍渕寺	元禄6	高さ 96cm 幅 65cm 総高172cm	元禄六年癸酉 同行 四十二人 十一月十三日 （三猿）	笠付型
42	殿	〃	不明	高さ 38cm 幅 54cm 総高112cm	（二鶏） （二猿） （右）□衛門 新兵衛 次兵衛	石殿型
43	文	上佐山町 大神宮参道	延享4	高さ 80cm 幅 30cm 総高100cm	延享四丁卯天 庚申供養塔 三月吉祥日 願主	角柱型
44	青面	上佐山町 観音堂	宝永5	高さ 78cm 幅 45cm 総高136cm	造立庚申供養菩提也 （青面金剛像） 宝永五戊子六月吉辰 願主六人	笠付型
45	文	上佐山町 岩屋堂	明和2	高さ 86cm 幅 29cm 総高122cm	明和二乙酉天仲秋吉辰講中 八人 庚申供養塔 （台石正面） 右札所くぢ王ぢんをん ひだり大ぬま道　鶏 申	尖頭 角柱型 （現）道標
46	青面	上佐山町 沢浦	元禄7	高さ 60cm 幅 67cm 総高124cm	奉造立庚申供養為菩提也 （青面尊六臂像） 元禄七歳甲戌二月十一日施主十六人	特殊な型
47	青面	下佐山町 竹谷戸 水落氏裏	享保4	高さ 86cm 幅 54cm 総高173cm	享保四亥年卯月吉日 同行六人 （青面金剛像）	笠付型
48	文	奈良町 正圓寺	享保2	高さ 98cm 幅 22cm 総高163cm	享保二稔 一誉代 奉供養庚申塔 丁酉九月 （裏） 同　石 同　間 同　三 同　勝 同　右 同　弥 同　吉 同　藤 同　勝 孫　之 八　丞 高　兵 橋　衛 喜　エ 平　門 二	角柱型

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
49	殿	奈良町 薬師堂下	不明	高さ 40cm 幅 58cm 総高104cm	（二鶏） （二猿） （石祠内に仏像が安置されている）	石殿型
50	殿	奈良町	不明	高さ 42cm 幅 37cm 総高 77cm	同行七人 供養□□待 十一月□□ （二猿）	石殿型
51	青面	奈良町 正圓寺入口	元禄9	高さ 128cm 幅 58cm 総高150cm	元禄九丙子天 奉供養（青面金剛像） 霜月吉日	光背型
52	層	秋塚町 峰平 宮田子之吉 家	不明	高さ 163cm 幅 45cm 総高163cm	（一層目に鶏猿　二層目飾り）	層塔型 この塔の近くに百庚申の一部が残されている 二層
53	文	岡谷町 辻	不明	高さ 158cm 幅 80cm 総高158cm	庚申塔 無幻道人書 （裏）庚申年吉辰	自然石 角田無幻の書
54	層	戸神町 虚空蔵様	承応4	高さ 225cm 幅 53cm 総高225cm	（右）奉造立 □□ 承応四年 拾三人八月 （一層目に二鶏二猿）	層塔型 三層
55	層	原町 愛宕神社	不明	高さ 249cm 幅 59cm 総高249cm	（一層目に二猿　二層目に二鶏 四層目に月天　五層目に日天）	層塔型 五層

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
56	文	字楚井町 正行院	文化7	高さ 82cm 幅 32.5cm 総高155.5cm	（庚申の文字五列七段） 百庚申塔 （庚申の文字五列七段） （裏）（庚申の文字三十字） 文化七庚午十一月吉日	尖頭 角柱型 一石百庚申
57	青面	〃	不明	高さ 49cm 幅 43cm 総高107cm	（青面尊六臂像）	舟形 光背型 三猿
58	文	石黒町 羽黒神社	宝永7	高さ cm 幅 cm 総高 cm	吉宝永七庚寅天 庚申供養 五月日同行五拾四人 鶏申	光背型
59	層	石墨町 羽黒神社	不明	高さ243cm 幅 70cm 総高243cm	（一層目に二猿の飾り 二層目に二鶏）	層塔型 四層
60	殿	下川町町 前原	元禄7	高さ 37cm 幅 50cm 総高110cm	（ウーン） 吉元禄七甲戌申天 （二鶏） （二猿）	石殿型 唐破風付
61	灯	屋形原町 実相院	元禄7	高さ184cm 幅 60cm 総高184cm	（竿部分） 元禄七甲戌天 奉建立石燈籠庚申供養 □□楽祈所 十一月吉日	中台に三猿
62	灯	〃	元禄7	高さ194cm 幅 62cm 総高194cm	（竿部分） 元禄七甲戌天 奉建立□□□□□祈所 暮冬吉日	
63	猿	下川田町 笹尾十王堂	不明	高さ 31cm 幅 23cm 総高 31cm	（三猿がそれぞれ丸彫りで造られる）	丸彫り

館林市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	文	朝日町九 法高寺	延宝8	高さ 83cm 幅 36.5cm 総高 91cm	延宝八年 奉造立為庚申二世安 庚申九月吉日 楽 東□利右エ門 （他九名）	舟型背面 三猿浮彫り
2	文	台宿町 熊野神社	寛文8	高さ119cm 幅 47.5cm 総高 cm	寛文八年 奉壽進庚申待供養 前沢傳左エ門 申三月廿一日 （他七名）	舟型 文字
3	青面	仲町一二 千眼寺	寛文12	高さ114cm 幅 44cm 総高133cm	奉供養庚申請願安穏心所 寛文十二年子九月十五日 敬白 （注 庚申像の首欠損）	舟型背面 像浮彫り
4	青面	台宿町 熊野神社	延宝2	高さ112cm 幅 44cm 総高 cm	延宝二甲寅年 十月晦日 稲見十エ門（他五名）	舟型背面 像浮彫り
5	青面	仲町一二 千眼寺	延宝7	高さ118cm 幅 42cm 総高132cm	現世安穏□生善処為度受楽亦得聞法 荻野孫兵衛（他五名） 延宝七己未年三月二十二日	舟型背面 像 三猿浮彫り
6	青面	加法師町三 教王院	延宝8	高さ135cm 幅 45cm 総高166cm	（裏） 延宝八庚申歳 卯月吉祥日	舟型背面 像浮彫り
7	青面	本町二丁目 大道寺	貞享3	高さ123cm 幅 49cm 総高133cm	貞享三丙寅年 石川茂兵衛 （他五名）	舟型背面 像 三猿浮 彫り
8	青面	本町四丁目 五 竜泉寺	元禄元	高さ116cm 幅 41cm 総高196cm	奉造立同行四十一人 施主 谷越村 敬白 元禄元癸酉□□□	柱型 像浮彫り 一部地中埋 没

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
9	青面	仲町一〇 観性寺	宝永元	高さ 99cm 幅 44cm 総高119cm	奉納庚申供養 施主 叶院 一雲 禁誉 □田□□門 和田安右衛門 □□□□□ □□□□□□□ 左衛門 宝永元甲申十一月吉日	舟型背面 像 三猿浮彫り
10	文	朝日町九 法高寺	元文五	高さ 91cm 幅 30cm 総高100cm	元文五庚申歳十二月 青面金剛塔 臺宿町講中 加法師講中	駒型 文字
11	文	〃	天明7	高さ 44cm 幅 24.5cm 総高 56cm	天明丁未年 青面金剛 三月吉日 兼田氏	駒型 文字
12	文	台宿町七 五宝寺	寛政3	高さ 95cm 幅 47cm 総高133cm	寛政三年亥年 庚申塔 四月吉祥日 (台表) 足利町 石工 佐七 壹宿町施主次方不同 増田三良左エ門 (他四十四名) 荒井六右衛門	厚碑型 文字
13	文	本町四丁目 五 竜泉寺	寛政12	高さ 91cm 幅 48.5cm 総高121cm	庚申塔 (台表)寛政十二庚申歳 十一月吉祥日 馬場跡 講中 谷越村	自然石 文字

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
14	青面	細内墓地東	寛文5	高さ cm 幅 cm 総高213cm	中島市兵衛(他六名) 寛文五乙巳年 □□□□	柱型 笠あり 青面金剛 三猿浮彫り 風化のため 文字の判読 大半不可
15	青面	新当郷字大 御堂	延宝7	高さ cm 幅 cm 総高167.5cm	足利町 櫻井藤七郎建立 延宝七天己未二月吉日	舟型背面 像 三猿浮 彫り ※台石は後 につくら れたもの
16	青面	当郷 薬師堂	貞享2	高さ cm 幅 cm 総高210cm	奉造立庚申供養如意請願成就 法印祐範 法印重笛 寛譽 于時 貞享二年乙丑歳 上野国邑楽郡土橋村 (台裏) 施主 敬白	柱型 笠あり 青面金剛 三猿浮彫り 台石表、右 左に七十余 名の名前あ り風化ひど く判読で きず
17	青面	四ツ谷 宝寿院	元禄5	高さ 86cm 幅 44cm 総高 cm	元禄五壬申年 十月吉祥日 奉造立範□ 庚申 供養塔 敬白	舟型背面 青面金剛 三猿浮彫り
18	青面	田谷墓地	宝永5	高さ124cm 幅 50cm 総高 cm	奉造立庚申供養塔 上野國邑楽郡 宝永五年戊子十月吉祥日 佐実(貫か)庄田谷村	舟型背面 青面金剛像 三猿浮彫り
19	青面	四ツ谷 宝寿院	享保11	高さ cm 幅 cm 総高167cm	奉造立庚申供養塔上劔邑楽郡四ツ谷村 享保十一年丙午年二月吉祥日施主村中	柱型笠あり 青面金剛像 三猿浮彫り
20	文	千塚判官塚	享保20	高さ 98cm 幅 32cm 総高 cm	享保廿乙卯天十一月吉祥日 青面金剛供養塔	柱型 文字

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
21	文	大島 寄屋	万治4	高さ cm 幅 cm 総高157cm	萬治四辛丑年三月十日建之 大出氏 濱野氏諸衆敬白 （以下略「庚申」の文字あり）	舟型 二猿浮彫り
22	文	大島 岡里墓地	寛文5	高さ cm 幅 cm 総高 cm	寛文五乙巳年 施主 奉供養庚申待之正堂□□□ 八月七日 敬白	柱型笠あり 二猿 境内より移動
23	青面	大島 岡里	元禄15	高さ110cm 幅 45cm 総高 cm	奉供養庚申如意満尼之所 願主 元禄十五壬午九月吉日 □□□□□	舟型背面青面金剛 三猿浮彫 鳥居あり
24	文	大島 本郷天満宮 前	享保18	高さ cm 幅 51cm 総高260cm	南無青面金剛 享保十八年癸丑歳十月大吉日 施主 當村中	柱型 二猿
25	文	大島 山王日限地 蔵前	寛政6	高さ 80cm 幅 27cm 総高 cm	庚申 寛政六甲寅六月吉日 南たてばやし 東ふじおか 西あしかが 北杉のわたしさの道	柱型 文字 兼道標 南向き
26	文	当郷一九六 八 松林寺	享保19	高さ129cm 幅 64cm 総高153cm	奉彫形庚申待供養二世安楽 敬 （像） 寛文十二壬子九月吉□□ 白	舟型光背 三猿
27	猿	大字羽附 八中宿 幡神社境 内	寛文12	高さ 72cm 幅 34cm 総高 cm	奉造立青面金剛像二世安楽祈所有縁 （像） 是歳延宝七己未天冬十月良日 羽付新田村	舟型光背 三猿
28	面	大字羽附 新興 薬師堂境内	延宝7	高さ cm 幅 64cm 総高146cm	奉造立青面金剛 施主 延宝七年己未十一月吉日羽付村 白 敬	舟型光背 三猿
29	面	大字羽附 本宿 宝秀寺境内	延宝7	高さ 76cm 幅 37.5cm 総高108cm	貞享三丙寅年 （像） 八月吉日 同行三十八人	舟型光背 三猿
30	面	大字赤生田 子ノ神社境 内	貞享3	高さ 99cm 幅 39.5cm 総高111cm		
31	面	大字赤生田 下新田 白山神社入 口	宝永7	高さ 92cm 幅 38cm 総高107cm	奉造立庚申二世安楽処也 （像） 宝永七庚寅九月吉日 赤生田村	約三十年前北方西墓地より移転 舟型光背三猿
32	〃	〃	享保9	高さ105cm 幅 55.5cm 総高163cm	上野國邑楽郡館林赤生田村 講中 敬白 奉造立庚申供養塔為二世安楽也 維時享保九甲辰天九月吉祥日立之	唐破風付柱型 三猿 約三十年前北方西墓地より移転
33	文	大字赤生田 上赤生田 観音堂境内	元文5	高さ 68cm 幅 29cm 総高 cm	上赤生田村中 願主敬白 青面金剛塔 元文五庚申仲秋穀旦	笠部欠損 柱型
34	文	大字羽附 渕ノ上 釈迦堂境内	寛保3	高さ133cm 幅 33cm 総高 cm	寛保三癸亥天 庚申供養塔 十一月吉祥日 （台）願主敬白 渕之上講中	唐破風付柱型 三猿 宝珠欠損
35	文	大字赤生田 下新田 白山神社入 口	明和4	高さ 78cm 幅 29.5cm 総高105cm	奉庚申待 上野國邑楽郡赤生田村講中 尊重恭敬 禮拝供養青面金剛 明和四丁亥天霜月吉小護言	柱型 三猿 約三十年前西墓地より移転
36	文	大字羽附 長竹	明和5	高さ 46cm 幅 35cm 総高 90cm	明和五戊子十月吉日（台）（十六名略） 庚申供養塔 東観音道 長竹十六人の内 北方淡島道	自然石 道標重複
37	文	大字羽附 本宿 宝秀寺境内	明和6	高さ cm 幅 31cm 総高 88.5cm	明和六丑年 青面金剛 八月吉祥日 當宿中	柱型
38	面	大字赤生田 下新田	天明2	高さ 64cm 幅 28cm 総高 77cm	天明二庚年二月吉日 （像）	舟型光背 三猿 「ヒノツカ庚申」（檜塚）
39	文	大字赤生田 下新田 白山神社入 口	寛政8	高さ109cm 幅 38cm 総高133cm	庚申塔 寛政八丙辰歳十一月吉日 上州邑楽館林領 赤生田村	柱型 西墓地より移転
40	文	大字羽附 渕ノ上 釈迦堂境内	寛政12	高さ 75cm 幅 29cm 総高 cm	青面金剛 寛政十二庚申年 十月吉祥日 （台）施主 當村 講中	櫛形柱型

上州の庚申塔　１００頁は

個人情報が含まれるため非公開

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
59	文	下早川田 神明宮境内	延享3	高さ 73cm 幅 25cm 総高100.5cm	養意山 林泉菴 庚申供養塔 禁葷 延享三丙寅年十一月吉日 當所 講中	

渋川市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	殿	上郷 島街道	寛永15	高さ114cm 幅 46cm 総高 cm	于時寛永十五年	
2	層	並木町 遍照寺	明暦4	高さ200cm 幅 52cm 総高252cm	□奉祈所為□宝塔守庚申念佛供養 明暦四天八月十日 □□者也施主當村三十七人□□□	日月 二鶏二猿
3	層	上郷 藍園墓地	万治元	高さ274cm 幅 62cm 総高 cm	萬治元 （五層塔）	日月 二鶏二猿
4	文	並木町 真光寺	延宝8	高さ cm 幅 cm 総高 cm	奉待庚申二世安全処 次兵衛他六人 延寶八庚申霜月大吉日	鶏猿日月を刻む 板碑形
5	文	〃	元禄5	高さ191cm 幅 87cm 総高311cm	南無阿弥陀佛 奉造立庚申供養所 字尒時元禄五壬申天十一月大吉日 梵 大島五左ヱ門他五人	角柱笠付
6	文	〃	元禄5	高さ133cm 幅 46cm 総高 cm	南無阿弥陀佛奉造立庚申供養所 元禄五壬申天十一月吉日 円明他六人	笠付角柱
7	文	〃	元禄9	高さ195cm 幅 58cm 総高 cm	南無阿弥陀佛 元禄九丙子天九月十六日 阿部清九郎他八人	基礎に二鶏 二猿を刻む 笠付角柱
8	文	元町 秋葉神社	享保5	高さ107cm 幅 34cm 総高180cm	奉造立庚申供養塔 享保五庚子天林鐘吉日 金子市右衛門他五人	角柱
9	文	並木町 真光寺	寛政8	高さ 90cm 幅 37cm 総高150cm	庚申塔　寛政八歳次丙辰仲冬 導師真光寺権僧正亮應 講師堀口善次郎他七人	角柱
10	青面	上郷	元禄7	高さ 96cm 幅 44cm 総高 cm	元禄七年卯三月	角柱

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
11	青面	並木町 真光寺	元禄10	高さ128cm 幅 48cm 総高153cm	奉造立庚申供養 請願成就之所　為二世安楽也 元禄十丁丑九月吉日	舟形
12	青面	入沢 花欠地蔵	正徳2	高さ 85cm 幅 46cm 総高 cm	奉供養　元町 正徳二壬辰十一月吉日 依田治左衛門他七人	舟形
13	文	入沢 渋川八幡宮	寛政12	高さ130cm 幅 55cm 総高 cm	庚申塔 寛政十二年歳次庚申十一月吉辰 明治三拾四年五月　三里ま除	
14	文	入沢 入沢百庚申	文政7	高さ140cm 幅 65cm 総高 cm	猿田彦□ 文政七甲申仲冬　桑島織部	
15	文	寄居町 妙法寺	万延元	高さ 95cm 幅 60cm 総高 cm	庚申塔 萬延元年庚申十一月吉日 源賢樹謹書	
16	文	〃	万延元	高さ116cm 幅 75cm 総高144cm	庚申塔　駒形山十八世延壽代 万延元年庚申十一月吉日 発起人足立儀兵ヱ他十六人 七十有二源賢樹 信劣高遠石工　中山十吉	
17	文	上郷 上之原	寛政12	高さ 70cm 幅 40cm 総高 cm	青面金剛 寛政十二年庚申季冬	
18	殿	川島 下川島 （綿貫家）	寛永6	高さ 88cm 幅 57cm 総高 cm	寛永六年巳六月五日	石堂内部に石像あり 三猿二鶏あり
19	殿	金井 庚申山	明暦2	高さ 97cm 幅 63cm 総高118cm	本願真如□奉却□石塔一基庚申為 于時明暦二丙申九月十五日 願主敬白　九右衛門他	二鶏二猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
20	青面	祖母島 宗光寺跡	元禄12	高さ130cm 幅 30cm 総高 cm	（梵字）庚申供養 西上州群馬郡祖母島村 當元禄十二乙辰年七月吉日宗光寺 福島茂左衛門 他十五人の銘あり	青面金剛像あり 二鶏二猿 笠付角柱 元禄十二は 己卯
21	青面	祖母島 福島家墓地	享保4	高さ 90cm 幅 50cm 総高 cm	庚申供養 享保四巳天八月日　施主三十三人敬白	舟形光背 六臂二猿
22	像	祖母島 宗光寺跡	寛文11	高さ cm 幅 20cm 総高125cm	奉修庚申供養攸 （竿）于時寛文十一辛亥下四月吉日 良辰　敬白　宗光院	上部に如来像あり 竿　円柱
23	文	川島 上川島	万延元	高さ182cm 幅 44cm 総高210cm	大青面金剛 萬延元年庚申十二月吉辰 両峯正大先達勧得法大阿闍梨光旗書 加藤又右ヱ門他加藤姓八人	自然石加工
24	百庚申	祖母島 千庚申	万延元	高さ170cm 幅 200cm 総高210cm	大青面金剛 萬延元庚申歳十一月吉旦	祖母島の千庚申と他に四八基あり
25	文	祖母島 宗光寺跡	元禄4	高さ cm 幅 55cm 総高154cm	梵　奉造立庚申供養為之 西上州群馬郡祖母島村 元禄四辛未天七月十六日　施主拾人	自然石 梵字を刻む
26	百庚申	金井 百庚申	寛政12	高さ145cm 幅 66cm 総高175cm	百庚申 寛政十二庚申歳次七月建立　当村講中	自然石 多数の庚申あり
27	文	金井 下金井 旧薬師堂	元保9	高さ200cm 幅 47cm 総高250cm	庚申　七十九翁賢和 天保九戊戌年五月吉祥良旦 岸治右ヱ門他七人	自然石加工
28	文	川島 息耕庵	天保15	高さ195cm 幅 19cm 総高220cm	梵　守庚申夜塔 天保十五庚辰星舎仲春吉辰惣村中 昭明老人書	自然石

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
29	文	南牧 十二社下	万延元	高さ 88cm 幅 50cm 総高 cm	十庚申 万延元庚申年　田中権兵衛	自然石
30	文	祖母島 富貴原	不明	高さ 51cm 幅 39cm 総高 69cm	八千庚申　平六	自然石
31	文	金井 矢ノ頭	天保5	高さ135cm 幅 34cm 総高150cm	猿田彦大神 天保五甲午仲春謹立	自然石
32	灯	阿久津 十玉堂	享保3	高さ cm 幅 cm 総高 cm	奉造立庚申供養石燈籠 享保三戊戌歳三月吉日	灯篭
33	殿	八木原 諏訪神社	宝永4	高さ142cm 幅 73cm 総高 cm	奉造立庚申御堂大小信□心寄進 且中祈願成就 惣而堂村繁昌長久息才如意祈文　當供 娘清泰寺十一世實賢　寶永四丁亥天九 月十一日	
34	文	半田 早尾神社	元禄13	高さ 63cm 幅 25cm 総高 80cm	庚申千年供養 元禄十三年庚辰十月吉祥 高橋伊兵衛他五人	角柱
35	文	有馬 宝憧寺	享保16	高さ 98cm 幅 33cm 総高137cm	庚申供養塔 南無十方常住三宝 卍 享保十六亥天六月吉日	日月 三猿 角柱
36	灯	半田 早尾神社	寛文11	高さ190cm 幅 60cm 総高 cm	奉造立庚申供養塔 願主二十二人敬白　願現世安穏後世得具所 寛文十一辛戌天十月吉日	灯篭
37	文	有馬 上有馬	寛政12	高さ206cm 幅 70cm 総高288cm	庚申塔　上有間村中 寛政十二庚申十二月吉日	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
38	文	有馬 若加保神社	文政13	高さ115cm 幅 36cm 総高175cm	信陽善光寺在川合村酒師山岩重蔵 庚申塔 文政十三庚寅年四月吉日	日月
39	文	有馬 若加保神社	安政7	高さ111cm 幅 57cm 総高130cm	青面金剛王 維時安政七庚申年三月吉祥鳥　定岩拝書	自然石
40	青面	中村 早尾弁天	慶応4	高さ 99cm 幅 51cm 総高122cm	慶応四年戊辰孟夏謹立 當村中	丸彫　立像
41	殿	石原 手川	寛文6	高さ108cm 幅 48cm 総高 cm	奉待庚申霊位 寛文六年十二月大吉日	
42	青面	石原 猿田彦神社	元禄3	高さ 86cm 幅 50cm 総高118cm	元禄三年庚午卯月吉日 施主同行拾二人	
43	文	行幸田 中筋百庚申	安永5	高さ 95cm 幅 36cm 総高185cm	庚申供養塔 安永五丙申歳十一月吉祥日　中筋中	角柱
44	文	中村 早尾神社	寛政12	高さ125cm 幅 60cm 総高217cm	庚申塔　光旒書 寛政十二年歳宿庚申冬十一月良辰建 焉	
45	文	石原 高源地	万延元	高さ 95cm 幅 50cm 総高 cm	庚申塔　万延元年庚申十一月吉日 木暮賢樹拝書　郷内講中謹立	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	文	保美赤坂 天陽寺	元和6	高さ 95cm 幅 38cm 総高 95cm	庚申塔 (裏)元和六庚申年建 寛政十二庚申年改再	
2	殿	下栗須 西勝寺本堂 南	寛文4	高さ 66cm 幅 57cm 総高 76cm	奉造立庚申御宮殿 于時寛文四天甲辰霜月 (二猿)	硬砂岩 唐破風付屋根
3	殿	岡之郷温井 光蓮寺	寛文7	高さ 58cm 幅 44cm 総高 58cm	寛文七年未ノ十月吉日	石堂方形造 硬砂岩 二猿向き合い握手 北の塔と一対か
4	文	森新田上宿 東福院	延宝元	高さ cm 幅 cm 総高 cm	延宝元年癸丑天十一月吉日 奉造立庚申供養所 一結衆等	頂部に一鶏 日月の線刻 基底部に三猿
5	文	下栗須 西勝寺本堂 南	延宝8	高さ194cm 幅 79cm 総高220cm	奉供養石塔 延寶八歳庚申四月朔日 施主敬白	板碑形 砂岩 日月
6		下日野芝平 示春院	正徳元	高さ 99cm 幅 54cm 総高 99cm	奉修庚申供養塔 正徳元十月吉日 (2猿)	緑泥片岩 板碑形日月
7	文	中島 宝昌寺	享保元	高さ 95cm 幅 37.5cm 総高121cm	享保元丙申年月日 奉造立庚申供養塔 西上野緑埜郡藤岡領中嶋村	山状角柱 瑞雲日月 三猿
8	文	根岸 薬王寺跡	享保9	高さ 67cm 幅 26.4cm 総高 75.5cm	奉建立庚申供養 享保九歳庚辰十一月吉日	舟形 日月、三猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
9	文	三木本中宿	享保13	高さ 77cm 幅 48cm 総高100cm	造立庚申供養塔 享保十三戌申天二月吉祥日 (裏)納寶篋印陀羅尼經塔下息災延命火盗 潅消諸縁吉利 當三本木村中□祈□ 施主同村植竹仁兵衛	自然石 緑色片岩
10	文	西平井 仙蔵寺	享保20	高さ170cm 幅 41cm 総高270cm	奉勧請庚申寶塔 享保二十己卯年九月吉祥日 下宿講中	山伏角柱 砂岩
11		立石 立石寺	元文5	高さ 76cm 幅 30cm 総高100cm	元文五年庚申十二月日 三尸絶彭処 高木八人組	山状角柱
12	文	篠塚 西宝院門前	元文5	高さ114cm 幅 34cm 総高 cm	元文五庚申歳四月吉日 庚申供養塔 篠塚村施主 上講中 (台石に三猿)	尖頭角柱 日月
13	文	緑埜一四六 斉藤家墓地	元文5	高さ134cm 幅 33cm 総高252cm	庚申供養塔 元文五年庚申七月吉日 (台)右妙儀道 緑野邑	山状の角柱 砂岩
14	文	緑埜 板倉墓地脇	元文5	高さ 84cm 幅 32cm 総高114cm	板倉邑中 庚申供養塔 元文五天十月穀旦 (三猿)	隅丸角柱
15	文	上日野 小相	元文5	高さ135cm 幅 48cm 総高155cm	庚申供養塔 元文五庚申天 十二月吉祥日	自然石 緑色片岩 日月
16		南町上組	寛保3	高さ 56cm 幅 25.5cm 総高 56cm	庚申供養塔 寛保三癸亥天十月吉日 施主六人	山状角柱 中程から折れる白米を供える
17	文	三本木 興福寺参道	明和8	高さ174cm 幅 73cm 総高194cm	青面金剛塔 明和八卯天七月庚申日 (裏)□山十三代 村中	自然石

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
18	文	上日野 鹿島	安永3	高さ233cm 幅 65cm 総高233cm	安永三甲午年　講中 庚申供粮塔　當所 九月吉□	緑色片岩 自然石 （板状）日月
19	文	上日野鹿島 養浩院入口	天明3	高さ118cm 幅 44cm 総高118cm	天明三卯星　講中 青面金剛塔 三月吉祥日	自然石
20	文	藤岡大戸町 天竜寺 庚申堂	寛政12	高さ158cm 幅 56cm 総高192cm	庚申塔　蘇原道人書 （裏）寛政十二庚申年□□□□	硬砂岩 板石状 六三除の信 仰　篆書
21	文	白石　北原 十二天社	寛政12	高さ 84cm 幅 53cm 総高 99cm	庚申塔　三ツ木　白石 寛政十二龍舎庚申六月大吉祥	自然石 瑞雲日月
22	文	矢場 御巡部神社	寛政12	高さ231cm 幅 126cm 総高245cm	猿田彦大神 寛政十二庚申才五月吉祥日　村中	自然石 緑色片岩 真中から三つに折れ ていである
23	文	高山中組 新井（寅久） 消防器具置 場前	寛政12	高さ186cm 幅 70cm 総高248cm	庚申塔 寛政十二庚申歳卯月吉祥日　山室 悪矢場講中 新井	自然石 下はコンク リート台
24	文	下日野芝平 示春院	寛政12	高さ158cm 幅 60cm 総高158cm	庚申塔　中山瑛応需書　下府村惣講中 寛政十二年冬十月	自然石 緑色片岩 篆書
25		上日野 小柏	寛政12	高さ215cm 幅 92cm 総高267cm	寛政十二年庚申十二月　小柏村中 庚申塔 高崎山彫書	自然石 （板状） 緑色片岩
26	文	上栗須 赤城神社	文政2	高さ 71cm 幅 45cm 総高 91cm	文政二年□八日孟春建 かのえさる（万葉仮名）	自然石 砂岩 シメ縄を巻 く
27	文	神田中神田 郵便局前南	安政2	高さ140cm 幅 54cm 総高140cm	庚申　神田中組 （裏）安政二乙卯年三月立之	自然石 緑色片岩

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
28	文	藤岡山崎 庚申山	安政7	高さ173cm 幅 115cm 総高213cm	庚申塔　武井端謹書 （裏）安政七年庚申二月発起人芦田山崎氏子連	自然石 男坂百庚申 の由来と関係 するものか
29	文	下栗須 稲荷神社	万延元	高さ122cm 幅 56cm 総高152cm	庚申 （裏）万延元年庚申稔九月吉日	自然石 緑色片岩
30	文	岡之郷下郷 東光庵	万延元	高さ160cm 幅 72cm 総高226cm	庚申　蓮道瀬尚賢謹書　願主 （裏）萬延元庚申年四月吉日建　下郷中	自然石 緑色片岩
31	文	岡之郷観音 寺本堂西	万延元	高さ129cm 幅 40cm 総高151cm	庚申 萬延元庚申年四月吉日建	自然石 緑色片岩
32	文	立石 立石寺	万延元	高さ136cm 幅 55cm 総高152cm	庚申　萬延紀元庚申歳　講中 十一月吉日茨谷戸中	自然石
33	文	中栗須 神明宮	安政7	高さ325cm 幅 71cm 総高390cm	猿田彦大神 安政七季庚申三月吉日當郷中	緑色片岩 板状
34		上葉合 宗永寺入口	万延元	高さ 77cm 幅 50cm 総高 77cm	庚申　無為斉宮拝書　惣村中 万延元年閏三月庚申日建之	自然石 緑色片岩
35	文	中大塚 平地神社境 内	安政7	高さ166cm 幅 64cm 総高218cm	安政七年庚申年二月吉祥日建 庚申 （背面）尚賢道人拝書 （台）中郷 下郷	自然石 緑色片岩
36	文	神田中神田 郵便局前南	万延元	高さ300cm 幅 90cm 総高300cm	猿田彦大神 萬延元庚申年閏三月本□建藤古山敬彫	自然石 緑色片岩 横山鶴年筆
37	文	神田中神田 高倉寺	万延元	高さ205cm 幅 77cm 総高205cm	庚申塔　宿神田□中武井端謹書 （裏）萬延元庚申年三月吉祥日 信濃高遠向山一字之介	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
38	百庚申	矢場 御岳山	安政7	高さ 81cm 幅 63cm 総高 94cm	庚申塔 安政七庚申年二月二十五日現廣沢瑞□	自然石 緑色片岩 計五五基
39	文	高山上組 泉光院跡	安政7	高さ140cm 幅 63cm 総高140cm	庚申塔　景山敬書 (裏)安政七申年	自然石 緑色片岩
40	文	上日野 鹿島	安政7	高さ156cm 幅 58cm 総高156cm	庚申塔　安政七上章淨業沙門 渭灘春精譽謹書	自然石
41	文	神田宿神田 公会堂	天保6	高さ117cm 幅 100cm 総高131cm	猿田彦大神　大己貴命少彦名命 (裏)天保六年歳乙未五月吉日建置 麻生[寛]兵衛	自然石
42	文	西平井 三島神社下 社境内	安政7	高さ162cm 幅 90cm 総高175cm	安政七庚申歳三月建 猿田彦太神 翠城　折茂恪拝書	自然石 緑色片岩
43	猿田	上戸塚久保 堀端	万延元	高さ102cm 幅 37cm 総高109cm	猿田彦太神 (浮彫坐像) (裏)萬延元庚申年一月吉日　久保講中	砂岩舟型光背 穴明き石を供える 効験　眼病に
44	文	下栗須 稲荷神社	万延元	高さ135cm 幅 130cm 総高 cm	青面王　庚申(百字体)米山高柳 (裏)依心願一百体之庚申□于春米山撰書 顕釜石□皆萬延元庚申年歳次九月庚 申日建之 開眼主小島□正　発起人(二名略) 世話人下栗須惣村(九名略)	
45	青面	下戸塚北方 三叉路	宝永元	高さ108cm 幅 49cm 総高140cm	奉供養庚申　西上野緑埜郡高山庄下戸塚村 (青面金剛像) 寶永元年甲申九月廿三日	浮彫り立像 舟型光背 下部に二鶏 三猿を刻む
46	青面	金井西浦 金コウ寺墓地	享保8	高さ 76cm 幅 37cm 総高103cm	享保八天十一月吉日 (青面尊六臂像)	板碑型 日月　二猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
47	青面	小林舞台	明和4	高さ 89cm 幅 40cm 総高 91cm	明和四年亥九月吉日 (青面尊六臂像) (3猿)	自然石緑色片岩の面を削平 下部に三猿 上部に日月を捧ぐ
47	文	下日野印地 地蔵堂前	宝永5	高さ137cm 幅 57cm 総高147cm	青面金剛 宝永五戊子天十月□　□右門 (3猿)	自然石 緑色片岩
48	文	上日野田本	安永3	高さ128cm 幅 45cm 総高 cm	青面金剛霊　安永三甲午年 三月吉祥日	自然石 日月
49	文	下栗須 稲荷神社	万延元	高さ120cm 幅 58cm 総高120cm	猿田彦大神　雪庵小島豊鏡拝書臣 (裏)皆萬延元年歳在庚申穐九月建 西組講中　彫工弓山	自然石 緑色片岩カ
50	文	三ッ木東組 稚蚕飼育所	万延元	高さ175cm 幅 80cm 総高203cm	庚申　無為斉□拝書 (裏)万延元庚申歳十二月吉日　村中	自然石 緑色片岩 行書
51	文	中大塚 平地神社	不明	高さ 93cm 幅 35.5cm 総高106cm	夫庚申明王 能救世間 僧心當中苦也□□□ □力一心而多年□楚郡中大塚村在 供恂丹倔 庚申祭塔	山状角柱 砂岩

富岡市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	文	小野 後賀	寛政7	高さ 87cm 幅 79cm 総高 cm	寛政龍舎己卯盛夏良辰 庚申塔 城谷 寛周書	
2	文	小野 白岩	天明8	高さ104cm 幅 50cm 総高 cm	天明八戊申星 青面金剛塔 九月吉日供養 願主茂木長吉	
3	文	小野 厳 松山	延宝3	高さ120cm 幅 34cm 総高 cm	延宝三乙卯天 奉造龍庚申供養二 世安楽諸願成就所 十月六日是八龍立 敬白 施主	
4	文	小野 桑原 日影	宝暦13	高さ121cm 幅 47cm 総高 cm	宝暦十三癸未歳 青面金剛塔 十一月吉祥日 講中	
5	文	小野 藤木 日影	文化4	高さ152cm 幅 43cm 総高 cm	庚申守夜塔 （裏）文化丁卯晩春吉日 中山 瑛書 願主 講中	中山瑛親
6	文	小野 藤木	寛政10	高さ108cm 幅 44cm 総高 cm	庚申塔 （裏）寛政十龍集戊午歳季秋良辰 嵒華周書 當所講中	
7	文	小野 下高尾岩鼻	寛保3	高さ108cm 幅 53cm 総高 cm	寛保三癸亥天 下高尾村 青面金剛塔 八月吉日 講中	瑞雲日月
8	文	小野 上高尾千升	元文5	高さ 86cm 幅 34cm 総高 cm	元文五庚申年 千升 庚申供養塔 十月吉祥日 講中	
9	文	小野 上高尾 高橋組	延宝8	高さ 91cm 幅 39cm 総高 cm	延宝八年 庚申供養塔 十月日 （2猿）	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
10	文	額部 岡本	享保8	高さ126cm 幅 38cm 総高 cm	奉請庚申供養之塔 享保八癸卯暦 四月吉祥旦	
11	文	額部 岡本川手上	寛政12	高さ324cm 幅 56cm 総高 cm	奉禮庚申塔 （裏）寛政十二孟夏吉辰	瑞雲日月
12	文	額部 岡本川久保	寛文10	高さ 84cm 幅 45cm 総高 cm	寛文十庚戌年 庚申供養奉刻尊像之者也 十一月六日	日月
13	文	額部 岡本上北根 （西方寺）	万延元	高さ183cm 幅 71cm 総高 cm	庚申供養塔 （裏）萬延元年九月 前高頭亮道謹書 當山現住義賢建之	瑞雲日月
14	文	〃	元文5	高さ130cm 幅 37cm 総高 cm	庚申供養塔 元文五庚申歳 七月吉祥日	瑞雲日月
15	青面	額部 野上 長福寺	享保9	高さ 42cm 幅 22cm 総高 cm	庚申童子 （庚申童子 像） 享保辰三月廿二日	
16	文	〃	享保7	高さ 90cm 幅 30cm 総高 cm	庚申供養塔 于時享保七歳十一月吉日 （裏）施主十九人 敬白	日月
17	文	〃	延宝8	高さ 90cm 幅 42cm 総高 cm	延宝八年	
18	文	額部 野上 加生	享保12	高さ112cm 幅 47cm 総高 cm	享保十二丁未年 施主 奉造立庚申塔 十一月吉日	日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
19	灯	額部 野上 日影	寛政12	高さ cm 幅 cm 総高 cm	(竿) 寛政十貳庚申首夏吉日	灯篭
20	文	額部 野上	延宝8	高さ 77cm 幅 39cm 総高 cm	延宝八年庚申九月四日 敬白 奉造立庚申之供養 西上州甘楽郡野上村施主	
21	百庚申	〃	文政7	高さ cm 幅 cm 総高 cm	庚申塔 文政七甲申年十一月吉日 (裏)岡野源五右衛門生富建立 篁種徳	瑞雲日月 計七九基
22	文	黒岩 黒川手代坂	万延元	高さ100cm 幅 55cm 総高 cm	庚申塔 (裏)万延紀元庚申歳吉祥日 雲涯裕敬書	
23	文	黒岩 黒川 御霊	享保21	高さ 79cm 幅 47cm 総高 cm	享保廿一丙辰天 黒川村 庚申供養塔 三月吉日	
24	文	黒岩 黒川 橋場	万延元	高さ125cm 幅 112cm 総高 cm	享保五年 大青面金剛尊 上黒川村講中 沙門英證 萬延元歳在庚申十有一月	日月
25	文	黒岩 下黒岩芹田	享保5	高さ 76cm 幅 33cm 総高 cm	享保五年 奉待庚申供養 十一月吉日	日月
26	文	黒岩 下黒岩砂田	寛政6	高さ135cm 幅 69cm 総高 cm	庚申塔 (裏)寛政六寅辛卯春吉日 高龍書 當村講中	瑞雲日月
27	文	黒岩 下黒岩向戸	正徳3	高さ116cm 幅 38cm 総高 cm	下黒岩村 (裏)正徳三癸巳天十月吉日 奉造立庚申供養 施主廿九人	日月
28	文	黒岩 上黒岩中央	嘉永5	高さ 52cm 幅 30cm 総高 cm	嘉永五子九月吉日 □田彦大神	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
29	文	黒岩 上黒岩大日	元禄6	高さ cm 幅 cm 総高 cm	元禄六年 □□ 供養 癸酉四月八日(2猿) (右)南無阿弥陀佛	
30	文	黒岩 上黒岩機足	文政7	高さ 61cm 幅 25cm 総高 cm	奉納庚申供養塔 文政七申年十一月日 大乗妙典六十六部 講待 十人 施主 勅使河原	
31	百庚申	〃	天保7	高さ 56cm 幅 60cm 総高 cm	庚申塔 (裏)勅使河原傳吉 同 蔵吉 久蔵 願主黛 権右衛門 曳野秀右衛門 藤井萬治郎 野口喜代松 同 桑七 須藤 仙松 天保七年丙申霜月廿八日 麓齋書 (他に) 庚申塔 九八基 □申塔 一基 無銘碑 一基 奉造立庚申供養 一基 石燈籠 一対 天保七丙申十一月廿八日 同行九人 天保七年に百庚申塔が建立されたと思われる	親庚申 (墓書) 計一〇二基 と石灯籠一対 中山瑛親
32	文	丹生 下丹生打越	万延元	高さ127cm 幅 60cm 総高 cm	庚申 無幻釋光旗撰 本邦之俗庚申守夜已古矣蓋 是道家祛裁之術乎知識七□ 結社数年今茲歳庚申樹石以 永社盟于萬世云萬延元冬日 楽圃仁維恵書 之碑	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
33	文	丹生下丹生品川区	寛政12	高さ281cm 幅 72cm 総高 cm	庚申尊 釋氏梵拝書 （裏）寛政十二竜集庚申歳冬吉旦	瑞雲日月
34	文	丹生上丹生小屋敷	万延元	高さ131cm 幅 92cm 総高 cm	庚申塔（一石百庚申塔） （裏）萬延元庚申歳星在仲冬造之	瑞雲日月
35		丹生上丹生霜降	万延元	高さ 97cm 幅 95cm 総高 cm	庚申 （裏）萬延紀元在庚申十二月吉日 寒念佛 同行 上組	
36	文	吉田神成	寛政12	高さ165cm 幅 105cm 総高 cm	庚申塔 （裏）寛政十二龍舎庚申初冬吉辰 無幻道人書	
37	百庚申	〃	天保14	高さ 43cm 幅 25cm 総高 cm	百庚申供養 天保十四龍次癸卯歳 世話人（二十六名略） 發願 寒念佛同行 十二月上旬吉辰	計二十基ほど現存
38	文	吉田新堀	元文5	高さ 58cm 幅 46cm 総高 cm	庚申供養塔 元文五庚申年 當村 九月吉祥日 講中	
39	文	吉田蚊沼	寛保3	高さ135cm 幅 47cm 総高 cm	青面金剛塔 寛保三癸巳天 當村 五月吉祥日 講中	
40	文	吉田稲荷沢	寛政3	高さ140cm 幅 34cm 総高 cm	庚申供養塔 維時寛政辛亥龍舎極月穀旦 愛元文五庚申之夏庚申供養塔三屋村 普門寺稲荷澤村講中之寄浄心建立 右之千古幾年歴倒崩亦右三ケ邑講中 之乗願力再造立者也	瑞雲日月
41	文	〃	延宝8	高さ 76cm 幅 29cm 総高 cm	卍 奉造立庚申 皆延宝八庚申歳敬白 十一月五日同行八人	日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
42	青面	一の宮神農原地獄谷	寛政12	高さ111cm 幅 62cm 総高 cm	（青面金剛像） 寛政十二庚申龍舎十二月吉日 當村中	瑞雲日月
43	文	〃	万延元	高さ137cm 幅 82cm 総高 cm	開運一百庚申塔 （裏）萬延元年庚申吉祥日 研齋謹書	
44	文	一の宮光明院	寛政12	高さ141cm 幅 30cm 総高 cm	庚申塔 寛政十二庚申十月吉日 東江源鱗書 下講中	東江源鱗書
45	文	一の宮宇田南組	万延元	高さ146cm 幅 64cm 総高 cm	青面尊 （裏）時萬延庚申天十一月吉祥日 大先達阪命院歓與 敬白	
46	文	一の宮宇田おみ堂	延宝8	高さ 95cm 幅 34cm 総高 cm	南無妙法蓮華經奉庚申天王守護 延寶八年 卯月吉日 同行 七人	
47	文	一の宮坂井	元文5	高さ140cm 幅 118cm 総高 cm	青面金剛供養塔 元文五天 坂井村 庚申十月廿三日 講中	
48	文	富岡	不明	高さ 60cm 幅 24cm 総高 cm	辻庚申供養為二世安楽也 上野甘楽郡潮下村 田中 萩野 新井 下山 （鶏）（猿）	
49	青面	富岡小沢	文化元	高さ 61cm 幅 25cm 総高 cm	（青面尊六臂像） 文化甲子壮月吉日	日月 壮月＝八月
50	文	高瀬内匠	寛政12	高さ 57cm 幅 32cm 総高 cm	猿田彦大神 （裏）寛政十二年庚申十二月吉日	瑞雲日月
51	文	高瀬	元禄10	高さ 65cm 幅 25cm 総高 cm	卍 奉造立庚申 元禄十丁丑季 十月吉日	日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
52	文	高瀬 上高瀬	寛政12	高さ290cm 幅 52cm 総高 cm	庚申供養塔 當村講中 寛政拾二庚申夏卯華月造敬 (裏)大寶元庚申年七月七庚申日御出現 但し當歳まで一千百年也	卯華月は四月
53	百庚申	高瀬 庚申山	寛政12	高さ376cm 幅 64cm 総高 cm	庚申塔 (裏)寛政第十二龍集 庚申夏四月 雲山源陽書	親庚申 計一一五基
54	文	東富岡 原田篠	享保13	高さ153cm 幅 92cm 総高 cm	享保十三戊申年 施主 十一月吉祥日 原村中	日月
55	文	東富岡 下田篠	万延元	高さ206cm 幅 78cm 総高 cm	青面尊 (裏)萬延開元歳次庚申十有一月 釋徳沙門英證謹書	
56	灯	〃	享和3	高さ 44cm 幅 24cm 総高 cm	庚申 (裏)享和三癸亥	石燈籠型
57	幢	東富岡 下田篠 慈寛寺	元禄4	高さ 80cm 幅 67cm 総高150cm	奉建立庚□□ 元禄辛未年十月吉祥日 為二世安楽	石幢型
58	文	東富岡 下田篠	寛政12	高さ210cm 幅 81cm 総高 cm	庚申塔 (裏)維時寛政十有二年星次 庚申穐八月望 井坂一清謹書 田篠村講中	篆書
59	文	東富岡 曽木	寛政12	高さ200cm 幅 47cm 総高 cm	青面金剛尊 (裏)寛政庚申朔月庚申 上宗岐村寸夜舎中	篆書
60	文	〃	天明8	高さ156cm 幅 78cm 総高 cm	庚申塔 (裏)天明八年龍舎秋良辰 開眼沙門忍晩 曽木村講中 舞原衛人書	篆書 無紀？

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
61	百庚申	東富岡 原田篠	文政7	高さ166cm 幅 50cm 総高 cm	青面金剛尊 (裏)文政七年歳甲申三月吉日 奉造立百庚申塔 施主 當村講中	親庚申 計八十七基
62	文	〃	安政4	高さ113cm 幅 64cm 総高 cm	大青面尊護摩 安政四年丁巳三月庚申日 (裏)法主大蔵院英證 三十三年供養 原田篠村中 庚申塔 一〇基 庚申塔(一石に複数)二基 庚申塔 一基 庚申塔 一基 □庚申塔 一基 □申塔 一基 他に紀年銘のないもの □□塔 三基 庚申□ 一四基 庚申 一基 庚申(一石に複数) 一基 庚申□ 一基	

安中市

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
1	文	下秋間吉ケ谷 薬師堂	享保17	高さ 60cm 幅 40cm 総高 90cm	享保十七年壬子天　施主 奉造立庚申供養 十月初六日　村中	
2	百庚申	下秋間後平	寛政10	高さ140cm 幅 33cm 総高190cm	寛政十年天九月吉日 吾邦以庚申之日祭祀青面守夜神者亦 知共始何代何人之所為……云々 （青面尊像） 住桂昌寺慧嵐野衲敬撰 願主高橋林右衛門 高橋太郎衛門 田島源右衛門 田島伊三郎 湯浅甚右衛門	親庚申 他に一〇二基あり
3	文	下秋間八重巻	延宝4	高さ120cm 幅 40cm 総高140cm	延宝四□月日 庚申供養塔	舟型
4	殿	下秋間日向	不明	高さ 75cm 幅 42cm 総高121cm	（二鶏二猿　石殿）	
5	青面	中秋間三角	元禄7	高さ100cm 幅 45cm 総高150cm	元禄七天六月吉日 奉造立庚申供養四十六人　横塚大沢 現世安全二世安楽也	
6	文	中秋間熊の貝	元禄3	高さ122cm 幅 85cm 総高139cm	元禄三年庚午十一月九日 卍 奉造立庚申供養塔（二猿）	板碑形
7	青面	中秋間樫山	天保15	高さ 45cm 幅 28cm 総高 45cm	天保十五辰二月吉日 （青面尊像）	
8	文	東上秋間池尻東神社	元禄4	高さ175cm 幅 30cm 総高188cm	元禄四天辛未 奉造立庚申供養二世安穏（二猿）　施主十七人 十一月　日　敬白	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
9	文	東上秋間長岩 戸塚家墓地	元禄2	高さ125cm 幅 37cm 総高138cm	元禄二巳天 奉造立庚申供養為二世安楽所也（三猿） 七月吉祥日	
10	灯	東上秋間十二様	天保15	高さ110cm 幅 30cm 総高120cm	天保十五年卯長□□□ 庚申供養現等安楽所祈願 玄英造立	灯篭一対
11	殿	東上秋間馬場田島家墓地	天明3	高さ 82cm 幅 32cm 総高110cm	村講中 （側面）明暦元乙丑年十一月吉日 （台座前面に）時天明三龍次癸貳とある	石祠形
12	文	東上秋間久保薬師堂	享保8	高さ 90cm 幅 31cm 総高111cm	享保八年癸卯 庚申供養塔 八月吉祥日	
13	文	西上秋間滝之入山の神入口	万延元	高さ130cm 幅 24cm 総高201cm	万延元申年 庚申塔 十一月吉祥日	
14	文	東上秋間伊豆村鈴木家墓地	万延元	高さ 77cm 幅 55cm 総高 97cm	萬延元年大呂良辰 庚申　西園拝書 栄釋宗印	
15	百庚申	西上秋間貝戸沢百庚申	万延元	高さ132cm 幅 100cm 総高180cm	萬延元龍集庚申 庚申塔　庚申建立発起世話人 松山東宗書　十七人	親庚申 計一二四基あり
16	青面	西上秋間貝戸沢百庚申	宝永3	高さ 78cm 幅 37cm 総高 88cm	宝永三庚申天（ママ） （青面金剛像）（二猿） 七月吉日	
17	文	西上秋間二軒茶屋傘松	元禄16	高さ 75cm 幅 31cm 総高 95cm	元禄十六癸未　施主 奉造立庚申供養（二猿） 八月二十日　五人敬白	日月
18	文	鷺宮五賀観音堂	寛政4	高さ168cm 幅 34cm 総高180cm	寛政四季龍舎壬子 庚申塔　当邑佐藤氏 秋良辰　寛周書	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
19	文	鷺宮 宮本 公民館	享保7	高さ117cm 幅 63cm 総高150cm	享保七壬寅仲春吉辰 奉造立庚申供粮満定所 居村同修講中拾有六人	
20	百庚申	鷺宮 居内 一〇六七	文政12	高さ 54cm 幅 25cm 総高 73cm	文政十二己丑天 庚申塔 下平村 四月日 つ弥女	計九四基 百本の内九十 五体は桑社 拝書とあり
21	文	下間仁田 円明寺	万延元	高さ 90cm 幅 60cm 総高110cm	萬延紀元龍集庚申 庚申塔 冬十一月吉旦 關州処士達拝書	
22	文	中間仁田 中村公会堂 東	不明	高さ130cm 幅 74cm 総高126cm	庚申祭祀碑 裏面「道家之説云人身中三彭虫以毎庚申夜伺……」ほとんど読めず摩滅している	緑泥岩
23	文	中野谷 大門	享保13	高さ 88cm 幅 30cm 総高106cm	享保十三戊申天 青面金剛供養 十一月吉日	
24	文	下間仁田 円明寺	享保11	高さ120cm 幅 28cm 総高140cm	享保十一丙未 奉造立青面金剛塔 十月吉日 下間仁田村中三十三人	
25	百庚申	鷺宮 居内 小金久保	文政12	高さ300cm 幅 55cm 総高330cm	文政十二己丑天 青面金剛 釈妙法童士 勝童士 四月吉日 彭常子上平命氏乎下平 塔台引取人彭光子鷺宮 村中 久昌山主渕道渕叟謹書 信州伊奈禾良郷野口村 石工 向山民平計年	百本の内九 五体は桑社 拝書とあり
26	猿	大谷 神社境内	寛政10	高さ 65cm 幅 35cm 総高 80cm	猿一匹(不言像) 寛政拾年庚申十月十一日	
27	文	岩井(西) 中島家薬師堂	正徳4	高さ 82cm 幅 23cm 総高198cm	維皆正徳二二甲午季 十月吉祥日 当村中 施主九人	二鶏三猿

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
28	文	野殿(北) 宮沢家墓地	宝永5	高さ 95cm 幅 35cm 総高135cm	庚申 宝永五戊子天 日待両供養塔 五月吉日	下段に動物像あり
29	青面	大谷 大谷山福泉寺	宝暦7	高さ145cm 幅 45cm 総高195cm	宝暦七丁丑年 (青面金剛像) 十一月吉日 講中廿八人	
30	文	原市悪途 観乗院内	寛政6	高さ125cm 幅 90cm 総高145cm	寛政六甲寅年 庚申塔 念佛講中 林鐘吉祥日	
31	文	原市中町 真光寺境内	寛文元	高さ111cm 幅 42cm 総高128cm	寛文元十一月吉日 奉造立庚申供養現世安穏二世安楽也	二猿
32	殿	嶺 真福寺	不明	高さ102cm 幅 31cm 総高112cm	「庚申像のある」石殿	
33	殿	原市 立場 茶屋北側 地蔵堂	寛永2	高さ 90cm 幅 50cm 総高100cm	于時寛永二 二月日 庚申供養所願成就	
34	灯	原市八本木 地蔵堂	延宝8	高さ180cm 幅 36cm 総高200cm	(橙龍) 延宝八年十二月吉日 庚申供養悉地攸如意輪像 右趣意者 乃至法界平等和合諸衆敬白	願主田中次兵衛ほか四名
35	文	原市 並木西端	天保4	高さ125cm 幅 42cm 総高146cm	天保四辛未暦 奉造立青面金剛明王二世安楽 九月吉日 原市村 施主 敬白	
36	文	水口毘沙門堂境内	万延元	高さ 98cm 幅 43cm 総高103cm	庚申塔 萬延元年庚申天 九十二翁二徳斉書 願主 当村中	自然石
37	文	下磯部 尾崎前	正徳3	高さ 85cm 幅 60cm 総高 cm	正徳三乙未天 右安中道 奉供養青面金剛塔造立同八一人 十一月吉日 左松井田道	自然石 (碓氷真石) (横)道標

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
38	百庚申	下磯部 尾崎前	寛政4	高さ 90cm 幅 55cm 総高120cm	庚申塔 寛政四壬子年 正月吉日	自然石 親庚申 計五三基 瑞雲日月
39	文	馬場 阿弥陀堂	享和元	高さ 90cm 幅 80cm 総高 95cm	庚申 守夜神 享和元星次辛酉歟一 四月吉祥日　当村講中	自然石 日月
40	文	〃	享保3	高さ110cm 幅 60cm 総高120cm	奉造立庚申供養塔 享保三戌年 十二月十七日	自然石 日月
41	文	東上磯部 薬師堂　田中	延宝8	高さ 94cm 幅 39cm 総高114cm	（2鶏） 奉供養庚申 延宝八 諸願成就所　萩原 十一月吉日 （2猿）	日月
42	文	西上磯部 薬師堂境内　舞台	寛政3	高さ200cm 幅 120cm 総高260cm	庚申塔 寛政三季龍舎辛亥仲冬良辰 城谷峯寛周書	巨大自然石 塔
43	文	西上磯部中村 前信照寺山門	宝永4	高さ101cm 幅 31cm 総高108cm	奉納青面施為二世安楽也 宝永四丁亥□ 九月吉日 （蓮花）	尖頭角柱
44	青面	上磯部新寺 観音堂	元禄9	高さ108cm 幅 52cm 総高140cm	元禄九 （青面金剛六臂像） 十月共二日 （一鶏） （一猿）	舟型光背
45	文	中後閑 三木観音	寛保元	高さ117cm 幅 32cm 総高127cm	寛保元辛酉天三月吉祥日 大青面金剛供養	尖頭角柱 二鶏三猿 日月
46	文	〃	元禄3	高さ 67cm 幅 38cm 総高104cm	奉供養庚申二世安 元禄三□□□ 楽　施主 □□□□□ □□	舟形
47	文	中後閑 山寺城橋東	元禄5	高さ 89cm 幅 39cm 総高112cm	奉供養庚二世安 元禄五年壬申 三月吉祥日　楽 （一猿）	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
48	文	下後閑 芝原	宝永2	高さ 88cm 幅 36cm 総高 98cm	奉造立庚申供養二世安楽祀 宝永二乙天　六月廿五日 萬右エ蔵門 藤左エ門 佐左エ門 德左エ門 辰左エ門 竹左エ門 兵右エ門	はすの花の先に猿が一匹
49	文	下後閑 小井戸	寛政12	高さ115cm 幅 53cm 総高115cm	庚申塔 寛政萬年庚申霜月 右□□ 左□□	埋没し道しるべは読めない日月
50	文	板鼻一丁目 大乗院前	寛政9	高さ212cm 幅 170cm 総高242cm	青面塔（二猿） 寛政九年丁巳 奉二月吉日 石工信陽高遠工藤光助	巨大塔 自然石
51	青面	板鼻一八九五 按昌寺	享保7	高さ 60cm 幅 24cm 総高 cm	享保七年三月吉日 （青面金剛六臂像）	箱形 日月
52	殿	板鼻館石 称名寺入口	寛永2	高さ 76cm 幅 46cm 総高 98cm	梵　庚申供養之 梵 寛永二乙丑年 白敬	石殿塔身前 部破損
53	文	中宿川向下 の淀橋際	寛政7	高さ120cm 幅 36cm 総高101cm	庚申塔 中宿村　寛政七年 守夜講中　一月春	日月
54	文	中宿宿中央 宮街道分岐 点	享和2	高さ 65cm 幅 26cm 総高 80cm	庚申塔 享和二壬戌九月吉日 中宿村講中高龍書 一ノ宮大日街道 世話人木下左衛門	道標
55	文	伝馬町 東町	慶応4	高さ105cm 幅 60cm 総高 cm	庚申塔 鷹巣山住役祐順謹書 当国群馬郡宮原庄□倉□□ 城主金井淡路守天正十八年□ 野尻郷住十世□□□□□□ 慶応四年戊辰□□□□□□	

上州の庚申塔　１１４頁は

個人情報が含まれるため非公開

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
9	文	八崎日向 堀口甚太郎 宅前	安政7	高さ 80cm 幅 31cm 総高221cm	維時安政七庚申如月吉日 石工 信州高遠 渡辺門司郎 恒勝 □□ 講中 狩野傳右エ門（ほか八名略）	
10	殿	小室第一 向原霊園	延宝5	高さ 34cm 幅 30cm 総高 93cm	奉 星野茂右衛門（ほか五名略） 于時延宝五丁巳天 十二月十七日 井上源兵衛（ほか二名略）	石殿 二猿
11	文	〃	寛政12	高さ 130cm 幅 55cm 総高 cm	庚申塔 （裏）寛政十二庚申歳 初冬吉祥日 講中	
12	文	小室第一 上小室生活 共同館	万延元	高さ 120cm 幅 63cm 総高 cm	庚申塔 竹幽谷謹書 松静堂 幽谷 萬延元年 星野佐平 十一月吉日（ほか二四名略） 世八人 上組中	
13	文	小室第二 西丸山 転作促進集 落センター	万延元	高さ 167cm 幅 53cm 総高 cm	奉 庚申塔 萬延改元庚申年十一月吉辰	
14	文	小室第二 東丸山 萩原茂理平 宅庭	延宝7	高さ 75cm 幅 34cm 総高 cm	延宝七年 （六名略） 奉納庚申供養所 己天今月日	二猿
15	像	小室第二 東丸山 萩原家墓地	元禄5	高さ 88cm 幅 42cm 総高 cm	願 奉造立庚申供養之飯 為二世安全之也 奉 （観音像） 結衆 利兵衛 （他七名略） 三月吉日法主敬白	日月

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
16	文	下南室 東谷戸	天明5	高さ 50cm 幅 22cm 総高 82cm	天明五巳六月吉祥日 庚申塔	瑞雲日月 三猿二鶏
17	文	下南室 中谷戸 薬師堂	寛政6	高さ 135cm 幅 50cm 総高210cm	寛政六甲寅年孟秋良辰 庚申塔 講中 拾四人	瑞雲日月
18	文	上箱田 中屋敷 森田福太郎 宅東	寛政12	高さ 235cm 幅 54cm 総高280cm	寛政十二庚申之冬 庚申塔 高崎山彫書臼 講中	
19	文	上箱田 石田沢治宅 前	寛政12	高さ 133cm 幅 120cm 総高 cm	天朝寛政拾弐年当在上久原 向赤羽根 講中拾八人 庚申塔 庚申鴻廣月吉祥良辰	瑞雲日月
20	文	上箱田 甘酒地蔵	寛政12	高さ 100cm 幅 48cm 総高130cm	寛政十二星舎庚申 庚申塔 季秋吉旦建焉 石田忠右衛門（ほか八名略）	瑞雲日月
21	文	箱田 今井藤三宅 前	不明	高さ 70cm 幅 64cm 総高 93cm	願 庚申年塔 石工 江戸勇治郎 講中	
22	文	箱田 木曽三柱神 社	安政5	高さ 115cm 幅 40cm 総高260cm	安政五戊午稔未明庚申日建立 猿田彦大神 八十二老満丹丘敬書臼 発願主 高梨八右衛門 補佐（七名略） 願主 世話（六名略）	瑞雲日月 二七名の人名と地名あり
23	文	箱田 五六橋	寛政12	高さ 175cm 幅 110cm 総高 cm	庚申塔 寛政十二年歳次庚申十二月良辰	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
24	文	下箱田 木曽三社神社	万延元	高さ 97cm 幅 54cm 総高117cm	萬延元年庚申九月之吉□ 庚申 幽谷書㊞㊞ 今井善兵衛兼明建	
25	文	下箱田 観音山今井堂	享保 7	高さ 75cm 幅 29cm 総高 96cm	享保七寅天 奉造立庚申供養 十月吉日 （六名略）	三猿二鶏 日月
26	文	〃	寛政12	高さ 96cm 幅 45cm 総高 cm	庚申塔 寛政十二年庚申年十一月吉日	
27	文	下箱田 今井家墓地 （十二ノ墓）	寛政 3	高さ142cm 幅 28cm 総高167cm	寛政三亥年二月 庚申供養塔 施主 今井伊左衛門 同講中	
28	文	〃	万延元	高さ 64cm 幅 30cm 総高100cm	庚申 萬延元庚申季 九月庚申日 八十五老人丑兵 筆 建立今井男女平兼寿	
29	文	下箱田 玉泉院	元禄 8	高さ 94cm 幅 27cm 総高145cm	為二世安楽 元禄八乙亥年 奉造立庚申供養 九月吉日 塔井石橋施主三十八人 下箱田村	
30	文	〃	享保 3	高さ 92cm 幅 31cm 総高140cm	為二世安楽 享保三戊戌季 奉造立庚申供養 下箱田 月堂 安西 太左衛門 武衛門 半太夫 武兵衛 長衛門	三猿
31	文	真壁下 八幡宮	万延元	高さ173cm 幅 30cm 総高321cm	庚申塔 雪城澤俊郷書 萬延元庚申年十一月吉日	

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
32	文	真壁下 桂昌寺	享和 2	高さ107cm 幅 38cm 総高133cm	庚申塔 享和二年壬戌十月吉日 下講中	
33	宝篋	真壁 愛宕様社務所裏	延宝 8	高さ cm 幅 57cm 総高 57cm	庚申奉供養所 延宝八年庚申□	宝篋印塔の塔身のみ
34	文	真壁 愛宕神社	万延元	高さ173cm 幅 52cm 総高198cm	猿田彦大神 萬延元庚申歳十一月吉日 上両曲輪中	
35	文	真壁 伊勢山	万延元	高さ138cm 幅 70cm 総高 cm	庚申塔 竹幽谷謹書㊞㊞ 萬延元庚申歳八月吉日 中真壁 施主 五十壱人	日月
36	文	真壁新屋敷 薬師様	安政 7	高さ 81cm 幅 29cm 総高 cm	千庚申供養 安政七庚申年 二月吉日 組中	
37	文	〃	享保 9	高さ110cm 幅 58cm 総高 cm	于時享保九歳辰八月吉祥日 奉庚申供養現當安楽所 教□院 勘衛門（ほか二四名略）	
38	文	真壁 味噌野	寛政12	高さ124cm 幅 80cm 総高154cm	庚申塔 寛政十二庚申年孟冬吉祥日 當所中久保連中	
39	面	八崎角谷戸 薬師如来	宝永 7	高さ cm 幅 cm 総高227cm	施主 藤兵衛（ほか六名略） （青面金剛像） 宝永七天 八郎左衛門（ほか七名略） 寅九月廿四日	鈴 縄 剣 蛇をもつ

番	形	所在地	年代	方量	銘文	備考
40	青面	小室第一 上小室生活 共同館	元禄11	高さ 67cm 幅 28cm 総高155cm	元禄十一寅ノ年十八人施主 九月吉日 （青面金剛像） 奉造庚申供養	縄剣蛇 （不明）をもつ 三猿二鶏 日月
41	青面	上箱田 石田沢治宅 前	元禄10	高さ 93cm 幅 45cm 総高145cm	（蓮弁） 村中施主敬白 于時元禄十丁丑年九月吉辰日 （青面金剛像） 奉造立庚申供養成就	弓剣蛇縄 瑞雲日月 三猿
42	青面	上箱田石田 甘酒地蔵	元文元	高さ 65cm 幅 34cm 総高110cm	奉納諸願成就処 （青面金剛像） 元文元丙辰十月吉日	輪宝蛇 三猿二鶏
43	青面	上箱田 町田西 宅東秋小 太郎玉	元禄10	高さ 75cm 幅 45cm 総高127cm	奉造立庚申供養 （青面金剛像） 于時元禄十丁丑天十月吉辰日	剣弓蛇縄 三猿
44	文	分郷八崎 東円山千手 観音	寛政12	高さ133cm 幅 33cm 総高240cm	寛政十二庚申年十二月日當山主 青面金剛塔 吉田善右衛門（ほか五名略）	
45	文	〃	寛政12	高さ 73cm 幅 32cm 総高235cm	寛政十二年龍集庚申 當所 生形五良兵衛 講中（他五名略） 青面金剛王 抄冬十二月吉祥穀旦信州高遠 石工 伊藤政八	裏に 夜叉 とある
46	文	下南室 馬落中谷戸 観音	享保2	高さ cm 幅 cm 総高111cm	享保二丁酉天 奉情青面金剛菩薩 十一月吉日 （三猿）	三猿 一鶏
47	文	上箱田 宅森田中屋 東福敷 太郎	万延元	高さ230cm 幅 62cm 総高285cm	青面金剛 □□大納言□□□□㊞㊞ 萬延元庚申年十二月吉辰 森田仁兵衛（ほか二三名略） 八崎郵石工 渡辺門司郎 常一	瑞雲日月